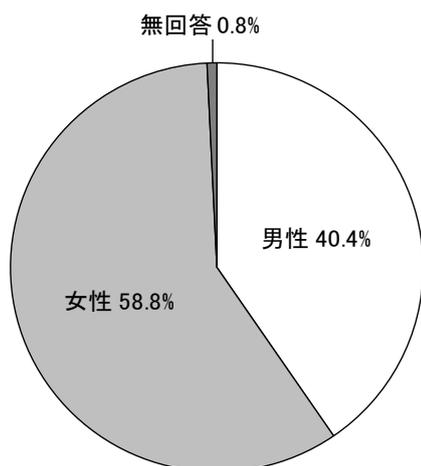


### Ⅲ. 調査結果

#### 1. 回答者について

##### (1) 回答者の性別

(1) 回答者の性別では、「男性」が40.4%、「女性」が58.8%となっています。



項目	度数	構成比
男性	266	40.4%
女性	387	58.8%
無回答	5	0.8%
合計	658	100.0%

##### (2) 回答者の年齢（令和元年11月1日現在）

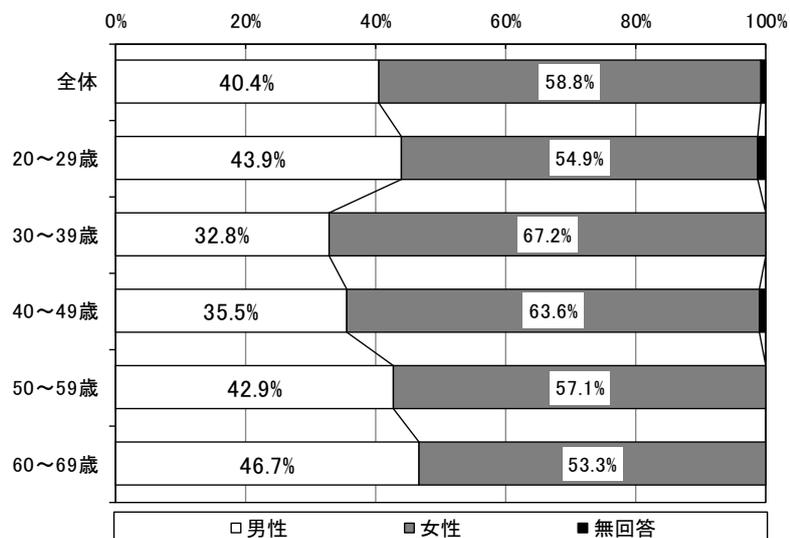
回答者の年齢構成では、「60～69歳」が25.1%と最も多く、次いで「50～59歳」が24.5%、「30～39歳」が19.0%となっています。



項目	度数	構成比
20～29歳	82	12.5%
30～39歳	125	19.0%
40～49歳	121	18.4%
50～59歳	161	24.5%
60～69歳	165	25.1%
無回答	4	0.6%
合計	658	100.0%

## 【回答者の年齢、性別】

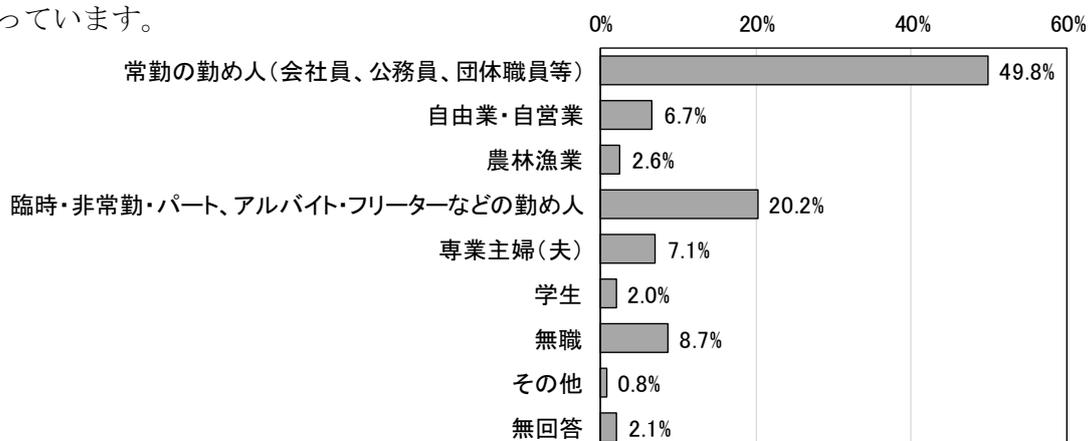
回答者の年齢と性別では、「女性」の『30～49歳』が6割を超えています。



	度数				構成比			
	男性	女性	無回答	合計	男性	女性	無回答	合計
全体	266	387	5	658	40.4%	58.8%	0.8%	100.0%
20～29歳	36	45	1	82	43.9%	54.9%	1.2%	100.0%
30～39歳	41	84	0	125	32.8%	67.2%	0.0%	100.0%
40～49歳	43	77	1	121	35.5%	63.6%	0.8%	100.0%
50～59歳	69	92	0	161	42.9%	57.1%	0.0%	100.0%
60～69歳	77	88	0	165	46.7%	53.3%	0.0%	100.0%

### (3) 回答者の職業

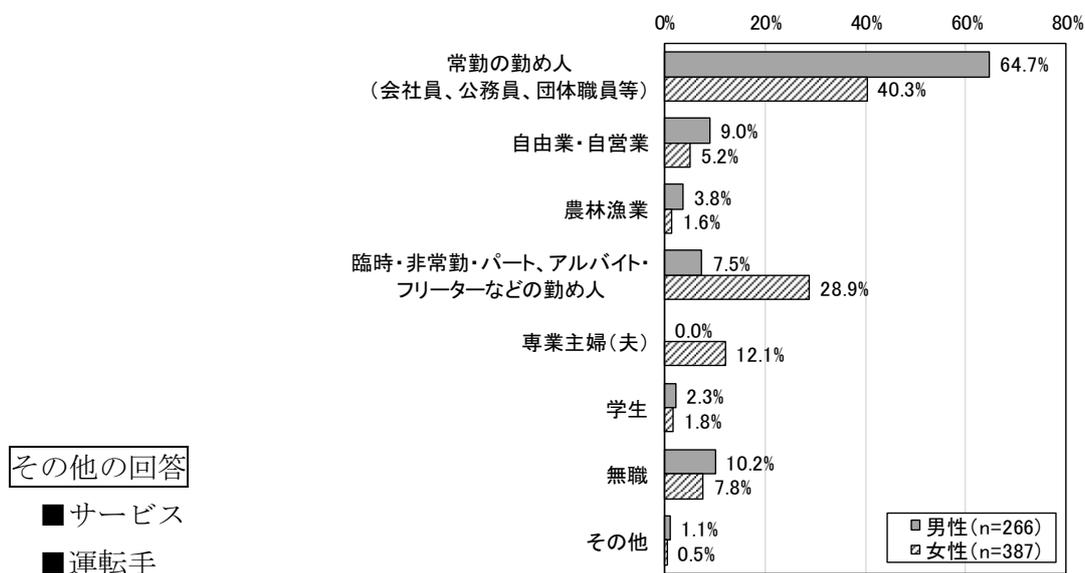
回答者の職業では、「常勤の勤め人（会社員、公務員、団体職員等）」が 49.8%と最も多く、次いで「臨時・非常勤・パート、アルバイト・フリーターなどの勤め人」が 20.2%、「無職」が 8.7%となっています。



項目	度数	構成比
常勤の勤め人(会社員、公務員、団体職員等)	328	49.8%
自由業・自営業	44	6.7%
農林漁業	17	2.6%
臨時・非常勤・パート、アルバイト・フリーターなどの勤め人	133	20.2%
専業主婦(夫)	47	7.1%
学生	13	2.0%
無職	57	8.7%
その他	5	0.8%
無回答	14	2.1%
合計	658	100.0%

### 【回答者の性別と職業】

回答者の性別で比較すると「常勤の勤め人（会社員、公務員、団体職員等）」が 24.4 ポイント女性より男性が多くなっています。また、「臨時・非常勤・パート、アルバイト・フリーターなどの勤め人」が 21.4 ポイント男性より女性が多くなっています。



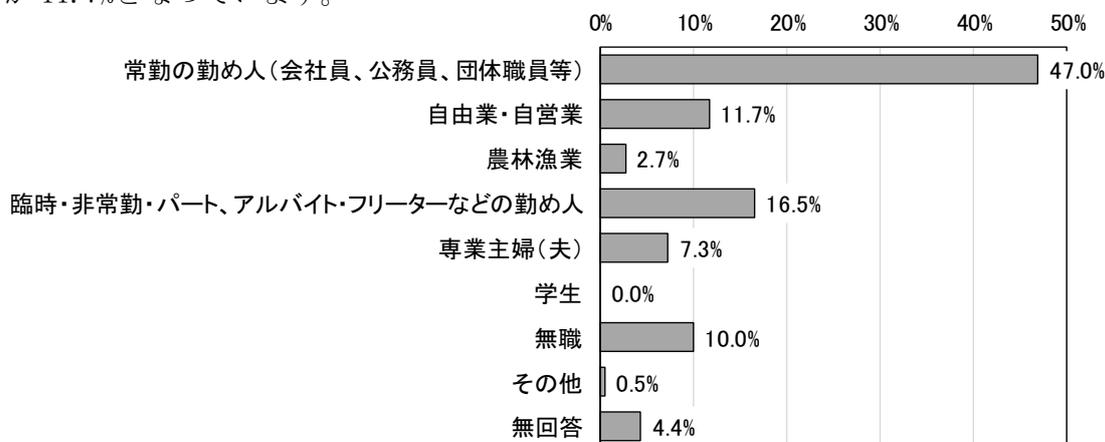
その他の回答

■ サービス

■ 運転手

#### (4) 配偶者の職業

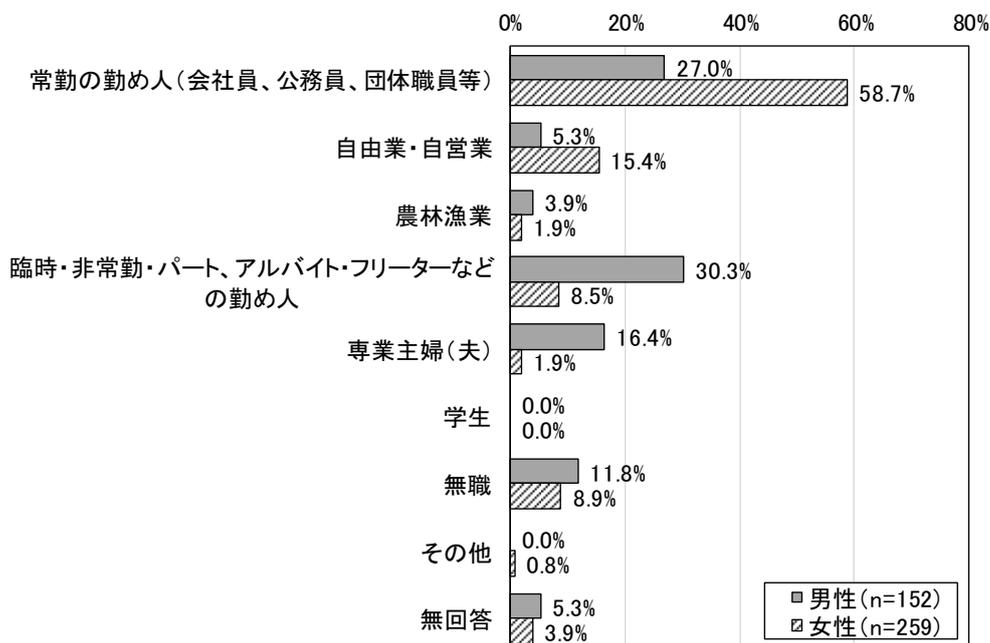
配偶者の職業では、「常勤の勤め人（会社員、公務員、団体職員等）」が 47.0%と最も多く、次いで「臨時・非常勤・パート、アルバイト・フリーターなどの勤め人」が 16.5%、「自由業・自営業」が 11.7%となっています。



項目	度数	構成比
常勤の勤め人(会社員、公務員、団体職員等)	193	47.0%
自由業・自営業	48	11.7%
農林漁業	11	2.7%
臨時・非常勤・パート、アルバイト・フリーターなどの勤め人	68	16.5%
専業主婦(夫)	30	7.3%
学生	0	0.0%
無職	41	10.0%
その他	2	0.5%
無回答	18	4.4%
回答者数	411	100.0%
非該当	247	
合計	658	

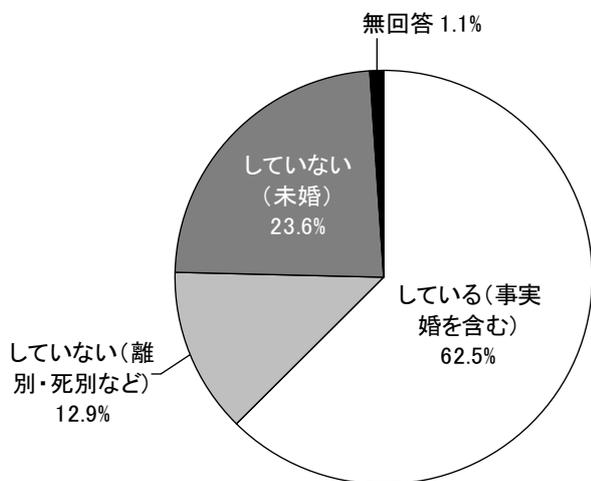
#### 【配偶者の性別と職業】

配偶者の性別で比較すると「常勤の勤め人（会社員、公務員、団体職員等）」が 31.7 ポイント男性より女性が多くなっています。また、「臨時・非常勤・パート、アルバイト・フリーターなどの勤め人」が 21.8 ポイント、「専業主婦（夫）」が 14.5 ポイント女性より男性が多くなっています。



### (5) 結婚の状況

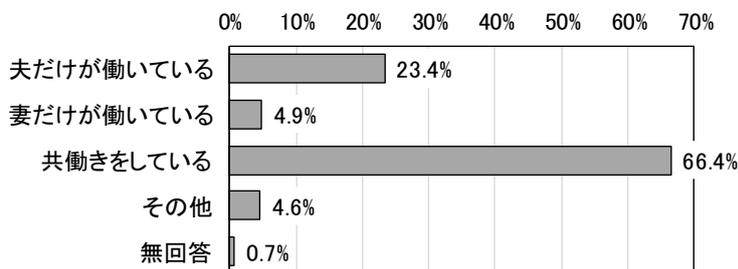
回答者は現在結婚（事実婚を含む）をしているかでは、「している（事実婚を含む）」が 62.5%、「していない（未婚）」が 23.6%、「していない（離別・死別など）」が 12.9%となっています。



項目	度数	構成比
している(事実婚を含む)	411	62.5%
していない(離別・死別など)	85	12.9%
していない(未婚)	155	23.6%
無回答	7	1.1%
合計	658	100.0%

### (6) 共働きの状況

回答者のご夫婦の働き方では、「共働きをしている」が 66.4%と最も多く、次いで「夫だけが働いている」が 23.4%、「妻だけが働いている」が 4.9%となっています。



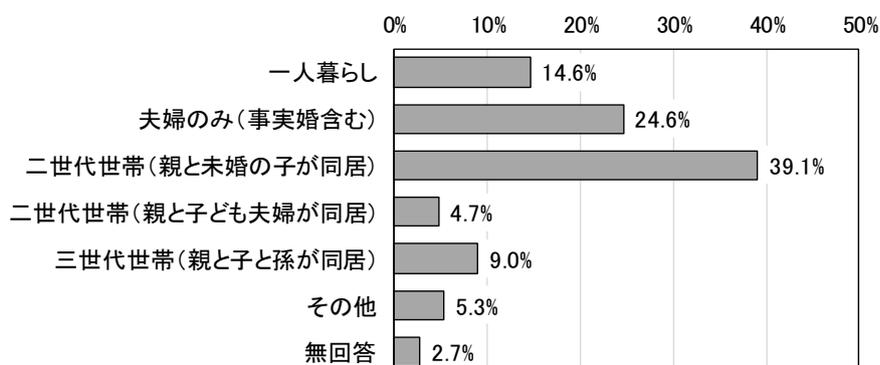
項目	度数	構成比
夫だけが働いている	96	23.4%
妻だけが働いている	20	4.9%
共働きをしている	273	66.4%
その他	19	4.6%
無回答	3	0.7%
回答者数	411	100.0%
非該当	247	
合計	658	

#### その他の回答

- 12月中旬ごろ～4月中旬までは夫は無職
- 共働きの予定
- 妻パート
- 二人とも働いていない（3件）
- 年金生活
- 夫婦も年金暮らし
- 11月20日過ぎ仕事へ
- 現在は共働きで年金生活
- 退職
- 年金
- 夫婦とも退職
- 無職（3件）

## (7) 世帯構成

回答者の世帯構成は、「二世世代世帯（親と未婚の子が同居）」が39.1%と最も多く、次いで「夫婦のみ（事実婚含む）」が24.6%、「一人暮らし」が14.6%となっています。



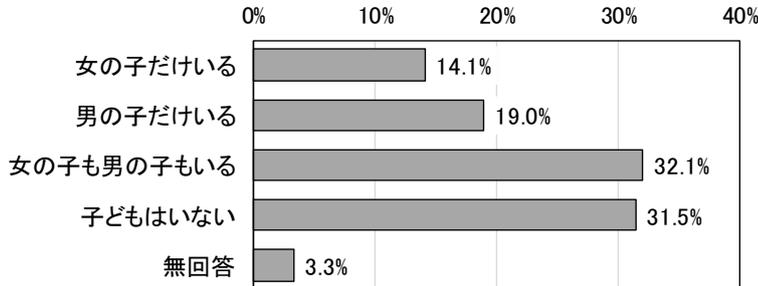
項目	度数	構成比
一人暮らし	96	14.6%
夫婦のみ(事実婚含む)	162	24.6%
二世世代世帯(親と未婚の子が同居)	257	39.1%
二世世代世帯(親と子ども夫婦が同居)	31	4.7%
三世世代世帯(親と子と孫が同居)	59	9.0%
その他	35	5.3%
無回答	18	2.7%
合計	658	100.0%

### その他の回答

- 一世代世帯 (2 件)
- 介護ホーム
- 兄弟
- 現在別居中
- 四世代世帯
- 実家
- 親
- 親 (父、母)、自分
- 親 (母) と子
- 親、子
- 親と子 1 人
- 親と子夫婦と未婚の子が同居
- 親と同居
- 親と本人 (2 件)
- 祖父母親と子ども
- 祖母、親、子
- 大学近くのアパートで 1 人暮らし、自立はしてない
- 弟と同居
- 弟家族と同居
- 夫婦と子
- 夫婦と子 (一人)
- 夫婦と次男、長女
- 夫婦と夫の親が同居
- 夫婦と母親 3 人
- 母子 (3 件)
- 妹

### (8) 子どもの有無

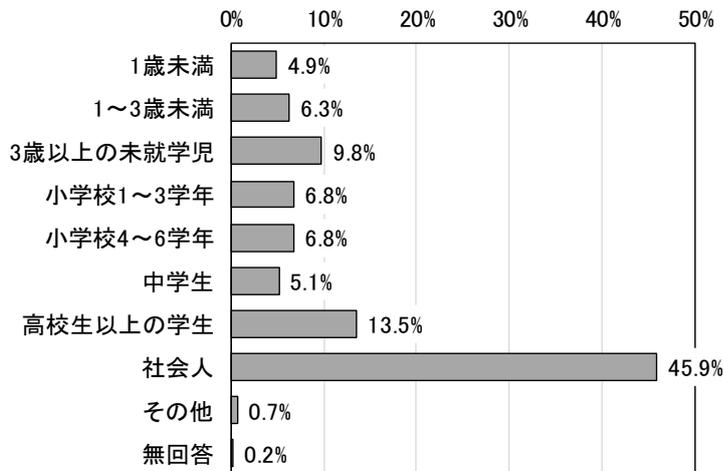
回答者はお子さんがいるかでは、「女の子も男の子もいる」が32.1%と最も多く、次いで「男の子だけいる」が19.0%、「女の子だけいる」が14.1%となっています。また、「子どもはいない」が31.5%となっています。



項目	度数	構成比
女の子だけいる	93	14.1%
男の子だけいる	125	19.0%
女の子も男の子もいる	211	32.1%
子どもはいない	207	31.5%
無回答	22	3.3%
合計	658	100.0%

### (9) 末子の年齢（令和元年11月1日現在）

回答者の一番下のお子さんでは、「社会人」が45.9%と最も多く、次いで「高校生以上の学生」が13.5%、「3歳以上の未就学児」が9.8%となっています。



項目	度数	構成比
1歳未満	21	4.9%
1～3歳未満	27	6.3%
3歳以上の未就学児	42	9.8%
小学校1～3学年	29	6.8%
小学校4～6学年	29	6.8%
中学生	22	5.1%
高校生以上の学生	58	13.5%
社会人	197	45.9%
その他	3	0.7%
無回答	1	0.2%
回答者数	429	100.0%
非該当	229	
合計	658	

### その他の回答

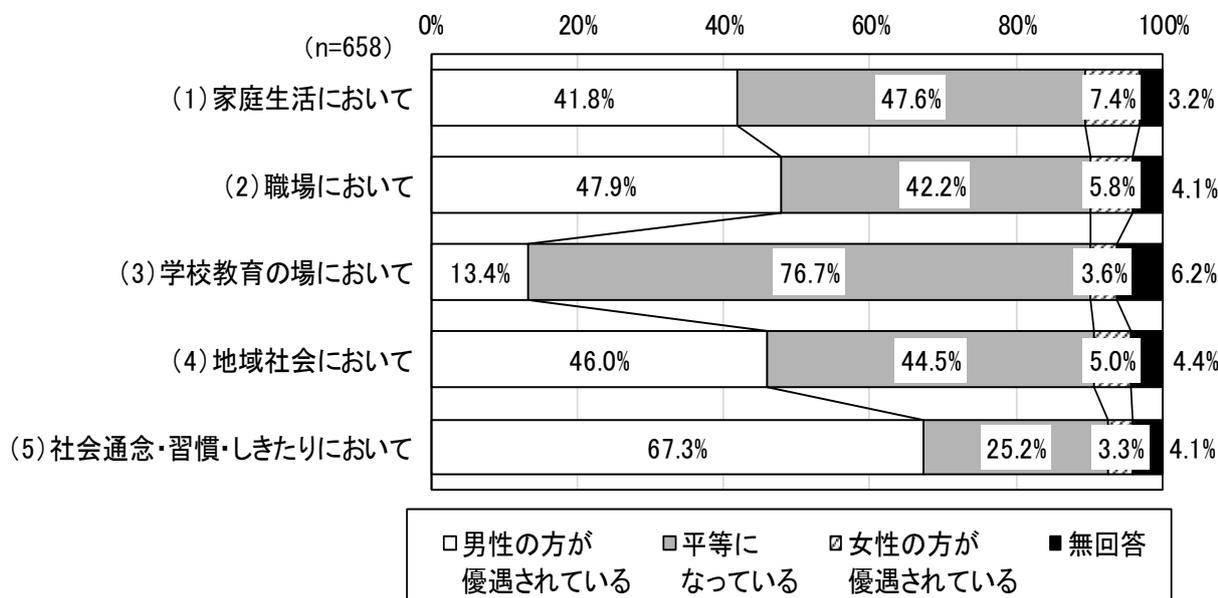
■一人っ子（長男）

## 2. 男女平等について

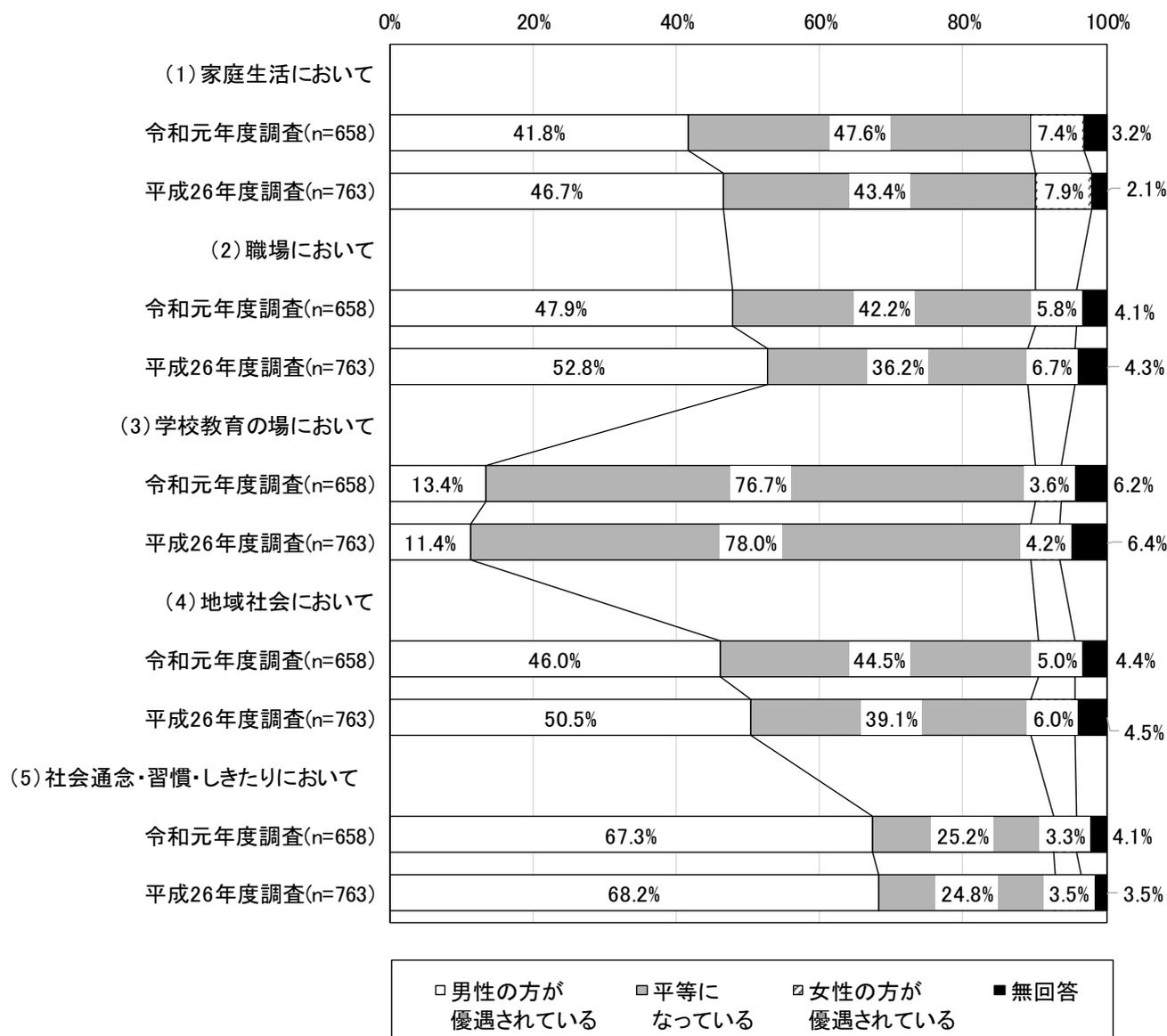
問1 あなたは、次の(1)から(5)までのような分野で、男女の地位は平等になっていると思いますか。それぞれについて、あなたの気持ちに最も近いものを選んでください。(それぞれ1つに○)

「男性の方が優遇されている」の回答が多い項目では、「(5) 社会通念・習慣・しきたりにおいて」が約7割となっています。「平等になっている」の回答が多い項目では、「(3) 学校教育の場において」が約8割となっています。「女性の方が優遇されている」の回答が多い項目では、「(1) 家庭生活において」がやや多くなっています。

前回調査と比較すると「(3) 学校教育の場において」以外の項目で「平等になっている」が今回調査で多くなっています。



前回調査と比較すると「(3) 学校教育の場において」以外の項目で「平等になっている」が今回調査で多くなっています。



◇（１）家庭生活において◇

【属性別】

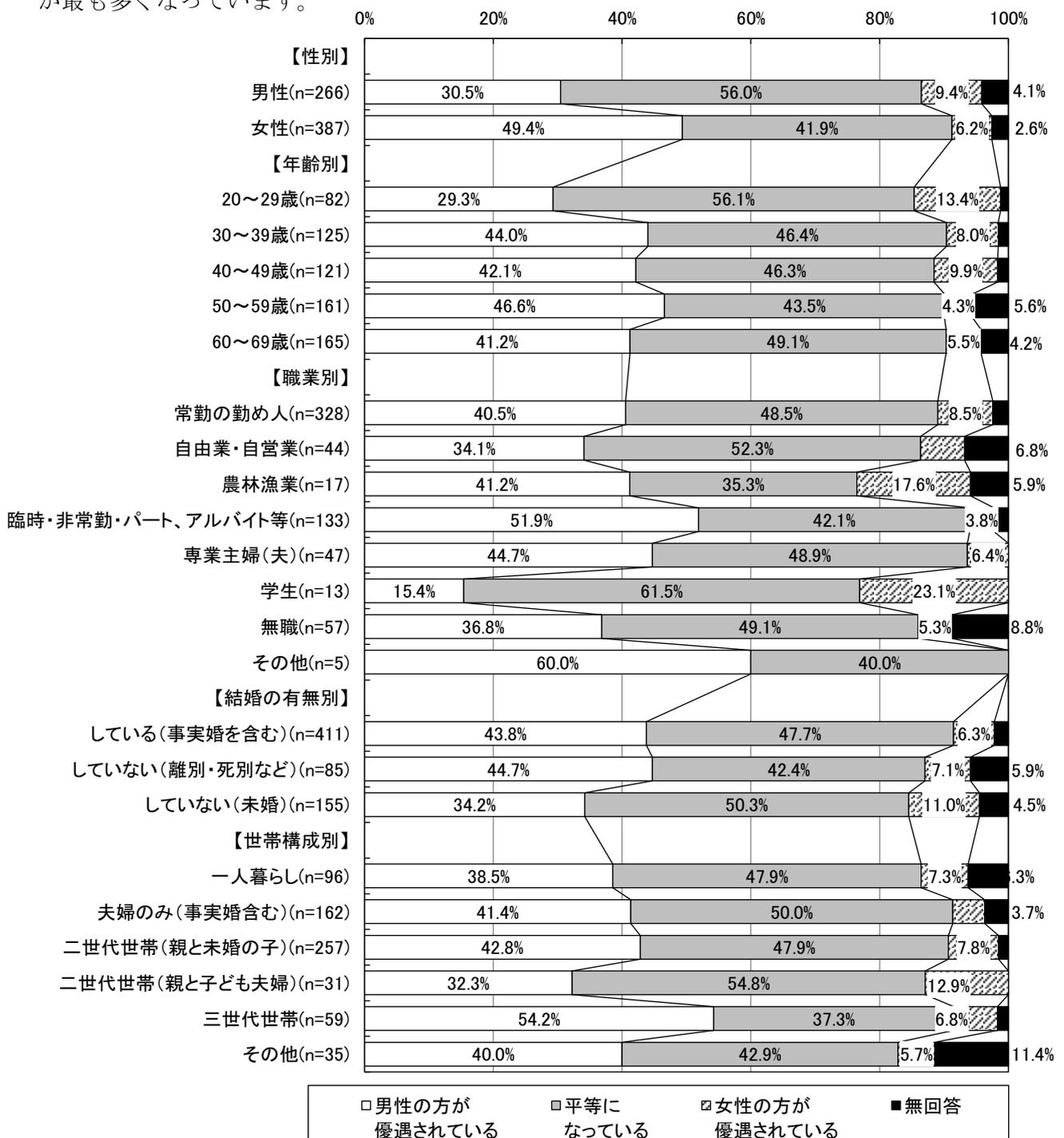
性別で比較すると「男性の方が優遇されている」では女性が18.9ポイント多く、「平等になっている」では、男性が14.1ポイント今回調査で多くなっています。

年齢別で比較すると「男性の方が優遇されている」では30歳以上が4割を超えています。「平等になっている」「女性の方が優遇されている」では「20～29歳」が最も多くなっています。

職業別で比較すると「平等になっている」「女性の方が優遇されている」では「学生」が最も多くなっています。

結婚の有無別で比較すると「平等になっている」では「していない(未婚)」が最も多くなっています。

世帯構成別で比較すると「男性の方が優遇されている」では「三世帯世帯(親と子と孫が同居)」が最も多くなっています。



◇（２）職場において◇

【属性別】

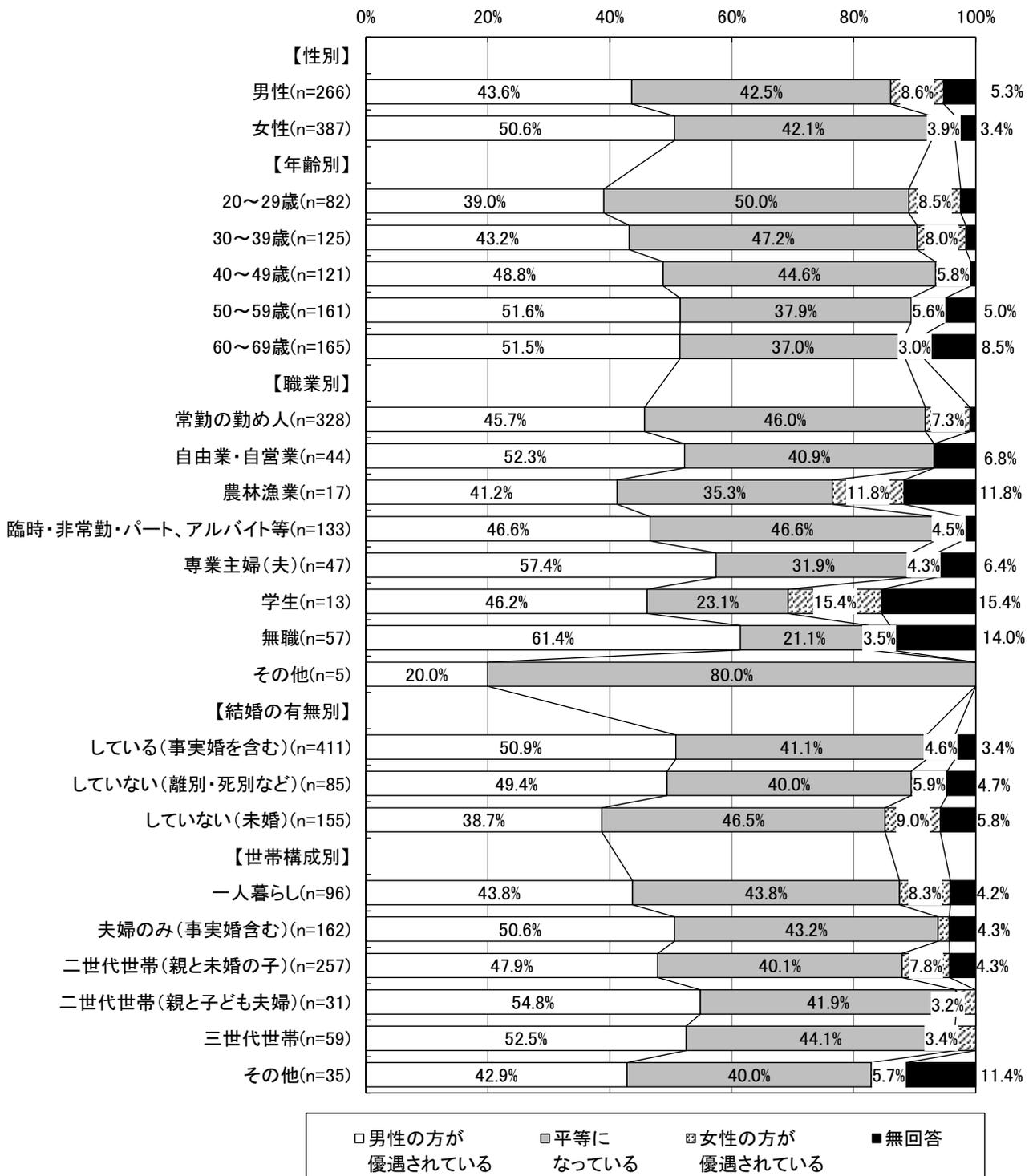
性別で比較すると「男性の方が優遇されている」では男性よりも女性が 7.0 ポイント、「女性の方が優遇されている」では、女性よりも男性が 4.7 ポイント多くなっています。

年齢別で比較すると「男性の方が優遇されている」では『50 歳以上』で 5 割となっています。

職業別で比較すると「男性の方が優遇されている」では「無職」が 6 割を超えています。

結婚の有無別で比較すると「男性の方が優遇されている」では「している（事実婚を含む）」「していない（離別・死別など）」で 5 割となっています。

世帯構成別で比較すると「男性の方が優遇されている」では「二世帯世帯（親と子ども夫婦が同居）」が多くなっています。



### ◇（３）学校教育の場において◇

#### 【属性別】

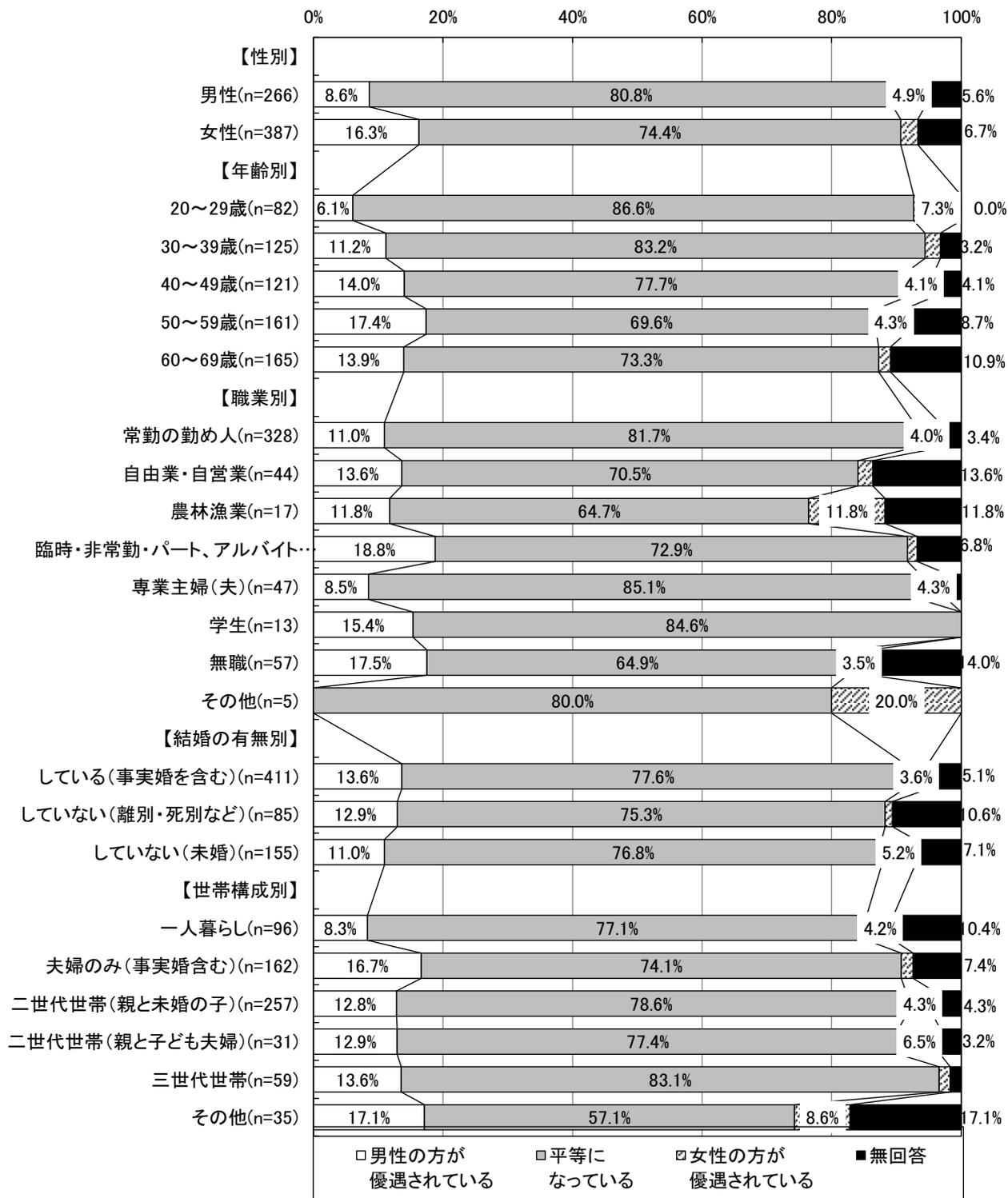
性別で比較すると「男性の方が優遇されている」では男性よりも女性が7.7ポイント、「平等になっている」では、女性よりも男性が6.4ポイント今回調査で多くなっています。

年齢別で比較すると「平等になっている」では『20～39歳』で8割を超えています。

職業別で比較すると「男性の方が優遇されている」では「臨時・非常勤・パート、アルバイト・フリーターなどの勤め人」が最も多く次いで「無職」「学生」となっています。

結婚の有無で比較すると大きな差はありませんでした。

世帯構成別で比較すると「男性の方が優遇されている」では「夫婦のみ」が多くなっています。



◇（４）地域社会において◇

【属性別】

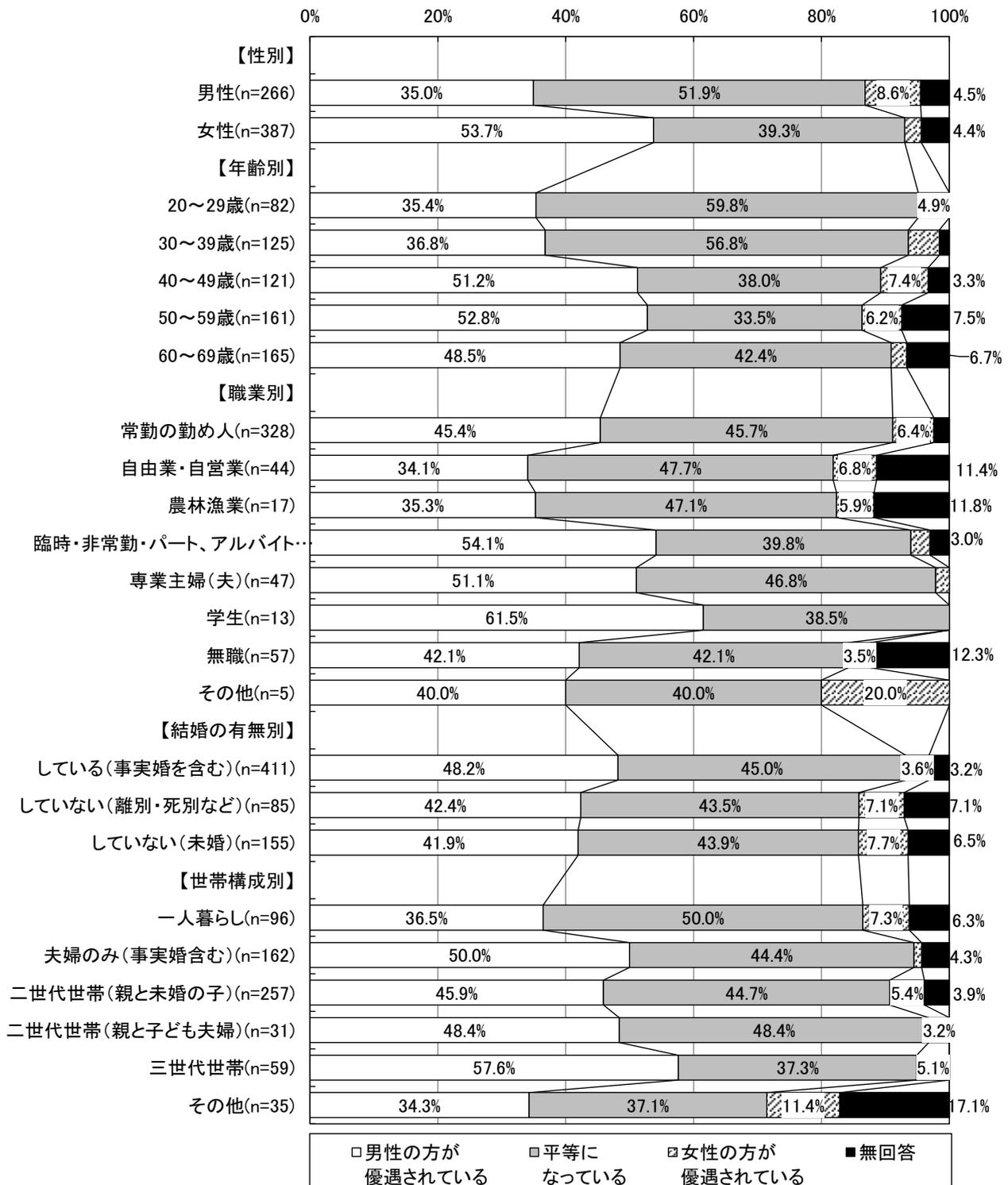
性別で比較すると「男性の方が優遇されている」では男性よりも女性が18.7ポイント、「女性の方が優遇されている」では、女性よりも男性が6.0ポイント今回調査で多くなっています。

年齢別で比較すると「男性の方が優遇されている」では『40歳以上』で5割となっています。

職業別で比較すると「男性の方が優遇されている」では「学生」が6割を超えています。

結婚の有無別で比較すると「女性の方が優遇されている」では「していない（離別・死別など）」「していない」が多くなっています。

世帯構成別で比較すると「平等になっている」では「一人暮らし」が5割を超えています。



◇（５）社会通念・習慣・しきたりにおいて ◇

【属性別】

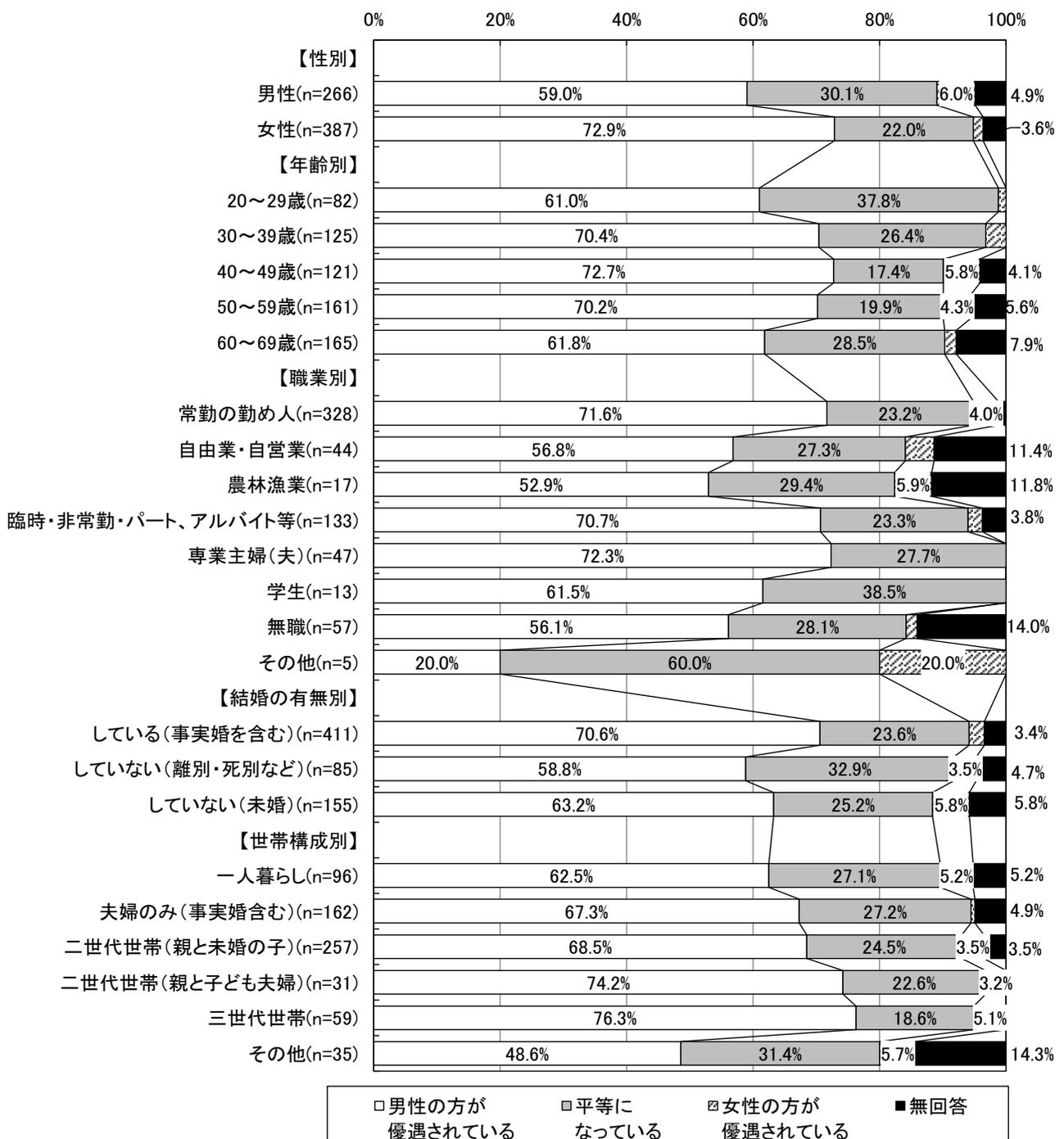
性別で比較すると「男性の方が優遇されている」では男性よりも女性が13.9ポイント、「女性の方が優遇されている」では、女性よりも男性が4.4ポイント今回調査で多くなっています。

年齢別で比較すると「男性の方が優遇されている」では『30～59歳』で7割を超えています。

職業別で比較すると「男性の方が優遇されている」では「常勤の勤め人（会社員、公務員、団体職員等）」「臨時・非常勤・パート、アルバイト・フリーターなどの勤め人」「専業主婦（夫）」が7割を超えています。

結婚の有無別で比較すると「男性の方が優遇されている」では「している（事実婚を含む）」が最も多くなっています。

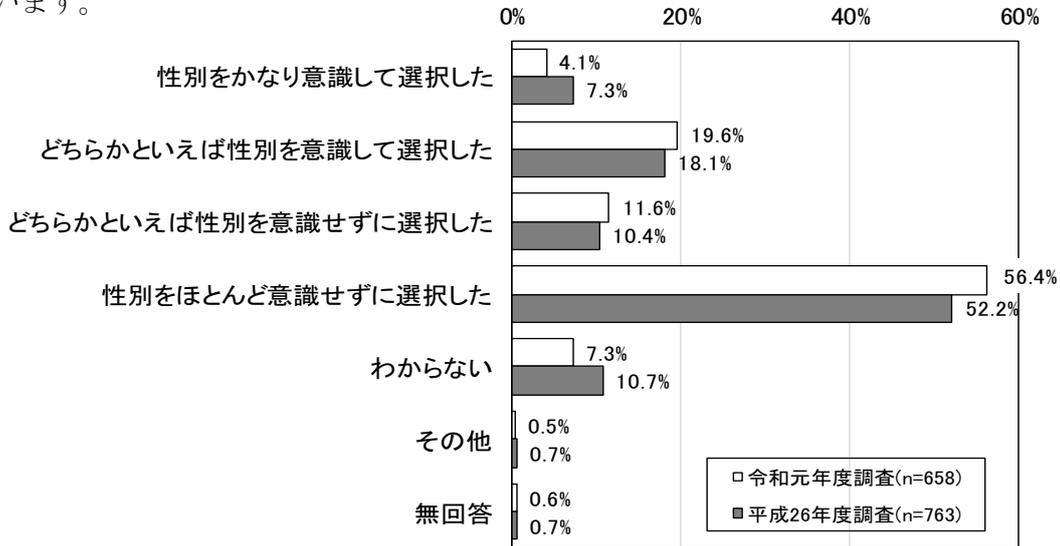
世帯構成別で比較すると「男性の方が優遇されている」では「二世帯世帯（親と子ども夫婦が同居）」「三世帯世帯（親と子と孫が同居）」が7割を超えています。



**問2 あなたは進路や職業を選択する際に、性別を意識しましたか。(1つだけに○)**

進路や職業を選択する際に、性別を意識するかでは、「性別をほとんど意識せずに選択した」が56.4%と最も多く、次いで「どちらかといえば性別を意識して選択した」が19.6%、「どちらかといえば性別を意識せずに選択した」が11.6%となっています。

前回調査と比較すると「性別をほとんど意識せずに選択した」が今回調査で4.2ポイント多くなっています。



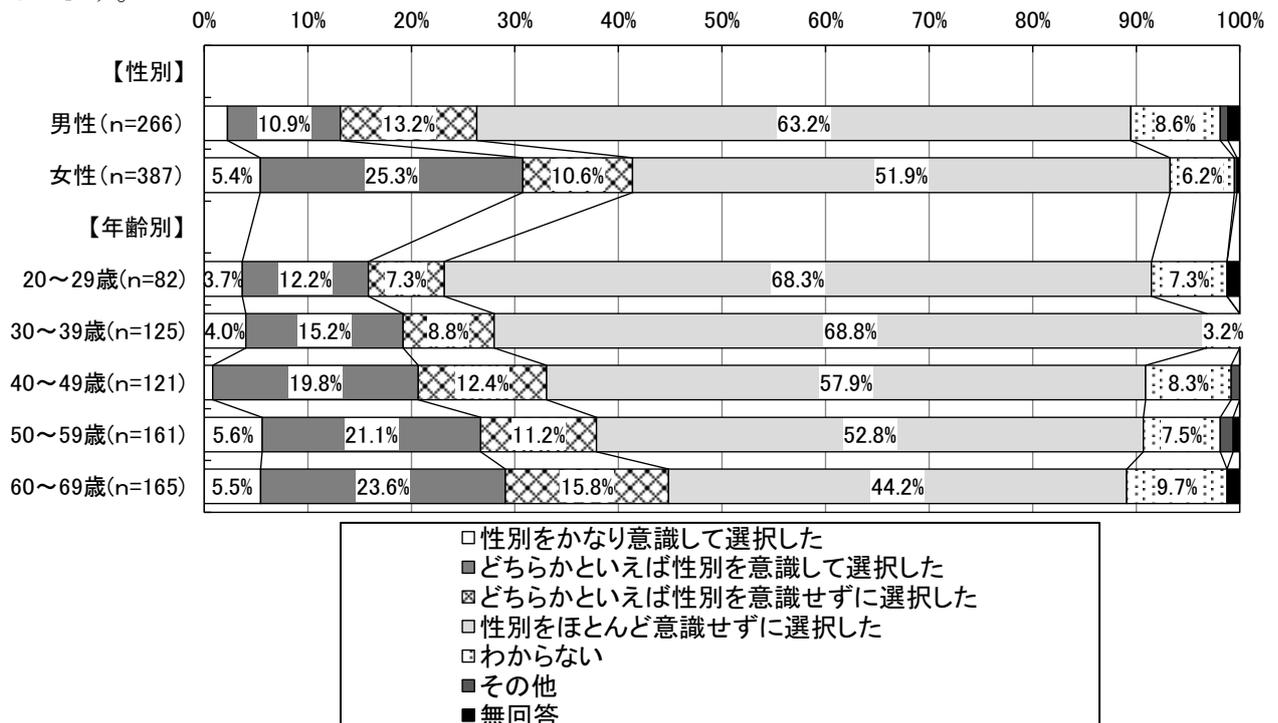
**その他の回答**

- 親が女は大学に行かなくてもいい等男尊女卑的考えをもっていた
- まったく意識せずに選択した

**【性別・年齢別】**

性別で比較すると、「どちらかといえば性別を意識して選択した」は男性よりも女性の割合が多く、「性別をほとんど意識せずに選択した」では女性より男性の割合が多くなっています。

年齢別では「どちらかといえば性別を意識して選択した」では、年齢が上がるに従い多くなっています。

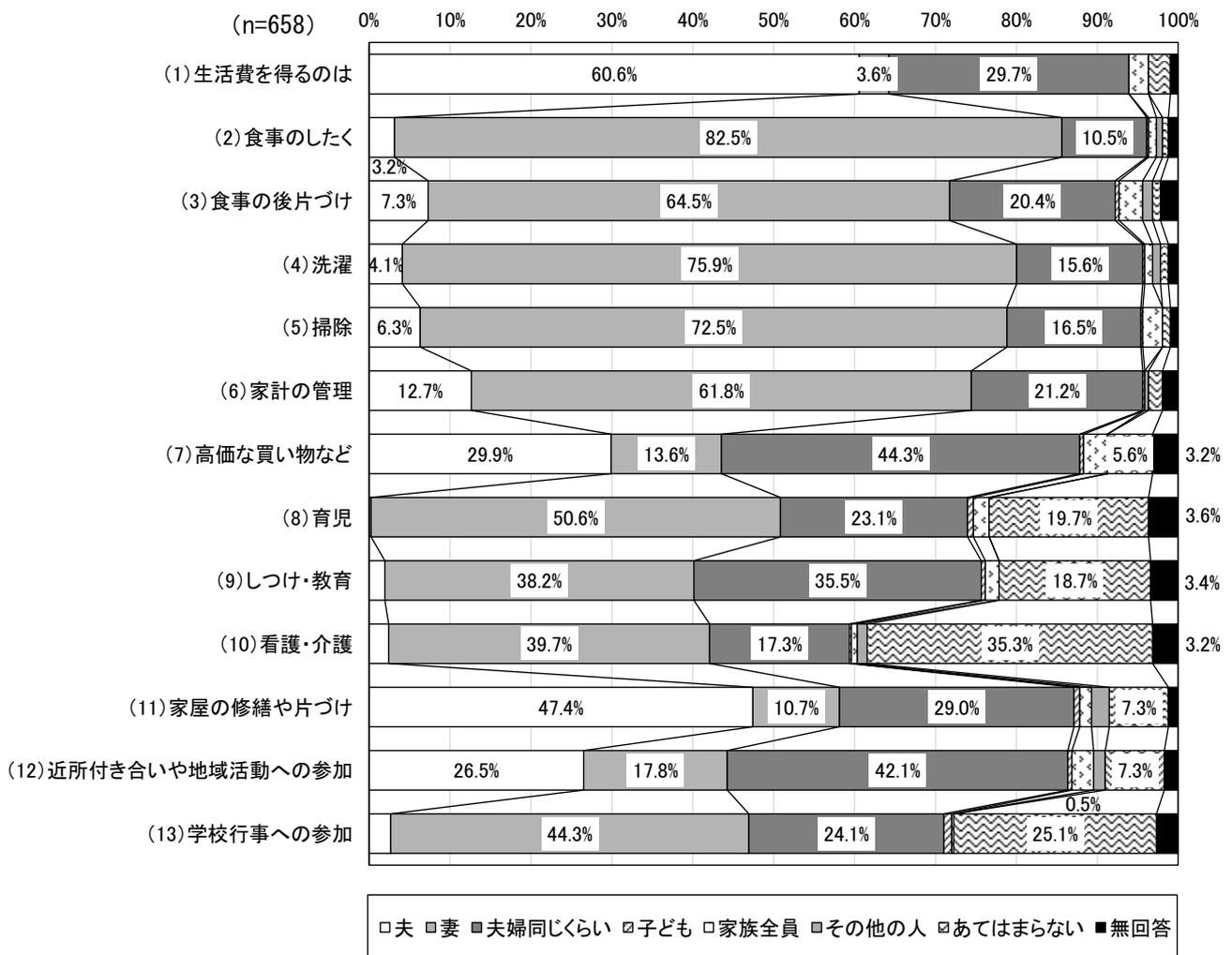


### 3. 家庭生活について

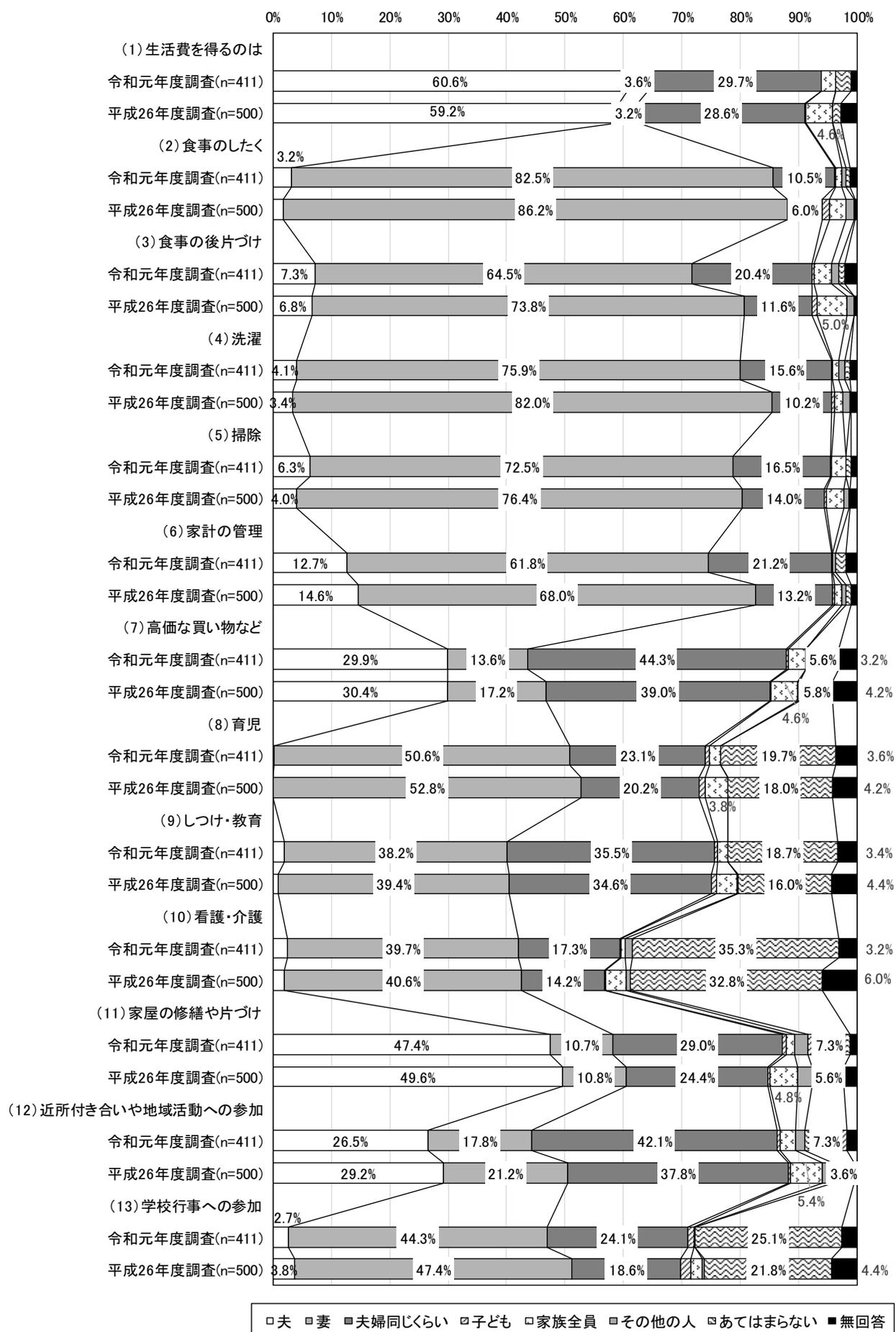
問3【現在、結婚（事実婚を含む）されている方に伺います】

あなたの家庭では、「(1) 生活費を得るのは」から「(13) 学校行事への参加」について、主にだれが役割を分担していますか。（それぞれ1つに○）

あなたの家庭での役割分担では、「夫」の回答が多い項目では、「(1) 生活費を得るのは」が最も多く、次いで「(11) 家屋の修繕や片づけ」、「(7) 高価な買い物など」となっています。「妻」の回答が多い項目では、「(2) 食事のしたく」が最も多く、次いで「(4) 洗濯」、「(5) 掃除」となっています。「夫婦同じくらい」の回答が多い項目では、「(7) 高価な買い物など」となっています。また、「あてはまらない」の回答が多い項目では、「(10) 看護・介護」が最も多く、次いで「(13) 学校行事への参加」となっています。



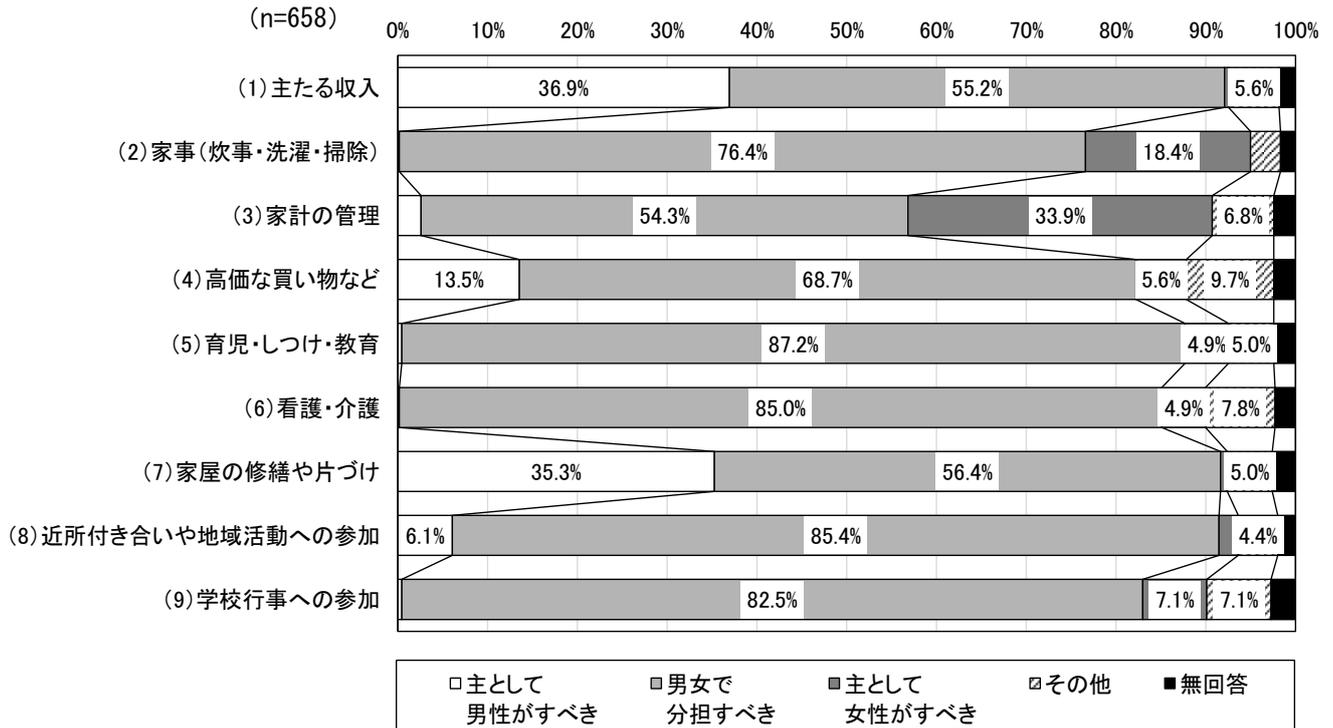
前回調査と比較すると「(3) 食事の後片づけ」「(4) 洗濯」「(6) 家計の管理」が「妻」という回答が少なくなり、「夫婦同じくらい」多くなっています。



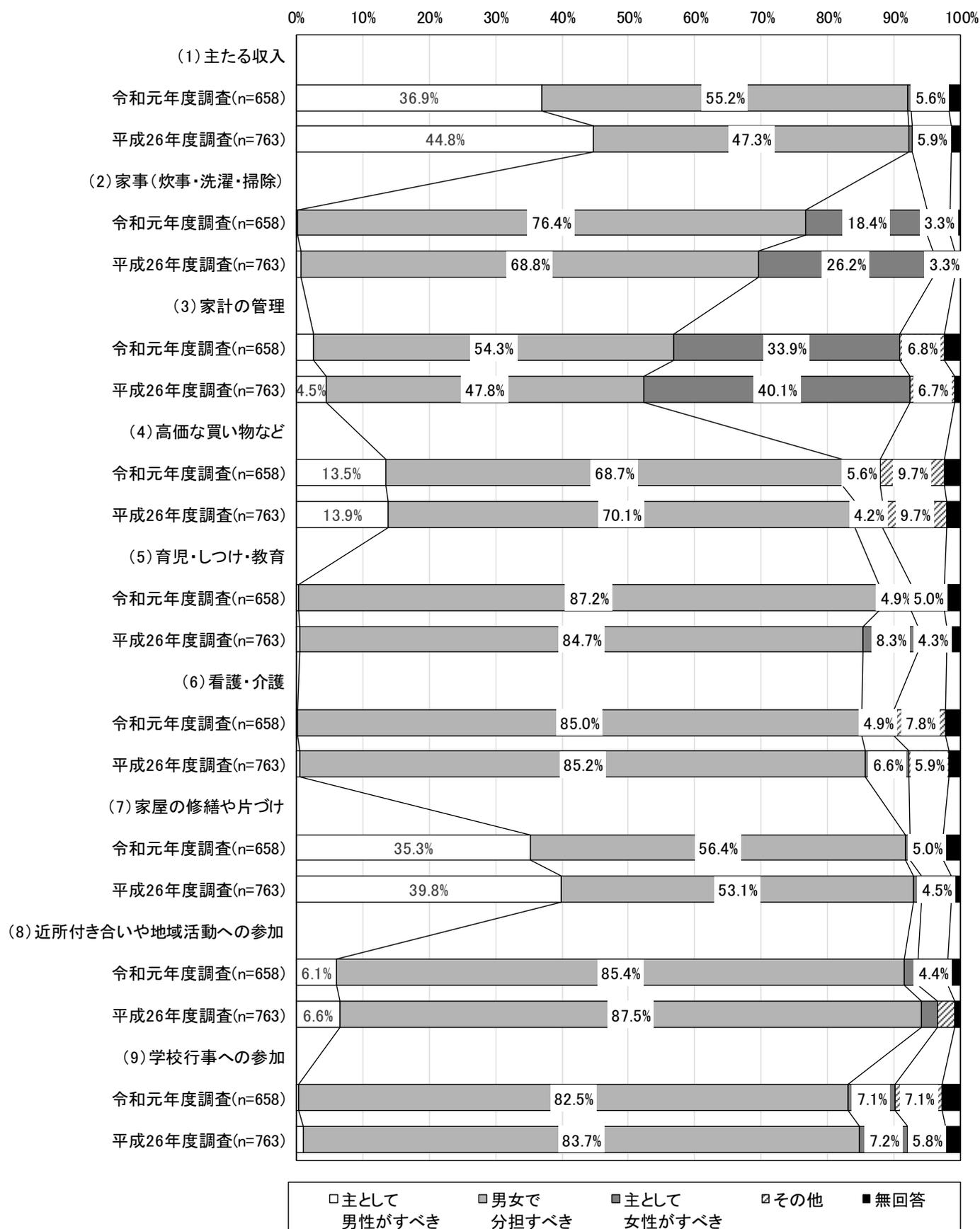
問4【全員の方に伺います】

あなたは、次の家庭内の役割について、どのように分担するのが理想だと思いますか。  
(それぞれ1つに○)

家庭内の役割では、「主として男性がすべき」の回答が多い項目では、「(1) 主たる収入」、「(7) 家屋の修繕や片づけ」が3割を超えています。「男女で分担すべき」の回答が多い項目では、「(5) 育児・しつけ・教育」、「(6) 看護・介護」、「(8) 近所付き合いや地域活動への参加」、「(9) 学校行事への参加」が8割を超えています。「主として女性がすべき」の回答が多い項目では、「(3) 家計の管理」が最も多く、次いで「(2) 家事(炊事・洗濯・掃除)」となっています。



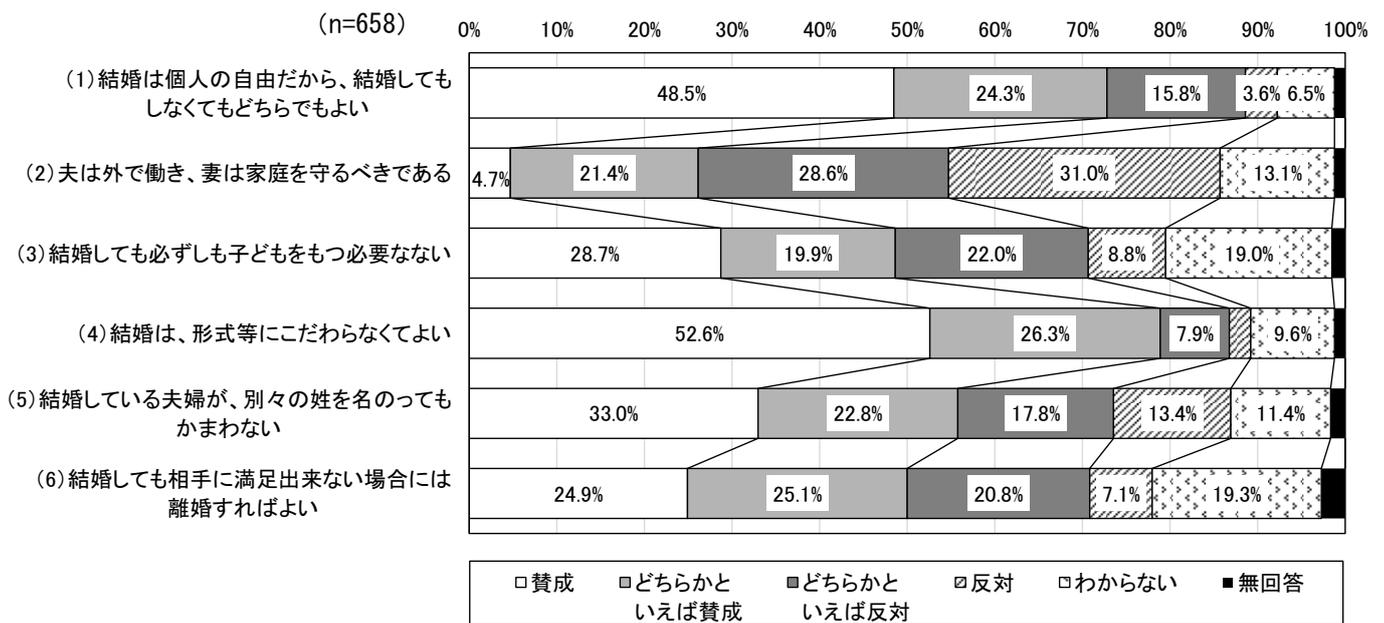
前回調査と比較すると「(1) 主たる収入」で、「主として男性がすべき」が今回調査で少なくなり、「男女で分担すべき」が多くなっています。また、「(2) 家事（炊事・洗濯・掃除）」「(3) 家計の管理」で、「主として女性がすべき」が今回調査で少なくなり、「男女で分担すべき」が多くなっています。



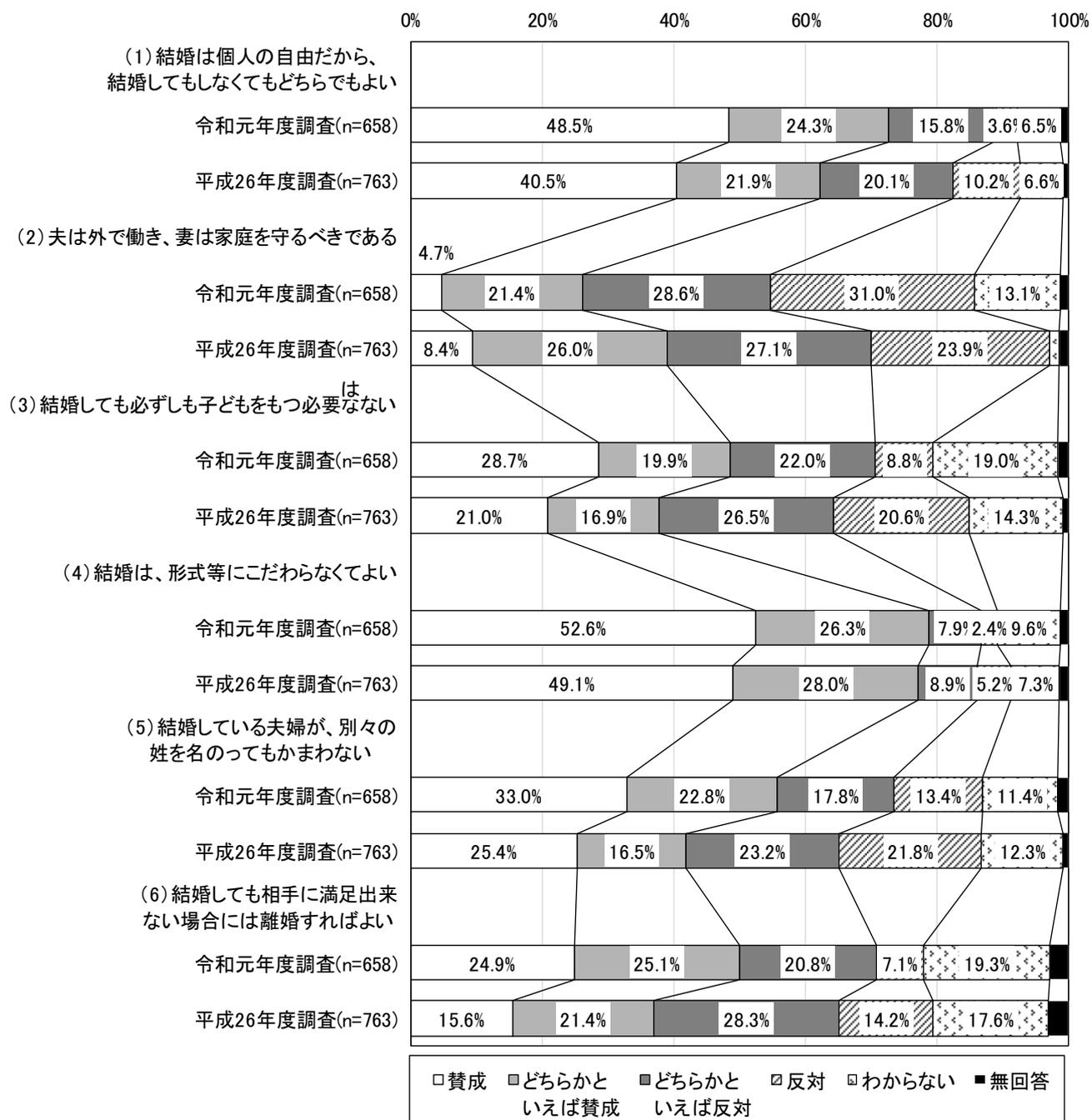
問5 あなたは、結婚や家庭観についてどう考えますか。次の「(1) 結婚は個人の自由だから、結婚してもしなくてもどちらでもよい」～「(6) 結婚しても相手に満足出来ない場合には離婚すればよい」のそれぞれについてあなたの考えに近いものを選んでください。(それぞれ1つに○)

結婚や家庭観について思うことでは、「賛成」「どちらかといえば賛成」を合わせた『賛成』が多い項目では、「(4) 結婚は、形式等にこだわらなくてよい」が最も多く、次いで「(1) 結婚は個人の自由だから、結婚してもしなくてもどちらでもよい」となっています。

また、「どちらかといえば反対」「反対」を合わせた『反対』が多い項目では、「(2) 夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」が約6割となっています。



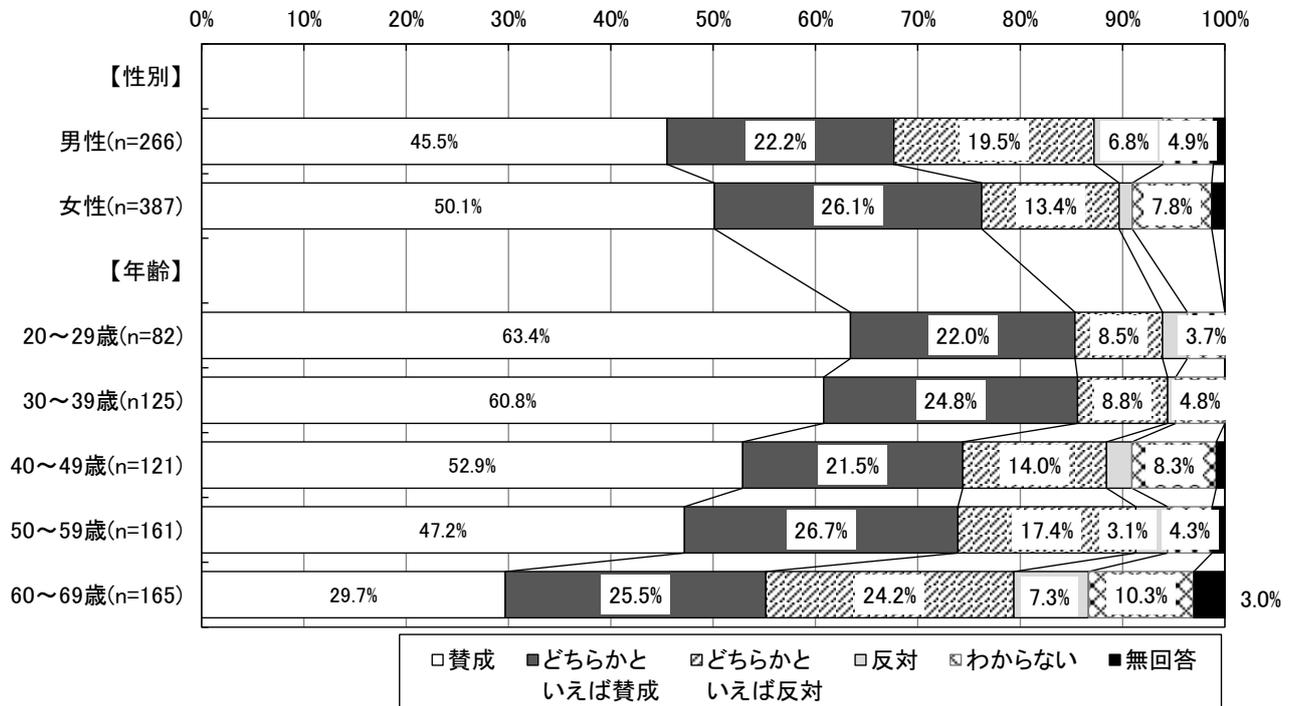
前回調査と比較すると「(1) 結婚は個人の自由だから、結婚してもしなくてもどちらでもよい」「(3) 結婚しても必ずしも子どもをもつ必要はない」「(5) 結婚している夫婦が、別々の姓を名のってもかまわない」「(6) 結婚しても相手に満足出来ない場合には離婚すればよい」で、『賛成』が今回調査で10ポイント以上多く、『反対』が少なくなっています。また、「(2) 夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」で、『反対』が今回調査で多くなり、『賛成』が少なくなっています。



◇（１）結婚は個人の自由だから、結婚してもしなくてもどちらでもよい◇

【属性別】

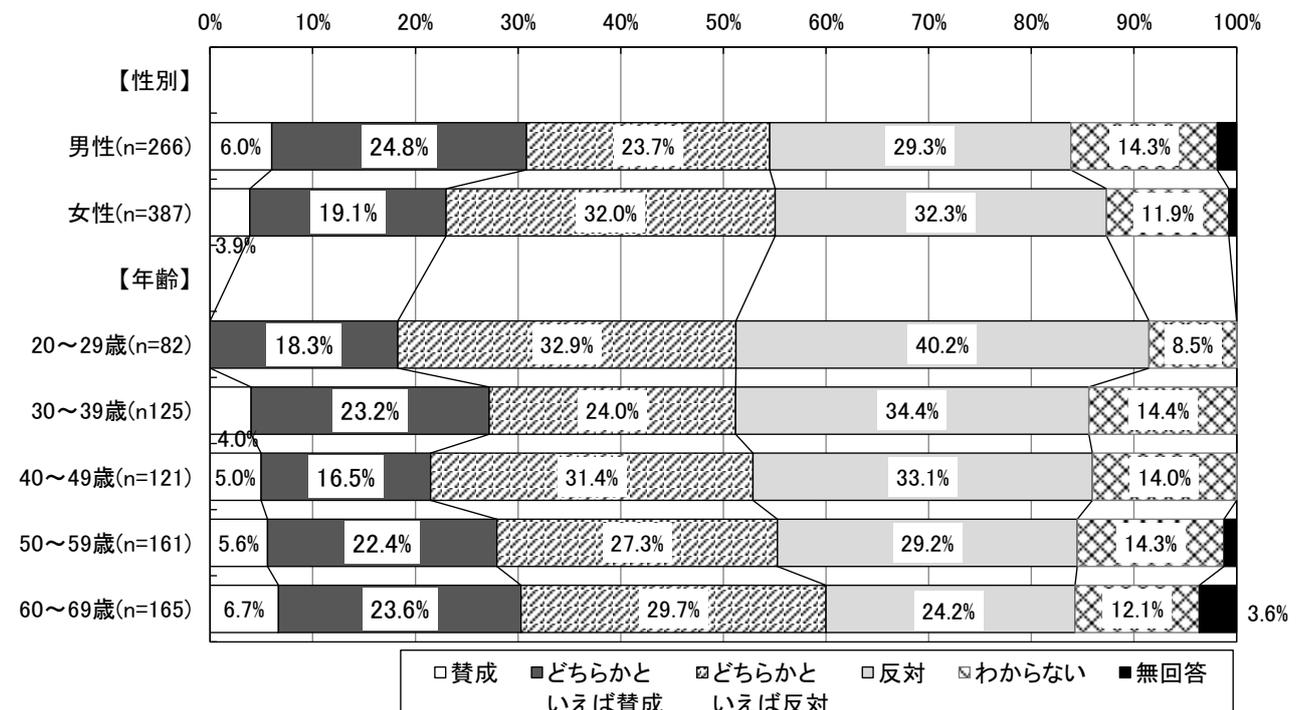
性別で比較すると、『賛成』では、男性よりも女性が8.5ポイント多くなっています。  
 年齢別で比較すると、『賛成』では、年代が若くなるに従い多くなっています。



◇（２）夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである◇

【属性別】

性別で比較すると、『賛成』では、女性よりも男性が7.8ポイント多くなっています。  
 年齢別で比較すると、『賛成』では、「60～69歳」が最も多く、次いで「50～59歳」「30～39歳」となっています。

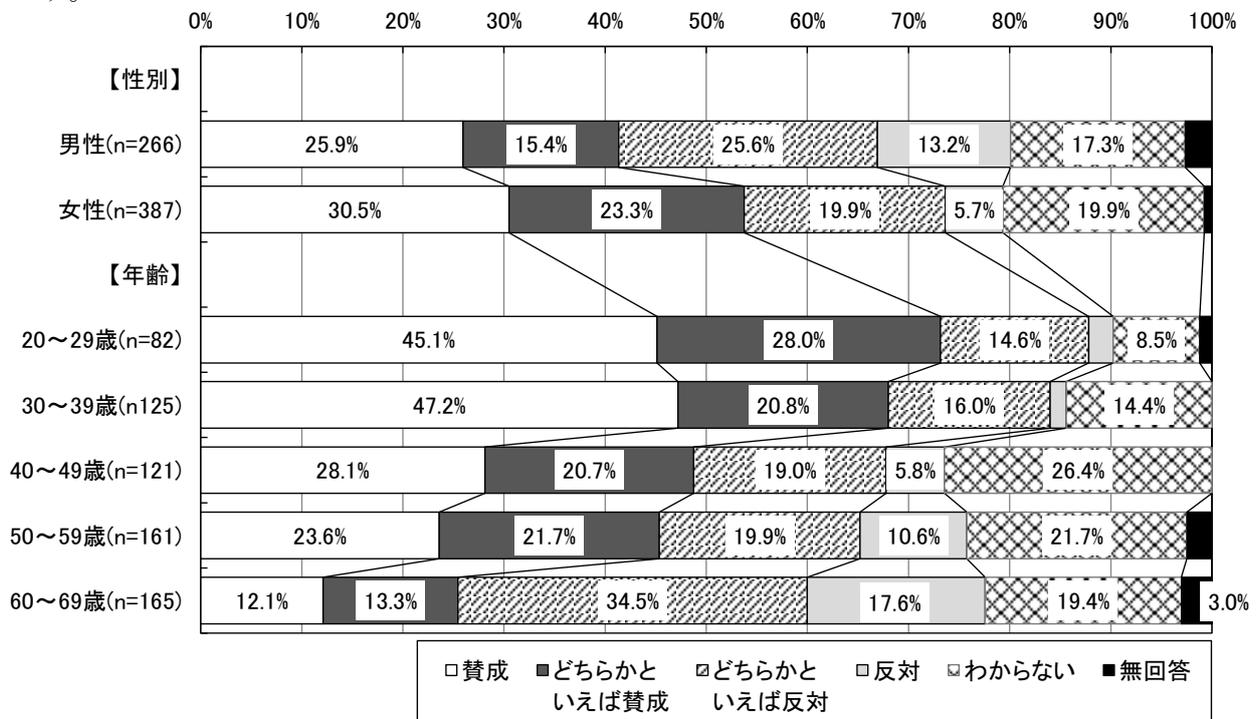


◇（３）結婚しても必ずしも子どもをもつ必要はない◇

【属性別】

性別で比較すると、『賛成』では、男性よりも女性が12.5ポイント多くなっています。

年齢別で比較すると、『賛成』では、「30～39歳」が最も多く、次いで「20～29歳」となっています。

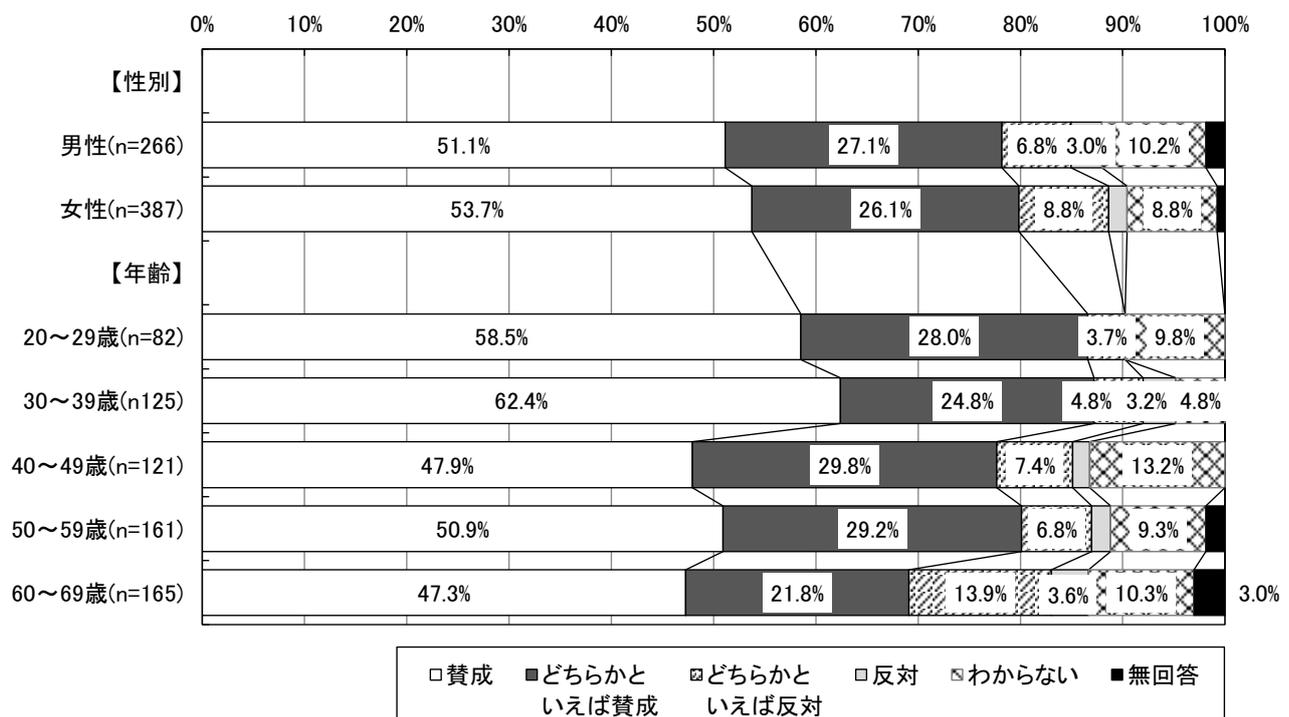


◇（４）結婚は、形式等にこだわらなくてよい◇

【属性別】

性別で比較すると、『賛成』では、男性よりも女性がやや多くなっています。

年齢別で比較すると、『賛成』では、「30～39歳」が最も多く、次いで「20～29歳」となっています。

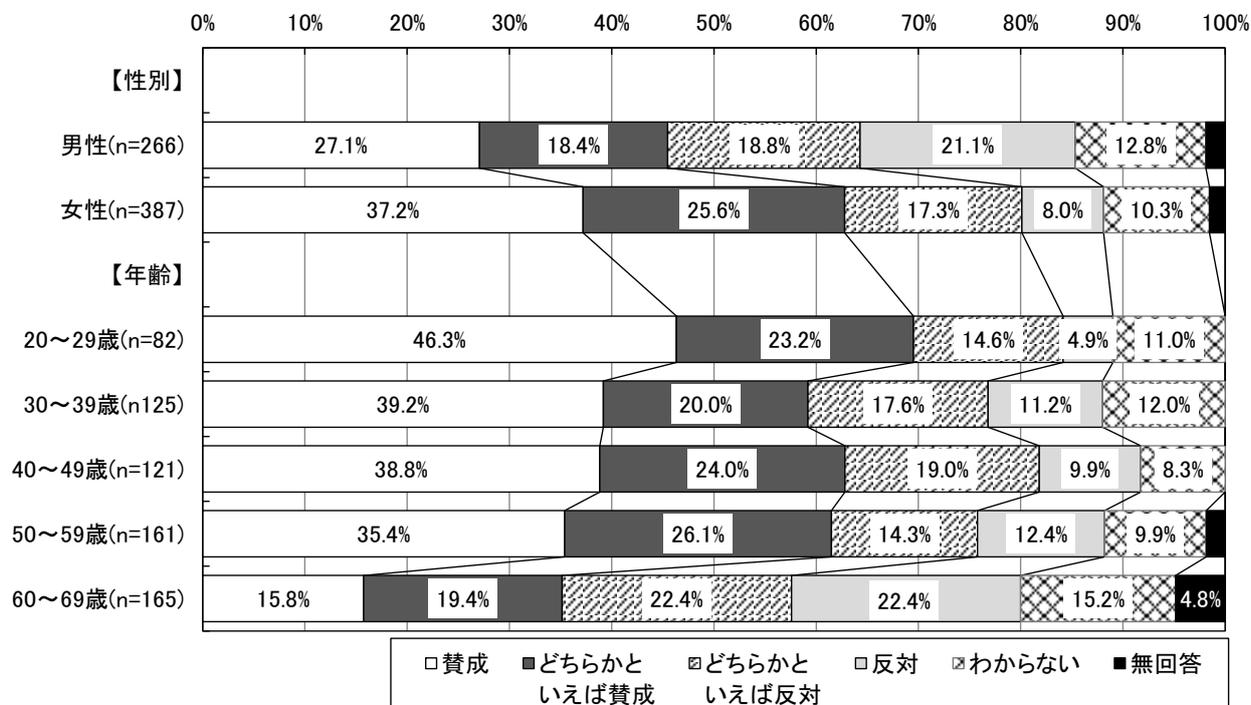


◇（５）結婚している夫婦が、別々の姓を名のってもかまわない◇

【属性別】

性別で比較すると、『賛成』では、男性よりも女性が17.3ポイント多くなっています。

年齢別で比較すると、『賛成』では、「20～29歳」が最も多く、次いで「40～49歳」「50～59歳」となっています。

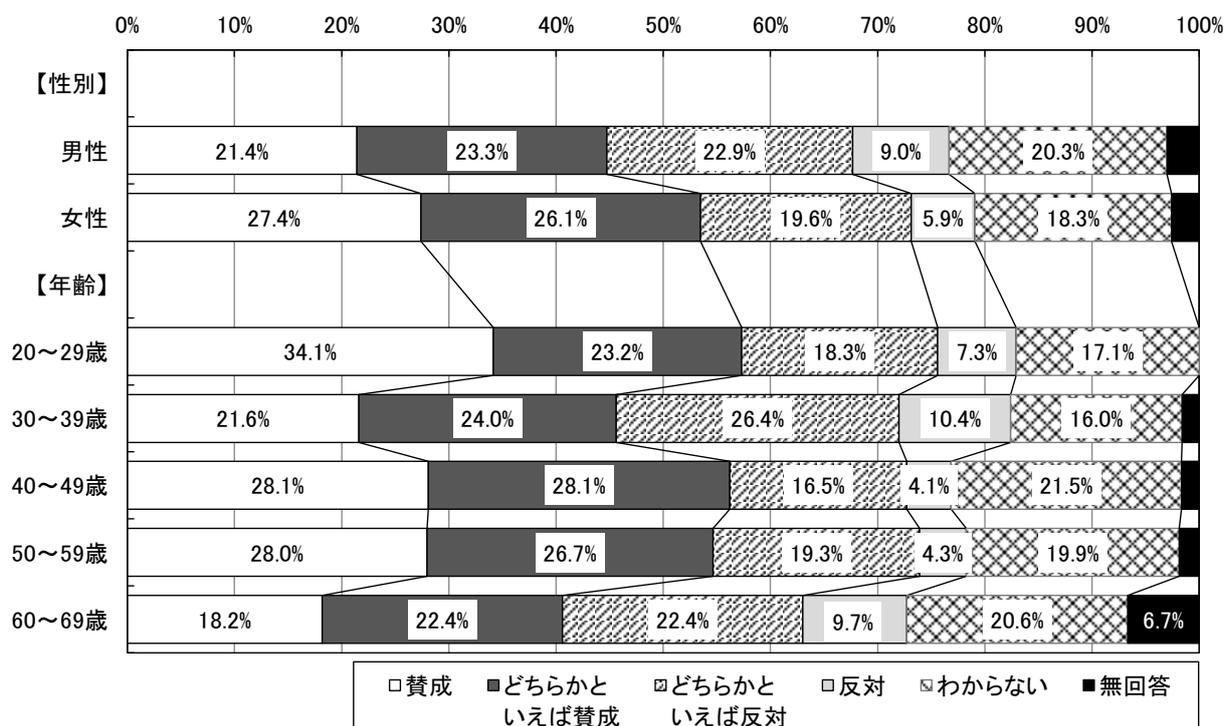


◇（６）結婚しても相手に満足出来ない場合には離婚すればよい◇

【属性別】

性別で比較すると、『賛成』では、男性よりも女性が8.8ポイント多くなっています。

年齢別で比較すると、『賛成』では、「20～29歳」が最も多く、次いで「40～49歳」「50～59歳」となっています。



## ◇（７）その他の回答◇

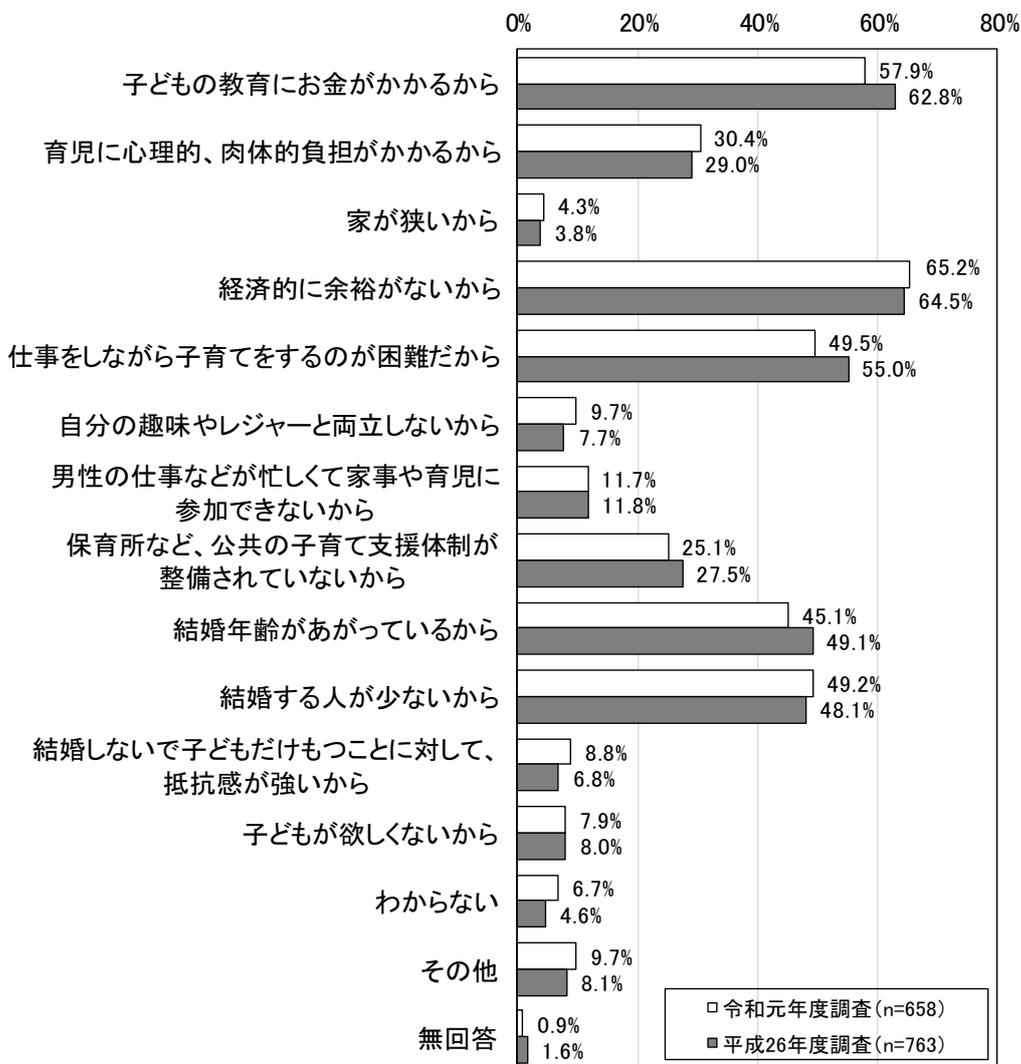
- 結婚しても子供が出来なかったり、育児放棄してしまう家庭があるので無理に結婚をする必要はないと思います
- 夫婦とはこうあるべきだと若い時は思っていたが一緒に暮らし続けて今では年もとり年金暮らしをしており全く話せずしかし一軒で一緒にいます。色々な夫婦の形があっても良いと思っています。
- 結婚の形は時代により多様化している
- 家庭はその上で成り立つと思います。結婚によって得ることもたくさんあります、がまんもたくさんあります。
- その家庭の形が正解ではないでしょうか
- 再婚で子供がいても、除籍届は親権者でなくてもできるようにしてほしい。（子供が未成年で親権者が入籍しないと子どもだけ名前が残ってしまうのはおかしい）離婚の際に親権者の戸籍にはいるようにしてほしい。
- 農家や共働きの家庭では考え方も色々だと思う
- 孤独にならなければ良い生活ができると思う
- 結婚はしないより1度はした方がいいと思う
- 結婚、家庭観については生活歴や背景、時々環境によって生まれると考えます。よって（３）の質問は簡単には答えられない
- ・20代前半（若い子）の早い出産、結婚が多すぎる。・子供のしつけへのマナーが悪い。
- （２）～（６）は夫婦で話し合っただけで決めればよいと思う。いろいろな夫婦の形があると思うので。
- 事実婚状態であっても、市からの補助を受けるため結婚せずシングルファザー（マザー）として子育てしている人が増えていると感じる。
- やれる時にやれる人がする。共働きならなおさら。
- 対人関係においては全てが満足することはあり得ないので、マイナス面にこだわる前に良い面を認識してコミュニケーションを向上すべきである。
- 子どもがいる、いないで状況が違うと思う
- 日本のみ結婚後の夫婦別姓が認められていない事。
- 良き理解者に巡り合えたら性別もこだわらない
- 性格、状況などによりケースバイケースだと思う
- 結婚によって社会生活において区別されることがないようであれば良いと思う（良悪ともに）
- 夫婦２人だけの場合と子供がいる夫婦の場合で考え方が変わると思う
- 初心にかえってお互い話し合う方法を考える
- 結婚する事により人間的にも成長できると思います。
- 必ずしも異性間でなくてもいいと思う。（同性婚に賛成）
- 個人のことだから周囲が何か口出しするのはどうかと思う。

## 4. 子育てや介護について

問6 全国的に少子化が進んでいます。沼田市においても年々出生率が低下し、平成20年の出生数は433人でしたが、平成30年には261人に減っています。その理由は、どのようなことだと思いますか。(〇はいくつでも)

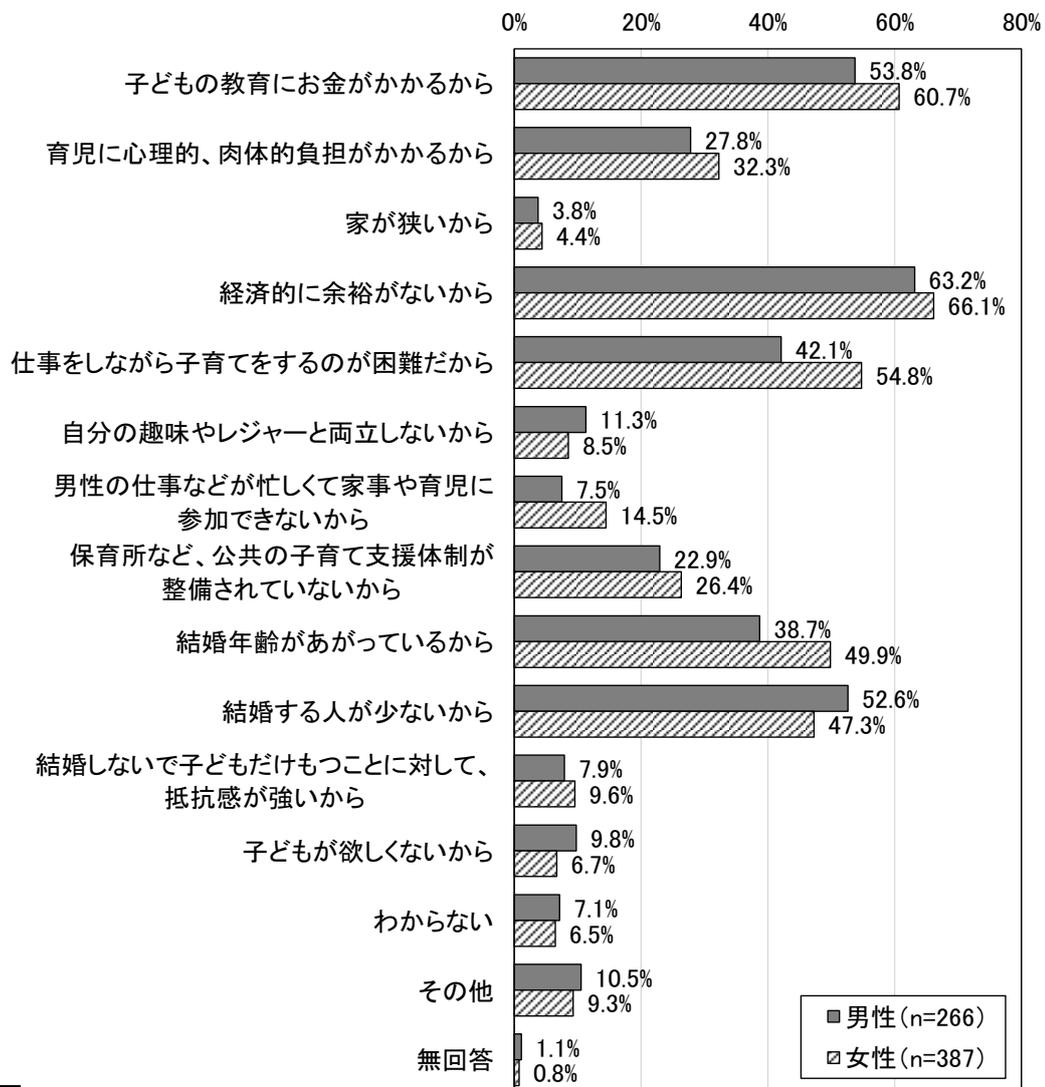
少子化が進んでいると思われる理由では、「経済的に余裕がないから」が65.2%と最も多く、次いで「子どもの教育にお金がかかるから」が57.9%、「仕事をしながら子育てをするのが困難だから」が49.5%となっています。

前回調査と比較すると、「育児に心理的、肉体的負担がかかるから」「家が狭いから」「経済的に余裕がないから」「自分の趣味やレジャーと両立しないから」「結婚する人が少ないから」「結婚しないで子どもだけもつことに対して、抵抗感が強いから」が今回調査でやや多くなっています。



## 【性別】

性別で比較すると、「仕事をしながら子育てをするのが困難だから」が 12.7 ポイント、「結婚年齢があがっているから」が 11.2 ポイント男性よりも女性が多く、「結婚する人が少ないから」では、5.3 ポイント女性よりも男性が多くなっています。



### その他の回答

- 核家族
- 男女とも自由に仕事をもてるから
- 結婚より仕事の方を選ぶ人が多くなった
- 不妊が増えてきている
- 産婦人科病院が少ない
- 沼田市に魅力がなく、適齢期の男女が出て行くから。
- 不妊症の人が増えている
- まんえんした閉塞感、それに伴うマイナスの展望
- 教育が悪い
- 現時点で自分の老後の年金問題などの経済的な不安があるなかで、将来子供が同じような不安を持つと思うと子供を持つ気にはならない。
- 今の親世代が少ないので必然的に少ないのでは。昔ほど親としての背中を見れていないのでは。子どもを見てくれる人がいない。(病気の時)

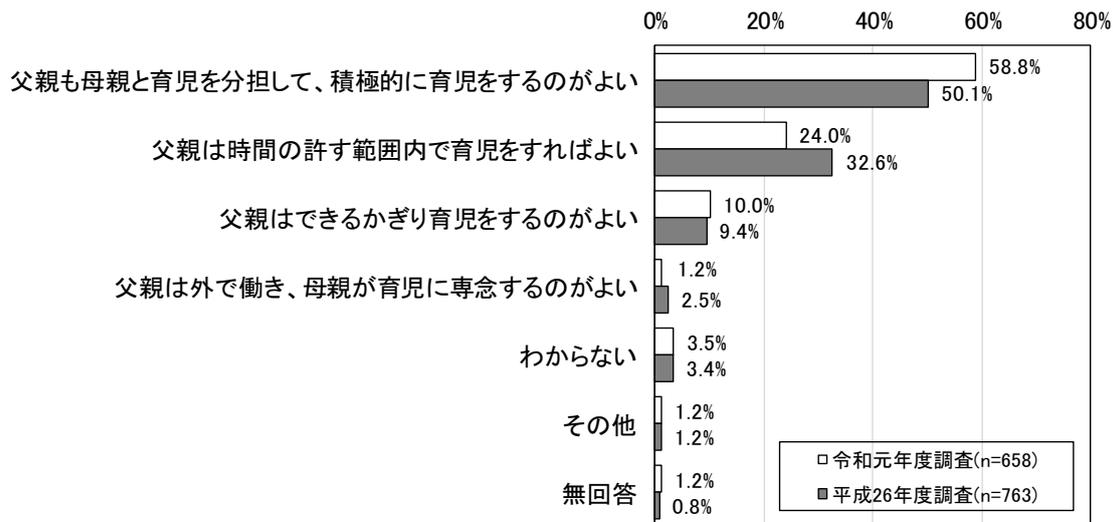
- ・沼田市で子育てをするメリットがあれば人口も出生率も上がると思う。子育てや出産する世代がきてくれない、残らない事には出生数はあがらないと思う。・教育水準が低いから（教育環境が整っていない）
- 子供を産んで育てる社会的意義が失われつつあるから
- 出産できる病院が少ない、選ぶことができない
- 若者の都会への流出、地元働き口が少ない
- SNSで満足している
- 特に1. と4. の設問は背景が同質と考えます
- 子供より前に結婚したいと思える人との出会いが少ない
- 人間関係の希薄
- 若者が少なくなっている
- 田舎だから
- 沼田市で子育てするのは色々大変だから
- 子どもを持つような世帯が少ない？
- 若い人の固定概念も変わってきていると思う。
- 若い人が減っている。市外へ出て行ってしまう。
- 女性の社会進出が増え、働きやすい環境であること、また、働かないと育てられない収入状態になっていること。子育て支援で保育所や子ども園を増やしているが、それらは女性が多く働く職場のため、そういった仕事に就くと自分の子どもを犠牲にして働かなくてはならなくなる。子どもが小さいうちは、子ども園などでなく家庭で育てるべきだと思うが、それができる夫の収入でないと難しい。子育て施設を増やすより、子供を家庭で育てていけるような支援が必要なのではないか。
- ファミリーサポートも高額なお金がかかるし、核家族が多い中、母親が1人で育児をし、母親の負担があまりにも大きい。家が狭く、大きな家に住みたくても（子供を産みたくて）新築の助成金もないので、これ以上子供も産めないし、負担も大きくしたくない為。
- 個人主義が世の中全体的に容認される方向の中で、出産、育児にしばられない自由な人生を歩もうとする考え方があるのではないか？
- 食生活の乱れで子供ができにくい
- 必要性がない、介護してもらえないと思う。
- 仕事がないから沼田市外に出てしまう
- 子どもが欲しくても不妊などで恵まれないから
- 不妊
- 沼田市に魅力が乏しく若い人たちが住まないから。
- 子どもを産む世代の人たちが住みたいと思わないから出生も当然減る
- 働く場所が少ないから生活の為に沼田市以外の市へ転出するから。
- 若い人の人口そのものが減っているから
- 沼田市以外（県外）に就職・進学してしまうから
- 娯楽施設や就職したいと思える企業がない
- 生活環境が豊かになって家族や子供がいなくても生活に満足感があるから
- 国民の義務であるという意識の低下が著しいから。皆それぞれ個人的都合で判断している。
- 子どもが出来にくい

- 就業環境の悪さ
- 若い人がいない
- 進学や就職で市外に出てしまうため
- 多く子供を持つことを望まないから
- ベビーブームの世代がそれほど多く子を産まなかったから
- 不妊症
- 沼田市に出会いの場がないから
- 子どもが欲しくてもできない人が多くなっているから。
- 沼田市に仕事を持ち残れる若者が減っているから
- 市外にでてしまう
- 個人主義になってきている。自分のやりたい事に夢中になっているうちにタイミングを逃すよ  
うな
- ほしくてもできない場合もあると思う
- 若い世代が少ないから
- 子供が好きで育てたいと思う人が少ない
- 子供を産める病院が少ない（限られている）
- 沼田市で家庭を築きたくなる魅力がないから
- 体質がかわってきた
- 沼田市に定住する若者夫婦が減っているから
- 子供の事件が多くて自信がないのでは
- 出会いの場がなく、交際ができないようだ
- 3歳未満の保育料が高すぎる

**問7 父親の育児参加について、どのようにお考えですか。あなたの考えに最も近いものを選んでください。(1つだけに○)**

父親の育児参加についての考えでは、「父親も母親と育児を分担して、積極的に育児をするのがよい」が58.8%と最も多く、次いで「父親は時間の許す範囲内で育児をすればよい」が24.0%、「父親はできるかぎり育児をするのがよい」が10.0%となっています。

前回調査と比較すると、「父親も母親と育児を分担して、積極的に育児をするのがよい」では8.7ポイント今回調査で多くなっています。また、「父親は時間の許す範囲内で育児をすればよい」が今回調査で少なくなっています。



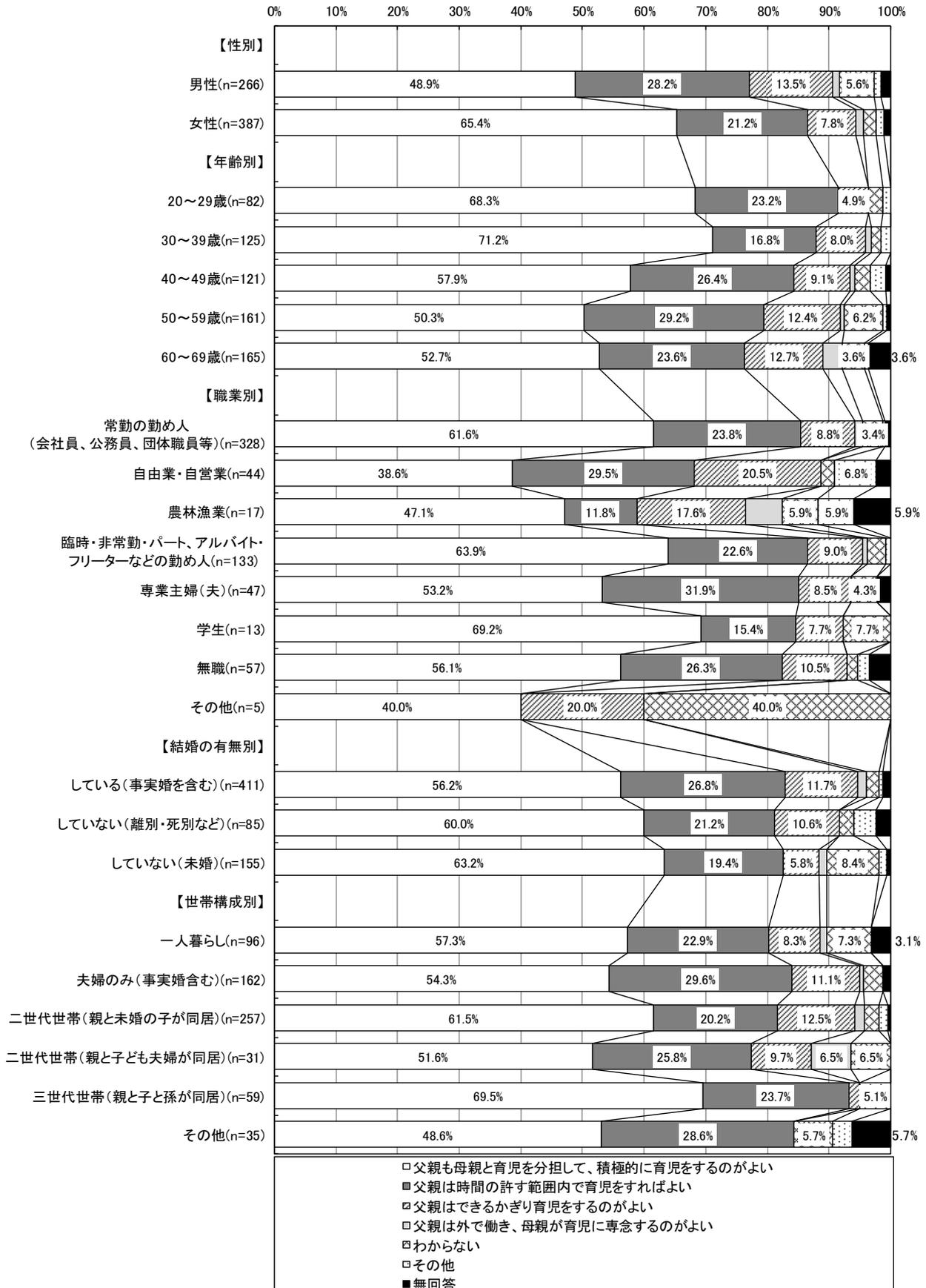
**その他の回答**

- 父親の参加をすすめると授業参観など夫婦で来るので今は片親家庭が多く父子家庭も少なくな  
い。そういう家庭は父親が育児しているので特にすすめて勘違いされるよりどちらかできる方  
ができる時にすればいいと思う。そうでないと片親が多い昨今父子家庭、母子家庭はいやな思  
いをする事が多くなる。
- その家庭の奥さんが楽しめるようにする
- 夫婦のライフスタイル次第
- 母親が働いている場合は①、専業主婦の場合は④だが、いずれにしても父親には育児に参加し  
て欲しい。
- どちらか一方なのではなく、得点の分野で携わるのが理想的と思う。
- 外遊び専門スタッフとして連れ出してほしい
- 家庭ごとに違うからやりやすいようにやればよい
- 父親だけ遊んでいてはダメです

## 【属性別】

性別で比較すると、「父親も母親と育児を分担して、積極的に育児をするのがよい」では、男性よりも女性が16.5ポイント多くなっています。

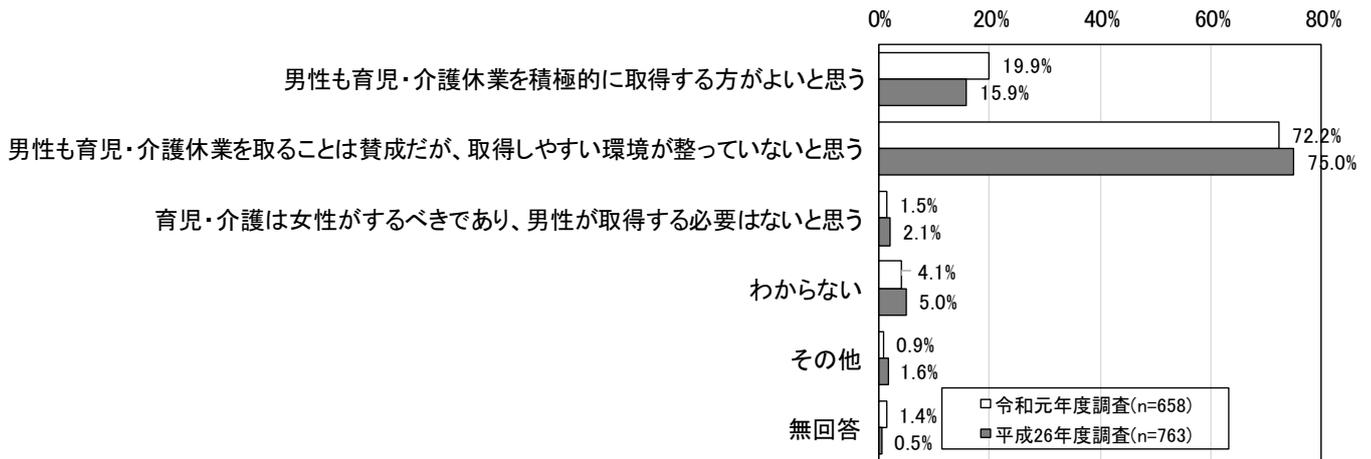
年齢別で比較すると、「父親も母親と育児を分担して、積極的に育児をするのがよい」では、「30～39歳」が最も多くなっています。



問8 育児や介護を行うために、育児休業や介護休業を取得できる制度が「育児・介護休業法」により定められています。あなたは、男性の育児・介護休業の取得について、どのようにお考えですか。あなたの考えに最も近いものを選んでください。(1つだけに○)

男性の育児・介護休業の取得についての考えでは、「男性も育児・介護休業を取ることは賛成だが、取得しやすい環境が整っていないと思う」が72.2%と最も多く、次いで「男性も育児・介護休業を積極的に取得する方がよいと思う」が19.9%、「わからない」が4.1%となっています。

前回調査と比較すると、「男性も育児・介護休業を積極的に取得する方がよいと思う」では、4ポイント今回調査で多くなっています。



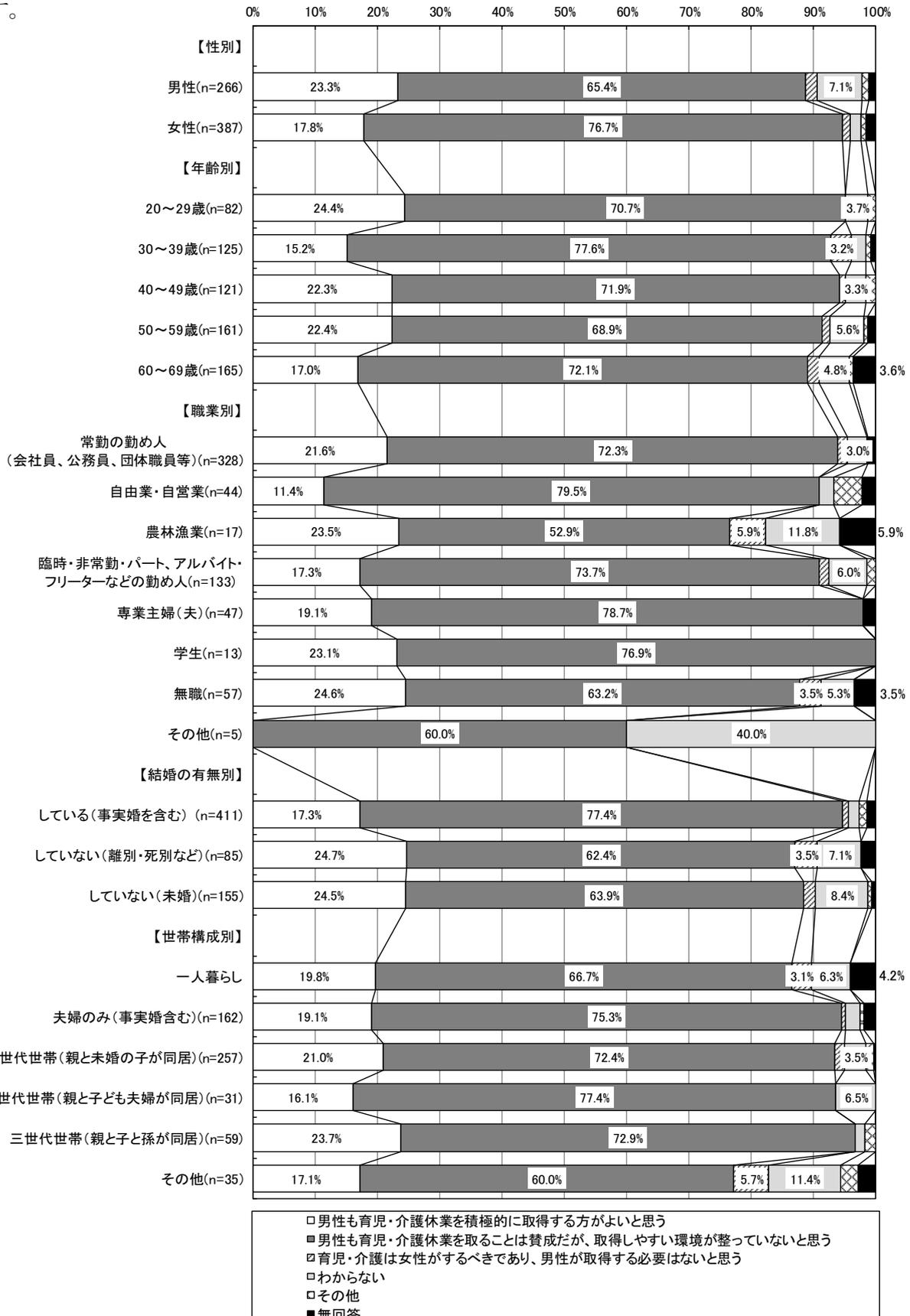
その他の回答

- 老人ホーム等もあるのだから収入を増やす為
- 育児の方は昔、政治家の人が不正していたりしていたので父子家庭の方が良いと思う
- 環境が整っていても企業によっては休業しやすい職場と、そうでない職場があると思う。
- 自営だからムリ
- 自分には育児休業介護休業がないため
- 取得できるからと言って会社や妻から強要されても気の毒だ。母と違い、子供を受け入れられない男性もいるから。夫婦でよく話し合えば良いと思う。
- 男性も一緒に休んでしまうと家計が苦しい

## 【属性別】

性別で比較すると、「男性も育児・介護休業を取ることは賛成だが、取得しやすい環境が整っていないと思う」では、男性よりも女性が11.3ポイント多くなっています。

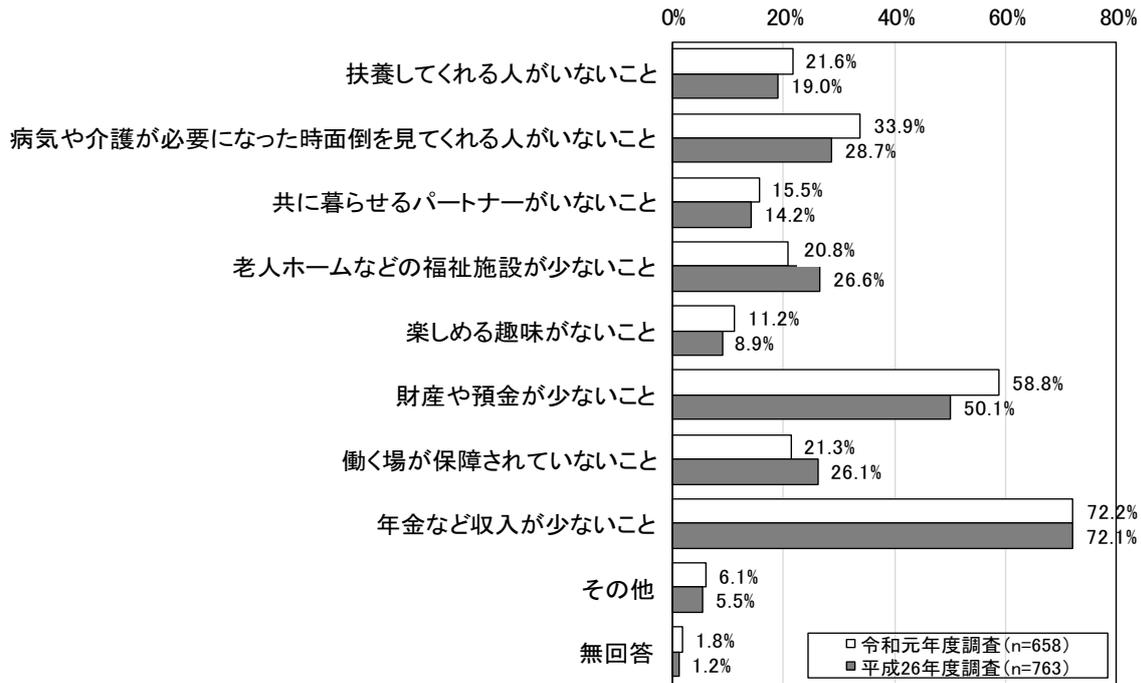
年齢別で比較すると、「男性も育児・介護休業を取ることは賛成だが、取得しやすい環境が整っていないと思う」では、「30～39歳」が最も多く、次いで「60～69歳」「40～49歳」となっています。



問9 沼田市の高齢化率（総人口に対する65歳以上人口の割合）は高く、平成21年では25.76%でしたが、平成31年には32.89%と上昇を続けていますが、あなたは、老後の生活にどのような不安を感じますか。（〇はいくつでも）

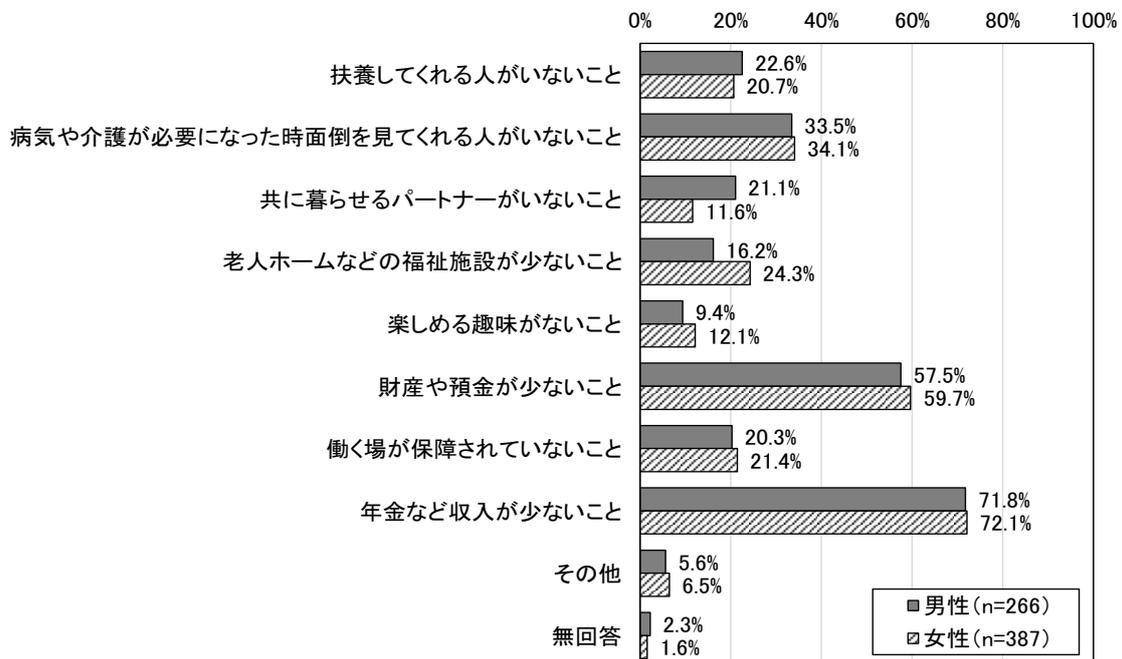
老後の生活にどのような不安を感じるかでは、「年金など収入が少ないこと」が72.2%と最も多く、次いで「財産や預金が少ないこと」が58.8%、「病気や介護が必要になった時面倒を見てくれる人がいないこと」が33.9%となっています。

前回調査と比較すると、「病気や介護が必要になった時面倒を見てくれる人がいないこと」が5.2ポイント、「財産や預金が少ないこと」が8.7ポイント今回調査で多くなっています。



### 【性別】

性別で比較すると、「共に暮らせるパートナーがいないこと」では、女性よりも男性が9.5ポイント多く、「老人ホームなどの福祉施設が少ないこと」では、男性よりも女性が8.1ポイント多くなっています。



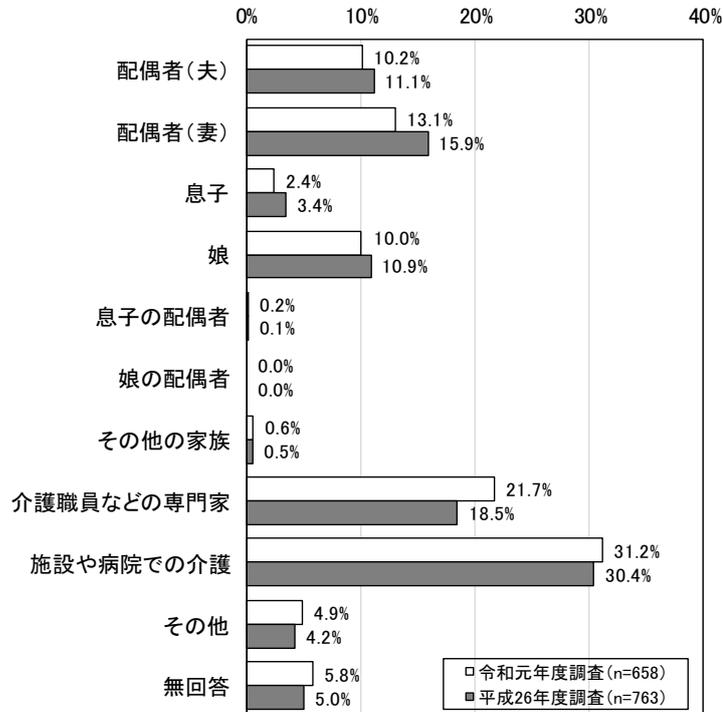
## その他の回答

- 年金に似合った老人ホームがほしいです
- 健康
- 現在の景気では後継者の行く末が心配です
- 現在65歳以上なので（夫婦で）現状のままピンピンコロリを望んでいますが、極力子供たちには負担をかけたくないです
- 老人しかいない沼田市の都市機能
- 年金はもらえない。可能性が高いのに税金を多くとられている事
- 老人ホーム福祉施設があっても料金が安い、年金だけでは払えない
- 老人ホームの金額が高い、お金がある老人ばかりではない。
- 子供たちが扶養してくれるとは限らないこと
- 昭和の頃のように3世代が協力し合って暮らすのが一番よい
- 子供がいても沼田に住まず現在の家もいずれ空き家になる。自分も妻も実家の墓、自分の墓はいらなくなり、墓じまいをする必要がある。
- 経済的に厳しく健康面が特に不安
- 増税、スーパー、病院数の減少、車がないと用が足せない
- 高齢者が気軽に集まれる場所が少ない
- 介護保険料がすごく高くなり年金が少なく2カ月で5万円。年金額月2万5千5百円です。老後の事など考えるのも恐ろしい。
- 車が運転できなくなると移動手段がない
- 年金受け取りまで働くことが出来ない様に思う。介護職で足や腰に負担がかかりパートぐらいしか出来ない。生きていないかもしれないとも思うから。
- 高齢者を支える生産人口が少ないこと。特に地方、沼田市も消滅可能性都市であること。
- 福祉施設があっても年金が少なすぎて入れない
- そもそも年金を納めていても自分たちが老後に年金がもらえるのか分からない。
- 死ぬまで健康でいられるから
- 子供にあまり負担をかけたくない
- それでも老いは楽しみです
- 自治体がいわゆる限界集落となり、現状のような行政サービスを受けられなくなるおそれがあること
- 早く死にたい
- 歩いて買い物に行ける場所が少ない
- ・様々な手続きが煩雑なコト（役所関係）・移動手段がないコト（車）
- 車を運転しないと行動しにくい
- 将来高齢者対策に係る財源が自治体、地域、社会を圧迫し、若年層の生活を衰退させること。
- 介護保険料が高いです。十分な介護ができない。介護士が少ない。介護士の給料が少ない。もっと高くして人数を増やして下さい！福祉施設などの数はあると思いますが、なかなか入れない。入る時には体は動いていたがだんだん動かなくなり、おむつとか車いすになったりするのが残念です。もう少しその人にあった介護などが出来ると良いと思います。入所したら元気になるような施設があれば良いのに。
- 医療（入院費）に関して長引くと余裕がないと思う

問 10 国民生活基礎調査では、介護者の 66.0%（平成 29 年 6 月厚生労働省発表）が女性という実態が示されています。あなたは、介護が必要になった場合、誰に介護をしてもらいたと思いますか。（1つだけに○）

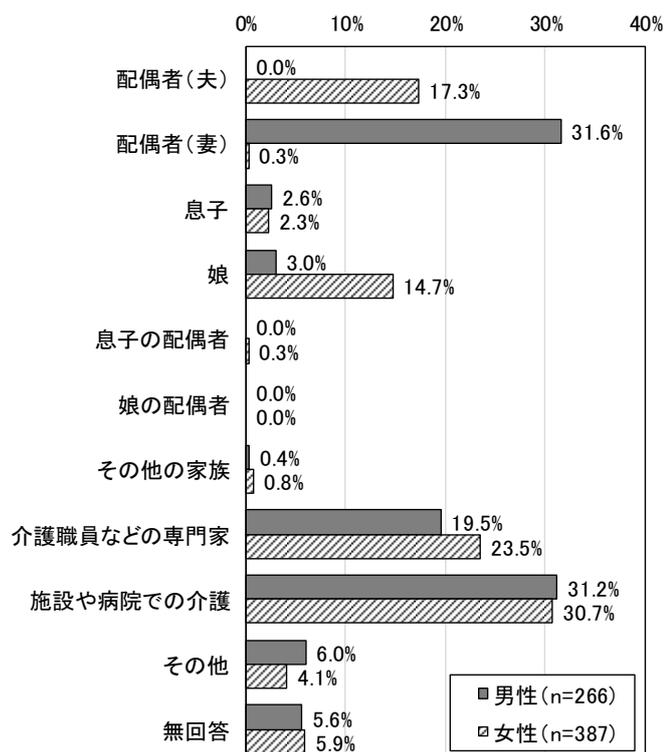
介護が必要になった場合、誰に介護をしてもらいたと思うかでは、「施設や病院での介護」が 31.2%と最も多く、次いで「介護職員などの専門家」が 21.7%、「配偶者（妻）」が 13.1%となっています。

前回調査と比較すると、「介護職員などの専門家」が今回調査でやや多くなっています。



【性別】

性別で比較すると、男性は「配偶者（妻）」「施設や病院での介護」が約 3 割、女性では、「施設や病院での介護」が約 3 割となっています。



## その他の家族

- 子ども

## その他の回答

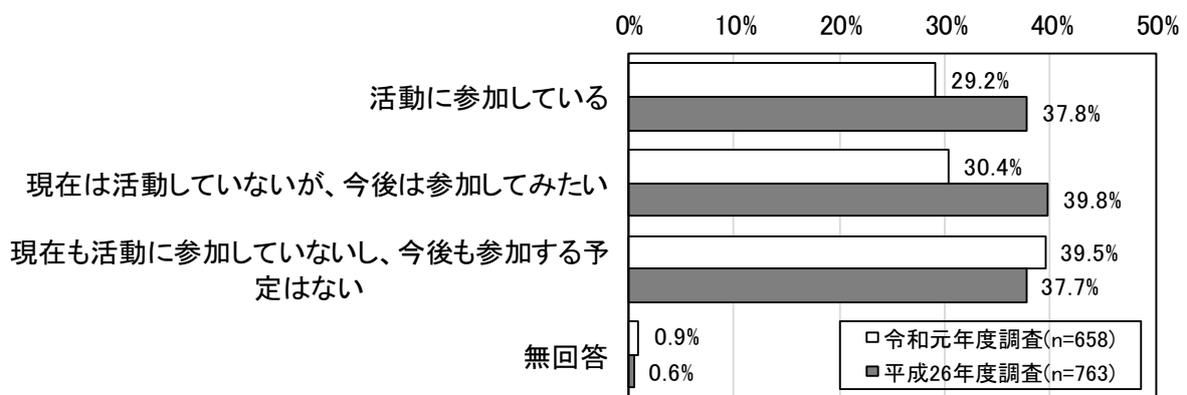
- 1人
- 1人ではなく家族、専門家で分担して。
- いない (2件)
- いない
- してほしい訳ではないが他にいない
- してもらいたいのは、身内だが無理なので施設としますが、してもらいたいと望んでいるわけではありません
- その時になってみないとわからない
- まだ実感がない
- わからない (2件)
- 家族なら誰でも (2件)
- 介護は必要ない
- 介護は必要になったら死を選ぶ。人に迷惑かけたくないので。
- 考えた事ないです。生きるか死ぬかです。人に自分の事で面倒かけたくないです。
- 考えていない (2件)
- 最終的には軽度なら家で家族と。介護度による。
- 妻もしくは息子娘
- 在宅でと思うが実際は施設か。
- 死ぬ
- 死を選びたい (2件)
- 誰でもいい
- 不明
- 老人ホームの介護してもらいたい

## 5. 社会活動・地域活動について

問11 あなたは、現在、家庭の外で何か活動に参加していますか。また、今後してみたいと思いますか。例えば、スポーツ・サークル活動、ボランティア活動、地域の活動など。(1つだけに○)

今後、家庭の外で何か活動に参加したいと思うかでは、「活動に参加している」が29.2%、「現在は活動していないが、今後は参加してみたい」が30.4%、「現在も活動に参加していないし、今後も参加する予定はない」が39.5%となっています。

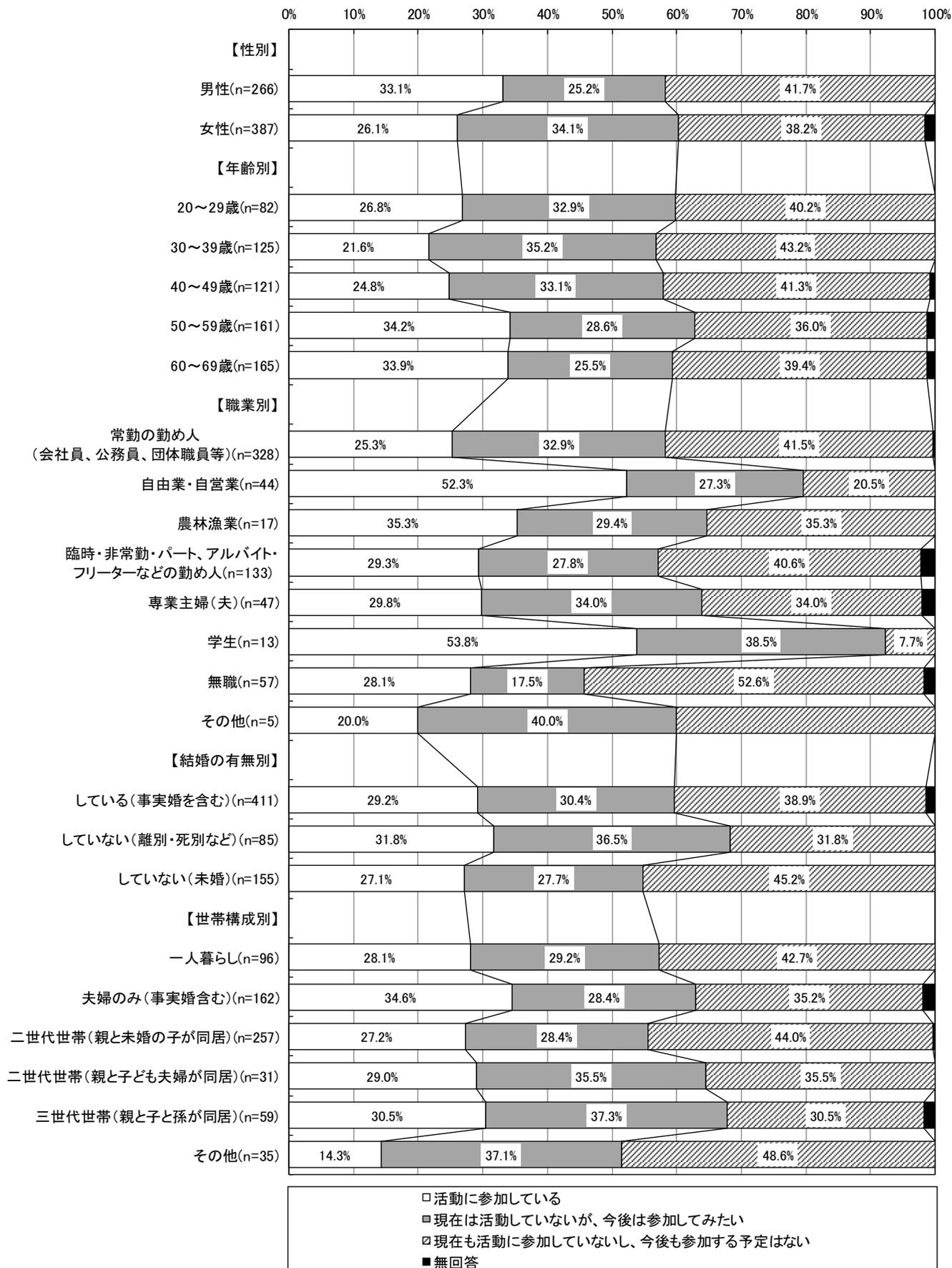
前回調査と比較すると、「現在も活動に参加していないし、今後も参加する予定はない」では、7.0ポイント今回調査多くなっています。



**【属性別】**

性別で比較すると、「活動に参加している」では、女性よりも男性が 7.0 ポイント多くなっています。

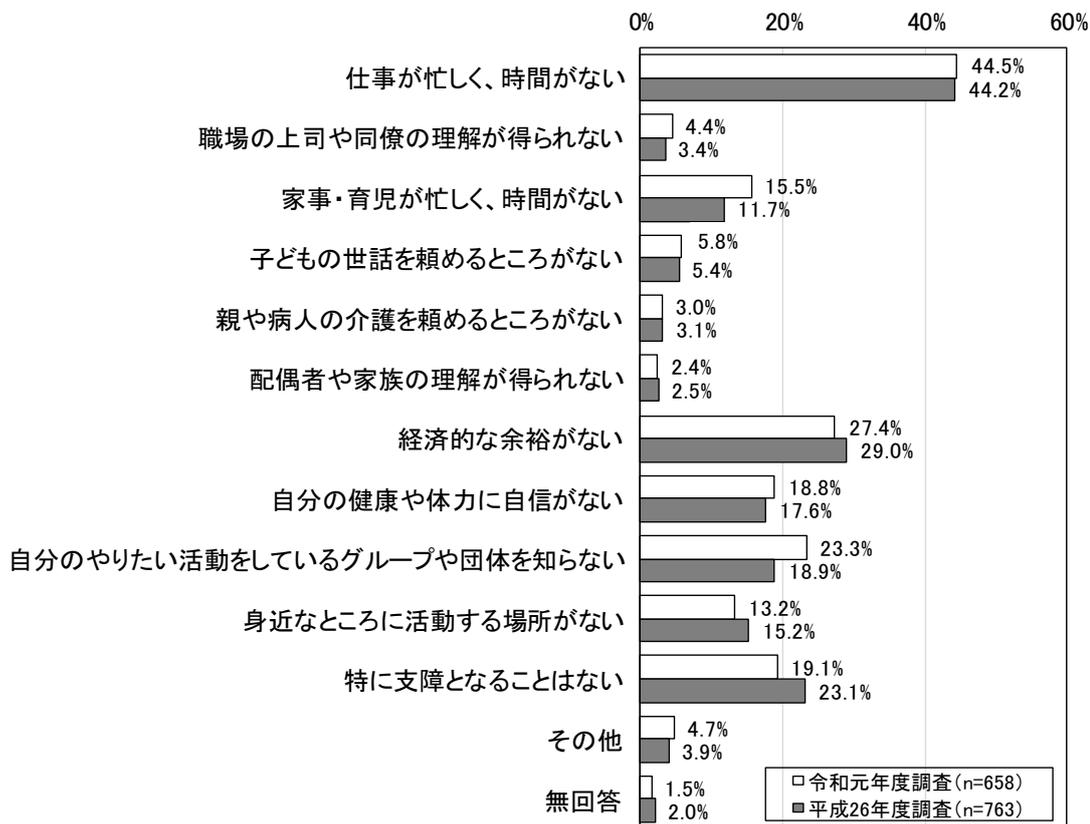
年齢別で比較すると、「活動に参加している」では、『50 歳以上』で 3 割を超えています。



問12 あなたが社会活動・地域活動に参加しようとする際に支障になっていることは何ですか。  
(〇はいくつでも)

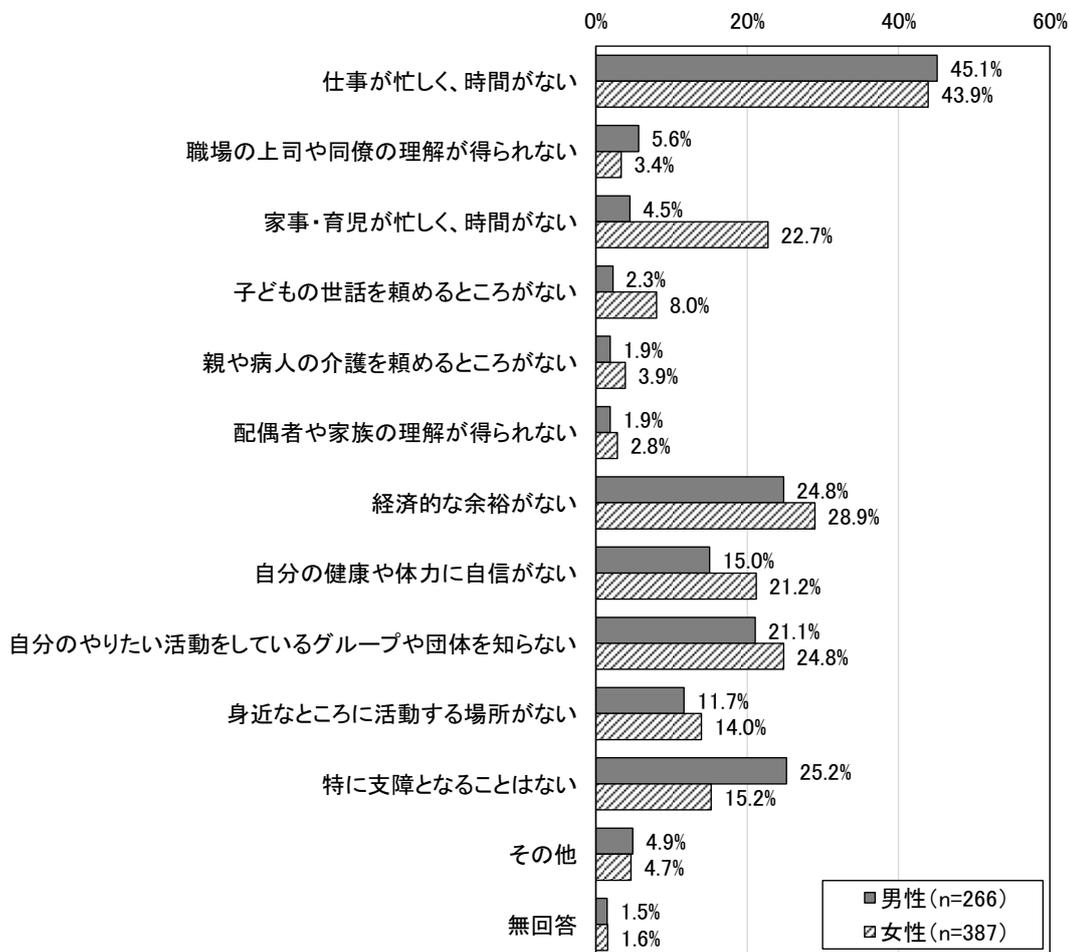
社会活動・地域活動に参加しようとする際に支障になっていることでは、「仕事が忙しく、時間がない」が44.5%と最も多く、次いで「経済的な余裕がない」が27.4%、「自分のやりたい活動をしているグループや団体を知らない」が23.3%となっています。

前回調査と比較すると、「家事・育児が忙しく、時間がない」では、3.8ポイント、「自分のやりたい活動をしているグループや団体を知らない」では4.4ポイント今回調査で多くなっています。



## 【性別】

性別で比較すると、「家事・育児が忙しく、時間がない」では、男性よりも女性が18.2ポイント多く、「特に支障となることはない」では女性よりも男性が10.0ポイント多くなっています。



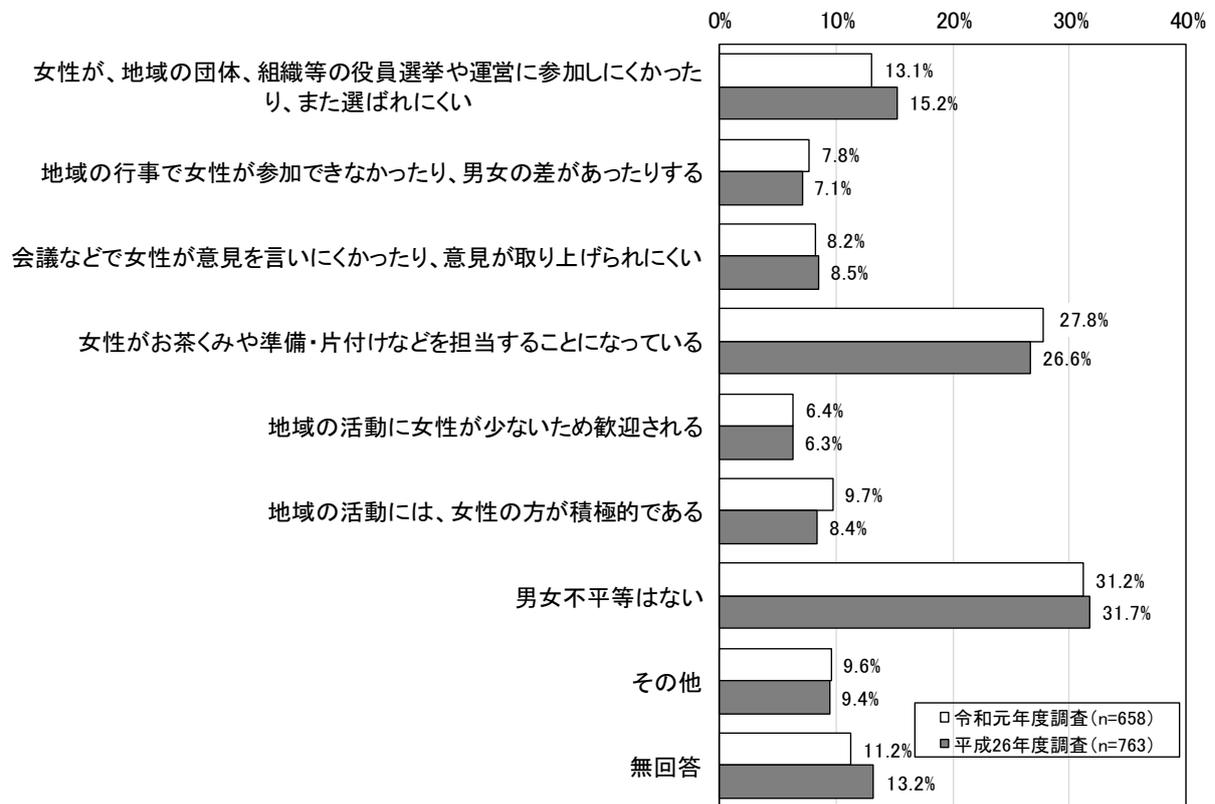
## その他の回答

- 親が施設への入所に対して抵抗を示している
- 参加しようと思わない
- 自分の時間を十分にとりたい、休養
- 勤務調整が少し大変
- 面倒
- 気持ちが動かない
- 参加したくないから
- はたらかない無職
- 人間付き合いがうまくない
- 沼田にも献血ルーム「天狗」作って！
- 社会活動、地域活動に参加しようとは思っていない
- 勉強が忙しい
- 活動に参加したくない
- 自分の趣味をしたい
- したいと思わない
- 支障なし
- 介護のその日の状況により時間がなくなることがある。
- 活動したいと思わない
- 部活の配車当番、子供の生活リズム
- つかれている、やる気が出ない
- あまり他人と関わりたくない
- 若い人がいない
- 学生なので資金に余裕がなく遠出が出来ない。時間もあまりない。
- ・日々の生活が忙しいため、体にムチを打って活動に参加するので疲れてしまう。・子供の世話を頼まないといけないので申し訳なくなる。
- 家中を満足な状態に保つのと活動を十分するには時間が少ないし体力がない
- 自分のコミュニケーション能力が低い
- 体の具合が良くない

問 13 あなたが住んでいる地域において、次のようなことがありますか。(〇はいくつでも)

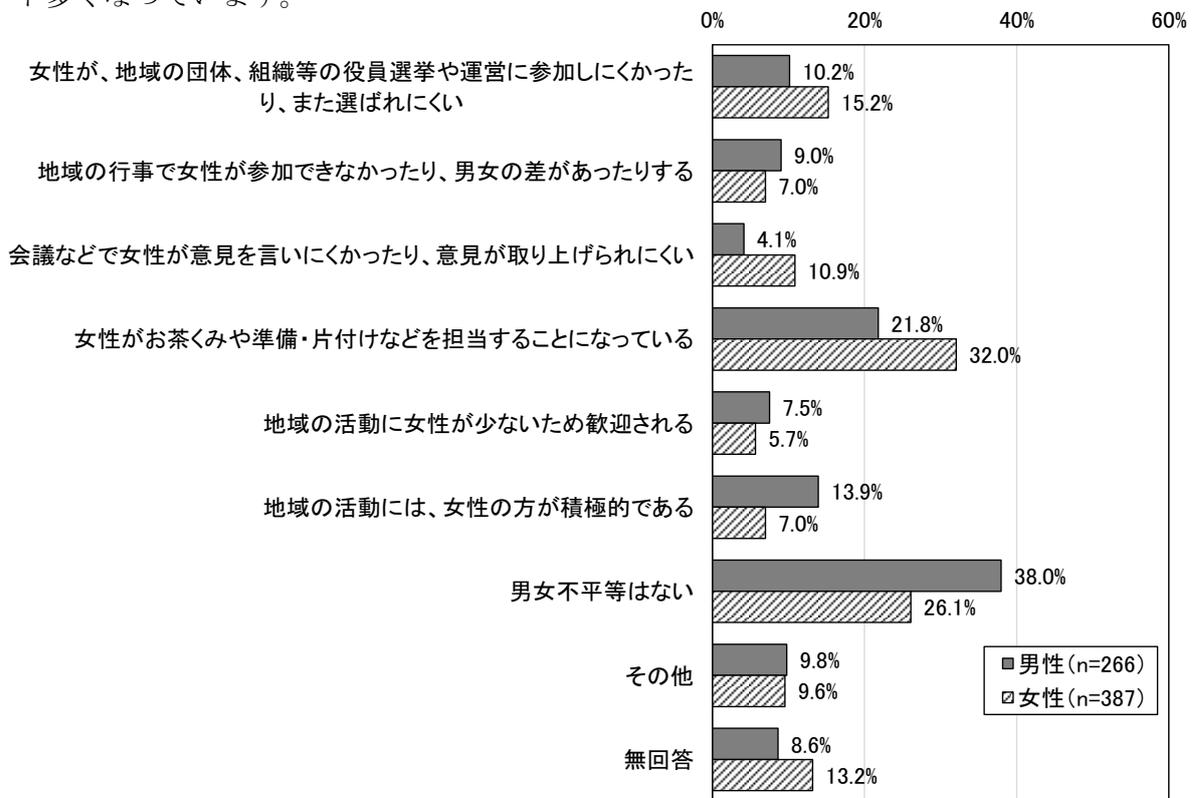
住んでいる地域では、「男女不平等はない」が31.2%と最も多く、次いで「女性がお茶くみや準備・片付けなどを担当することになっている」が27.8%、「女性が、地域の団体、組織等の役員選挙や運営に参加しにくかったり、また選ばれにくい」が13.1%となっています。

前回調査と比較すると、あまり差はありませんが「地域の活動に女性が少ないため歓迎される」「地域の活動には、女性の方が積極的である」では今回調査でやや多くなっています。



## 【性別】

性別で比較すると、「男女不平等はない」では、女性よりも男性が 11.9 ポイント多く、「女性がお茶くみや準備・片付けなどを担当することになっている」では、男性よりも女性が 10.2 ポイント多くなっています。



## その他の回答

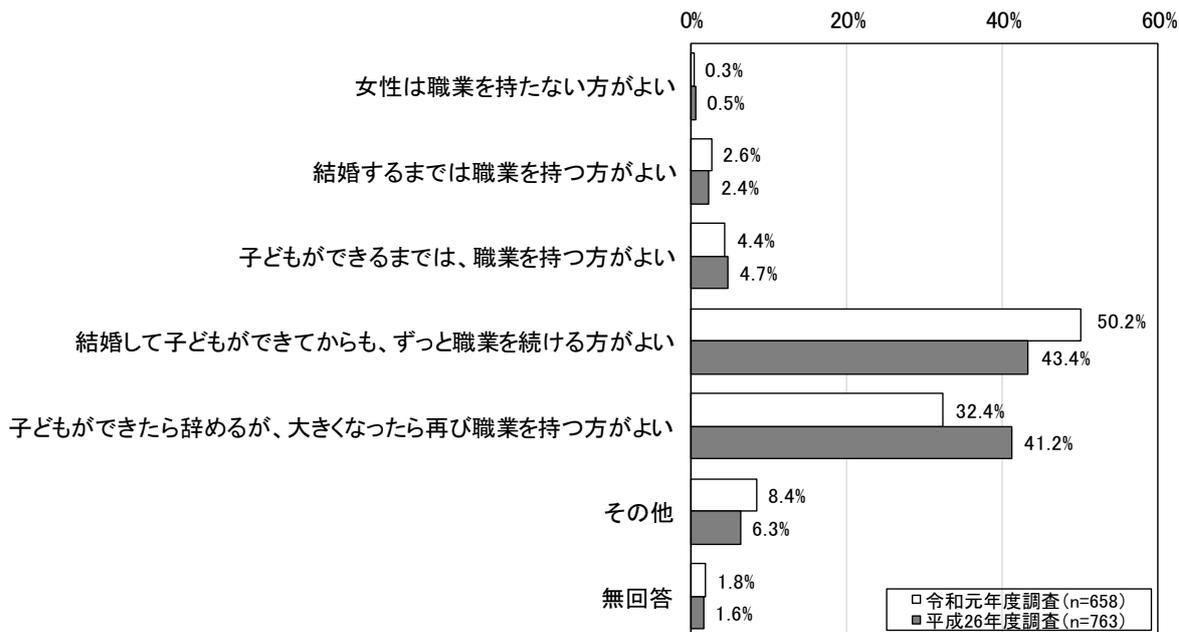
- 令和元年 10 月 18 日に移住したため住んでいる地域についての情報や人間関係がないため回答できない。
- 年齢が高くなってきている
- 地域外から来た人に免疫がない。どう受け入れていいかわからないのでは？
- 地域の行事等に参加していないので分からない
- 地域では男性が力仕事、女性は軽い仕事をさせてもらっていると思います。
- 男性が女性をみくだしていると感じる事が沼田に戻って来て増えた。
- 男女平等だと思う
- 人口が減る中活動自体が難しい
- 身体障害者なので参加できずわからない
- 新年会（地域同じ班）一昨年までは男の年、女性の年となっていたが、どちらも出て良い事になった。その結果女性は出て来なくなった。
- 新しい意見を取り上げない年令の人がいる
- 女性が強すぎて参加が面倒になる
- 私の近所で実際にあることですが昔からいる方の意見が強く、新しく参加した方への批判の意見を周囲に広めたりして参加しづらくしています。
- 参加の機会は平等であっても必ずしも参加できる条件は平等ではないようです。
- 気付く点はないが実態としては上記のようなことがあると感じる

## 6. 就労について

問 14 あなたは、一般的に女性が職業を持つことについて、どう考えますか。(1つだけに○)

一般的に女性が職業を持つことについての考えでは、「結婚して子どもができてからも、ずっと職業を続ける方がよい」が50.2%と最も多く、次いで「子どもができれば辞めるが、大きくなったら再び職業を持つ方がよい」が32.4%、「その他」が8.4%となっています。

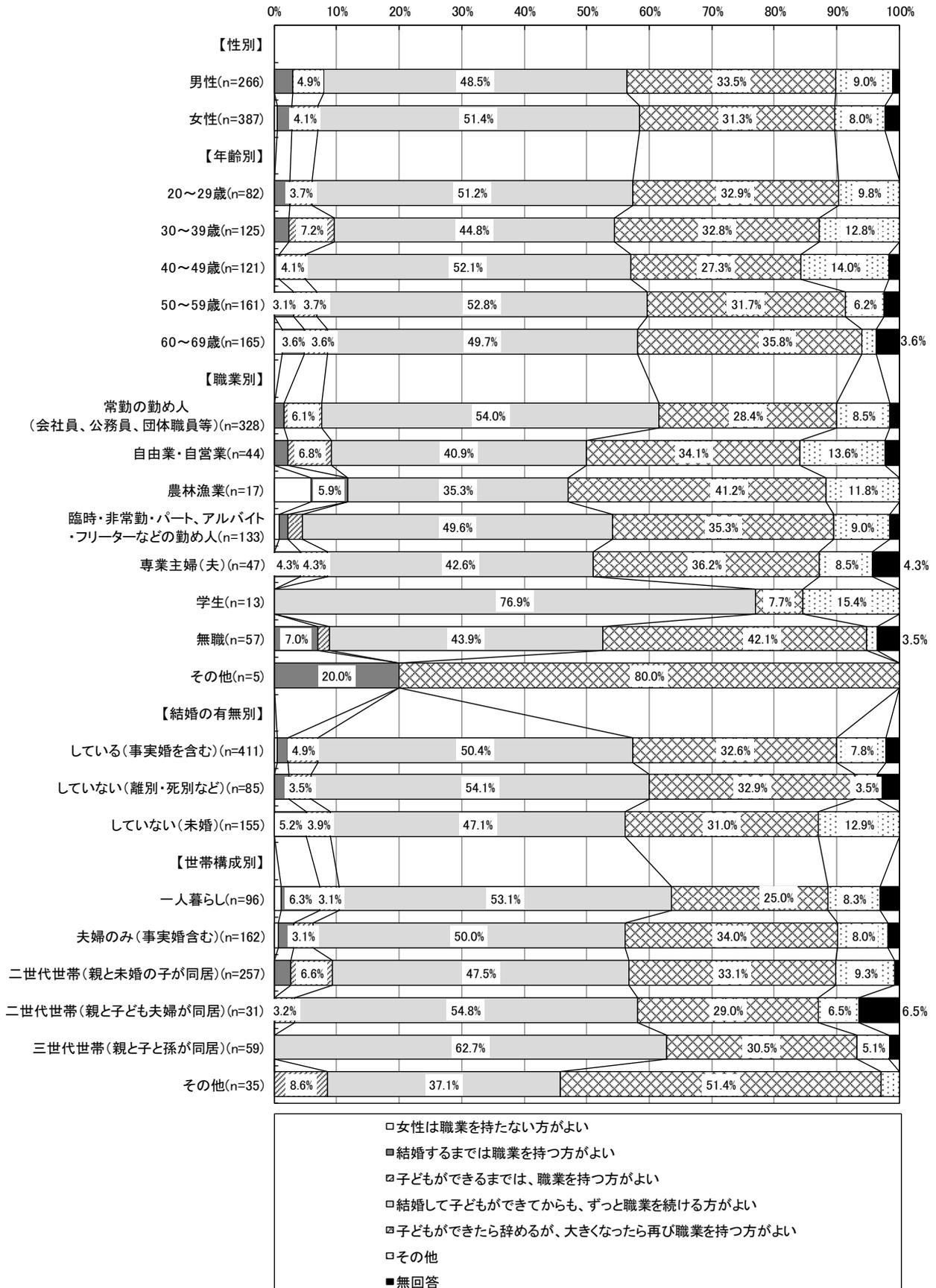
前回調査と比較すると、「結婚して子どもができてからも、ずっと職業を続ける方がよい」では、6.8ポイント今回調査で多くなっています。



## 【属性別】

性別で比較すると、「結婚して子どもができてからも、ずっと職業を続ける方がよい」では、男性よりも女性がやや多くなっています。

年齢別で比較すると、「結婚して子どもができてからも、ずっと職業を続ける方がよい」では、「30～39歳」以外で約5割となっています。



## その他の回答

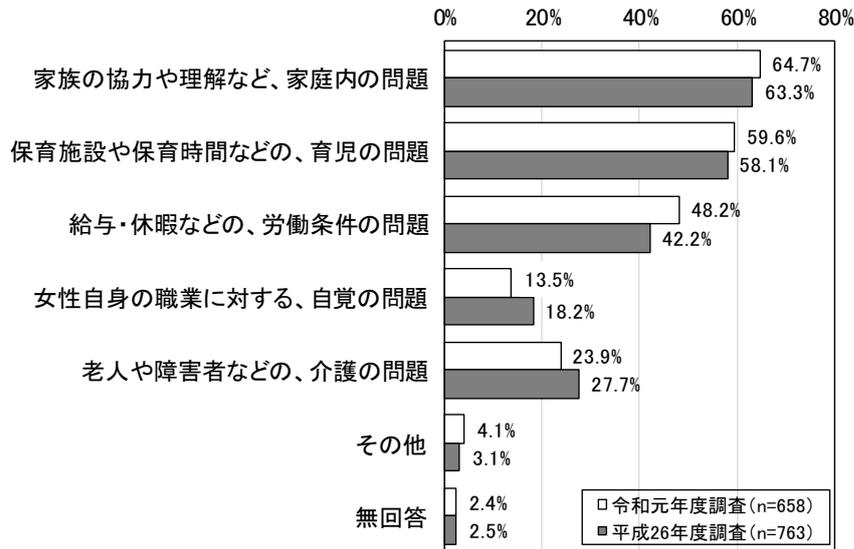
- 沼田の収入では女性も共働きで支えないと生活できない。私としては子育てに集中できる環境が良いと思います。
- 女性が職業につきたいと言えればいいと思う
- 結婚するまでは、その人自身の考え方でいいし、家庭をもったら旦那さんと話し合いをして子供ができ、話ができるようになったら子供にも話、子供の気持ちも聞いてみんなが納得しないと家事も全て一人でするようになってしまうかもしれません。
- 個人の考え次第で良い
- 個人の自由だが女性だから、出産や育児でやめなければならない状況になるのは良くないと思う
- 基本的には賛成、ただ子育てや定年後の働き方は他職員に負担がかかるような時は個人が働き方を考えてほしい
- 本人の意思の尊重がよい。仕事はやりたい人がやれる社会がいい。専業主婦希望で、子育てをしたい人は無理に働く必要もないし、働きたい人は働くのをあきらめるような状況にならないよう、制度が充実すれば働けると思う。
- 本人の考え
- 1～5が選べる社会の仕組み
- 働きたければ働けばいい
- 自分の意思で判断するべきなので一概には言えない
- 仕事が好きなら結婚しても子供を産んでも続けるのが良いし、家事などが好きで働く必要がなければ働かなくていいと思う。
- 1～5のどれを選んでも間違いではない。個人の自由だと思う。
- 生きがいや経済面を考えると
- やりたければやれば良い
- 休暇が適切にとれるのなら職業は持っていた方がよい（育児、介護）
- 金銭面や時間を考慮してその時々で考えればいい
- 好きにして下さい
- 夫婦のライフスタイル次第
- 本人の好きなようにすれば良い！
- その人に合った就労が選択できるといい
- 夫婦での話し合いで決めればよいと思う
- 女性の意思が尊重されるのがよい
- 結婚や出産後も女性が仕事を続けたかったら、周りの環境が整っていたり、理解を示してもらえたら女性は幸せだと思います。続けたくない時も同様だと思います。
- 本人の自由でよい
- 持つことも辞めることも続けることも個人の自由
- 男性が職業を持つことについてなぜ問わないのか
- 個人の自由
- 個々の考え方しだいだと思う
- 本人の好きなようにすればよいと思う
- 職業は持ちたいと思った人が持てば良いと思う

- 女性それぞれの考えで良いと思う。
- 良いとも悪いとも思わない
- どっちでも良い。男女問わず適性に合わせるがよい。
- 人によって状況が違うので一言では片付けられません。どれも正解だと思います。
- 個人の好きなような選択をすればよい
- 女性の自由にすれば良い。
- 経済的に余裕があれば辞めてもよい
- 一般化しにくい事だと思う
- ケースバイケースだと思う
- それぞれだと思います
- 個人の自由
- 4だが育児に支障が出すぎたら困る
- 出産、育児に合わせて仕事量を減らしてでも続けやすいのが良い
- 時短で働ける仕事をもっとあればいいと思う
- 4に近いがその時の状況により短時間にするなど
- 人それぞれなのでその人に良い形がいい
- 個人の価値観によるので何とも言えない
- 女性といえども職に就くべき
- 無理なくすればいい
- 個人の自由
- 会社が産休を当たり前にとれる環境がほしい。またその後子供を育てやすい事も・・・。

問 15 あなたは、女性が仕事をしていると、どのような問題があると思いますか。(〇はいくつでも)

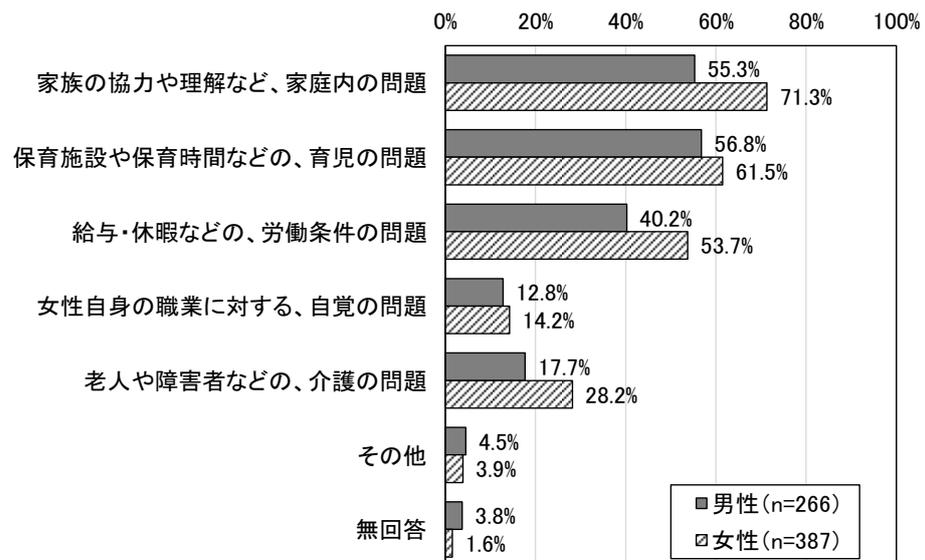
女性が仕事をしていると、どのような問題があると思うかでは、「家族の協力や理解など、家庭内の問題」が 64.7%と最も多く、次いで「保育施設や保育時間などの、育児の問題」が 59.6%、「給与・休暇などの、労働条件の問題」が 48.2%となっています。

前回調査と比較すると、「給与・休暇などの、労働条件の問題」では、6.0ポイント今回調査で多くなっています。



【性別】

性別で比較すると、「家族の協力や理解など、家庭内の問題」では 16.0ポイント、「給与・休暇などの、労働条件の問題」では、13.5ポイント、「老人や障害者などの、介護の問題」では、10.5ポイント男性よりも女性が多くなっています。

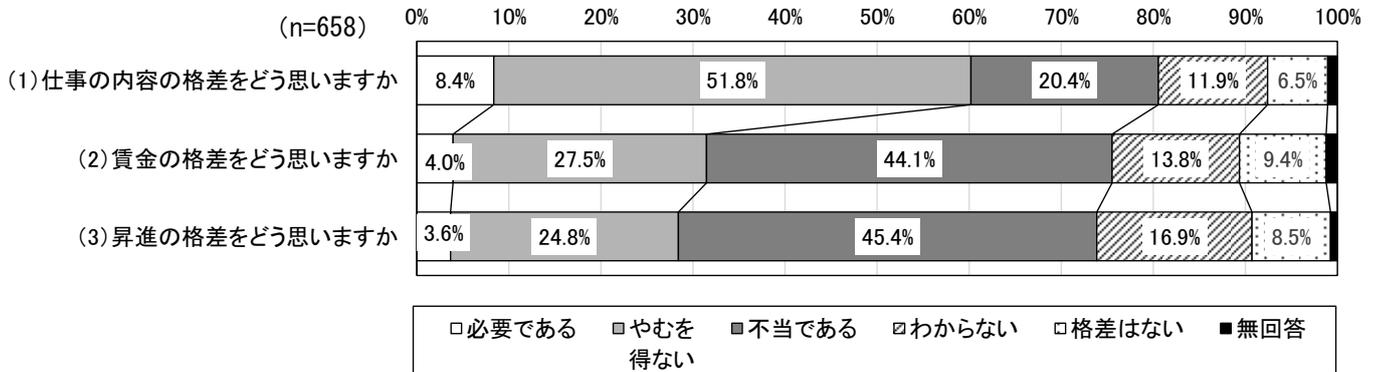


## その他の回答

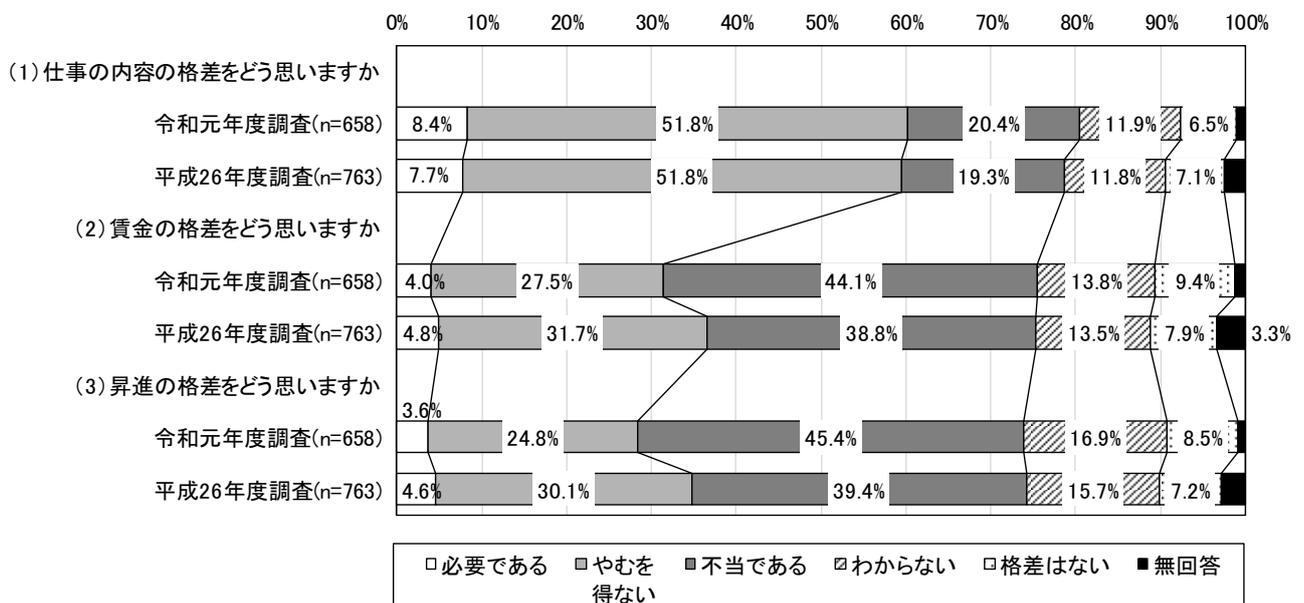
- 子の体調不良や行事のときに仕事を休むことを申し訳なく感じてしまう。
- 体調など女性特有のもの
- 独身時は男女ともに③、結婚し子供ができたなら②
- 1～5すべて。1人1人の意識。
- 仕事をすると問題が生じるという質問が愚か
- 女性が仕事をしているとどのような問題があるとおもいますか、という質問がすでに問題だと思えます。
- この設問そのものが共同参画を否定するものではないでしょうか？
- 仕事と家事の両立
- 職場の上司の理解（異動により、上司が話のわかる人とわからない人がいる）
- 娘は働きたくても扶養控除の問題で働けない（日数）。（限度額が少なすぎる。）
- 理屈ではなく感情的に仕事をされる。
- 上記に理解のない周りの人間や社会の問題。特に子育てをしている人が子供の急な熱などで休む時に文句を言う人が多い。
- 子どもの急な体調不良で会社を休むと会社で立場が悪くなる。子供がかわいそうでフルタイムは難しい。
- ないと思う
- 子どもの調子が悪い時に、やむなく休むことへの理解
- 周囲から家庭に入らないことに対する偏見
- 男性なので分からない。
- 続けるための職場の問題
- 保育施設にあずけても子供が体調不良になって急に仕事を休まなくてはいけない時に仕事が休みにくそうなイメージがあります。子供が体調を崩すことはよくあることなので、その時に仕事が休める職場づくりがあると良いなあと思います。
- 子供がさみしい思いをする

問 16 あなたは、仕事の上で一般的に男性と女性が異なる立場に置かれていることについて、どう思いますか。(それぞれ1つに○)

仕事の上で一般的に男性と女性が異なる立場に置かれていることについて、どう思うかでは、「(1) 仕事の内容の格差をどう思いますか」の項目では、「やむを得ない」が5割を超えています。「(2) 賃金の格差をどう思いますか」「(3) 昇進の格差をどう思いますか」の項目では、「不当である」がそれぞれ4割を超えています。

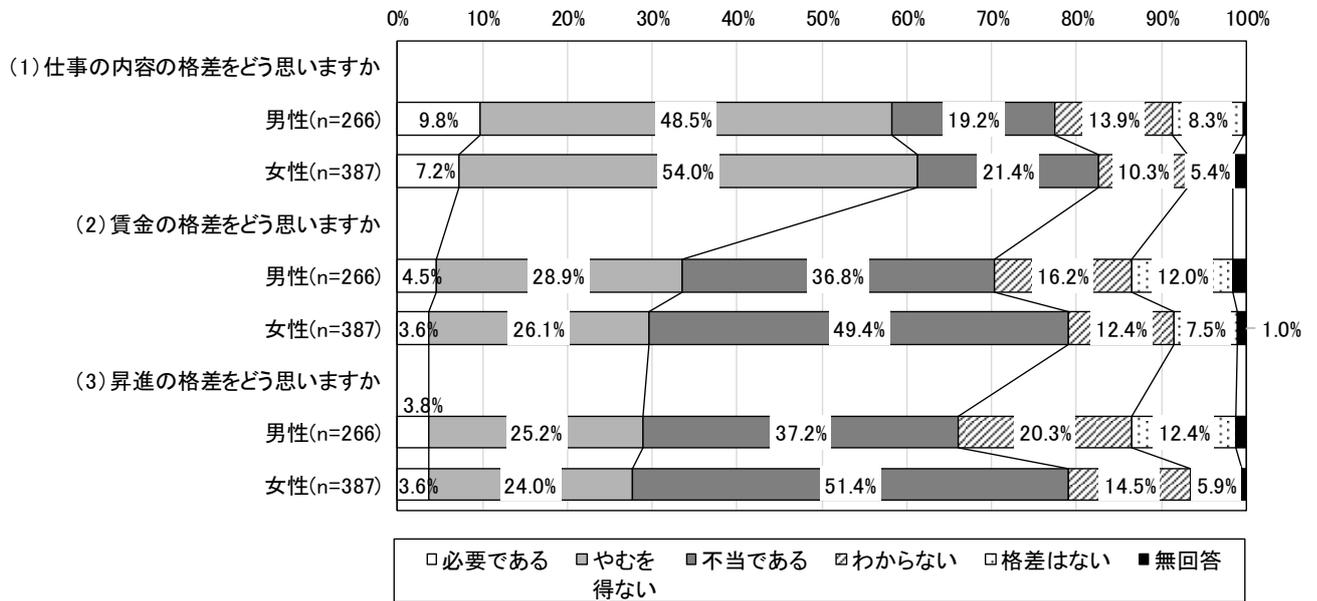


前回調査と比較すると、「(2) 賃金の格差をどう思いますか」「(3) 昇進の格差をどう思いますか」では、「不当である」が今回調査で多くなっています。



## 【性別】

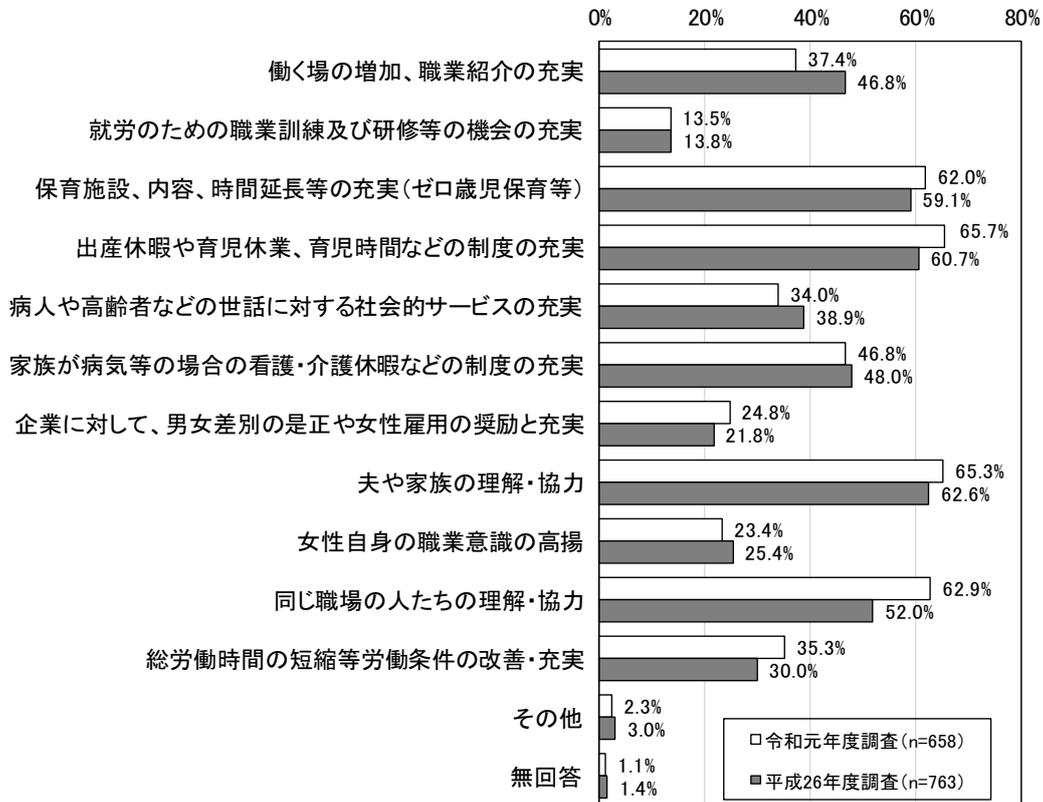
性別で比較すると、すべての項目で、「不当である」が男性よりも女性の方が多くなっています。中でも「(3) 昇進の格差をどう思いますか」で14.2ポイント女性が多くなっています。



問17 あなたは、女性が働き続けるために特に必要なことは何だと思えますか。(〇はいくつでも)

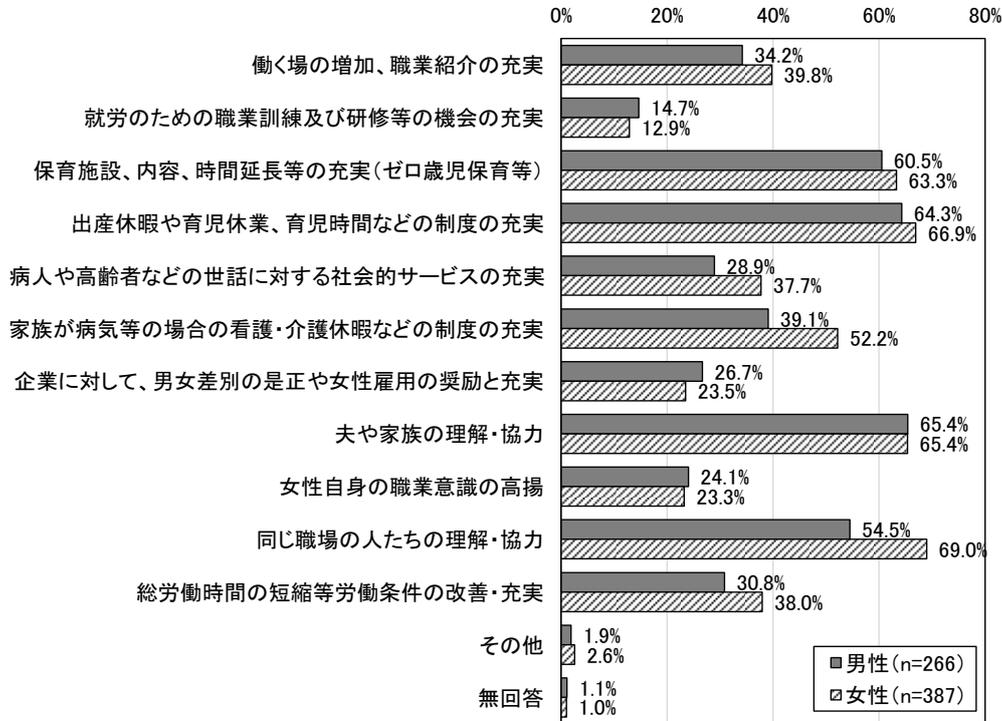
女性が働き続けるために特に必要なことでは、「出産休暇や育児休業、育児時間などの制度の充実」が65.7%と最も多く、次いで「夫や家族の理解・協力」が65.3%、「同じ職場の人たちの理解・協力」が62.9%となっています。

前回調査と比較すると、「同じ職場の人たちの理解・協力」では10.9ポイント多くなっています。



## 【性別】

性別で比較すると、「同じ職場の人たちの理解・協力」では 14.5 ポイント、「家族が病気等の場合の看護・介護休暇などの制度の充実」では 13.1 ポイント男性よりも女性が多くなっています。

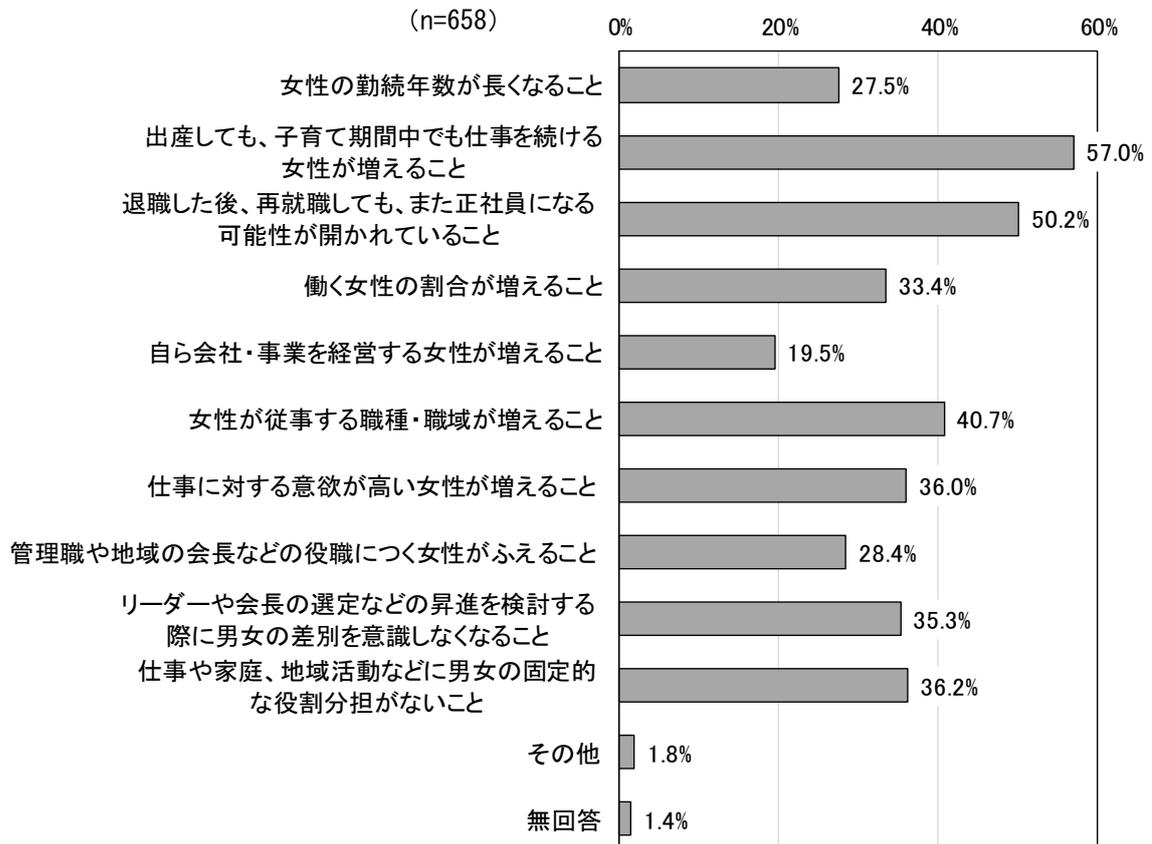


## その他の回答

- 保育士、ベビーシッター
- 一人一人にむけた環境作り。お金が必要なのか。時間が欲しいのか。地位がほしいのか。
- 自身の健康管理
- 社会の子育て中の母に対する受容
- 年齢にあった仕事、経験を活かせる事があるはずだ
- 女性も男性も働き続けられる事が重要だと思います。
- 肉体的、精神的にきつくなっても意思を貫く覚悟。
- 本人のやる気
- 一律に働く条件を決めてしまう事には？一人一人の立場に合った働き方が出来る様に話し会える職場であってほしいです。
- 男性が家庭に入る、パート勤務化の推進
- 外仕事の場合におけるトイレ等。
- ワーキングシェアや在宅で働けるような新しいシステムの導入
- 高齢になると職場がぐっと減る

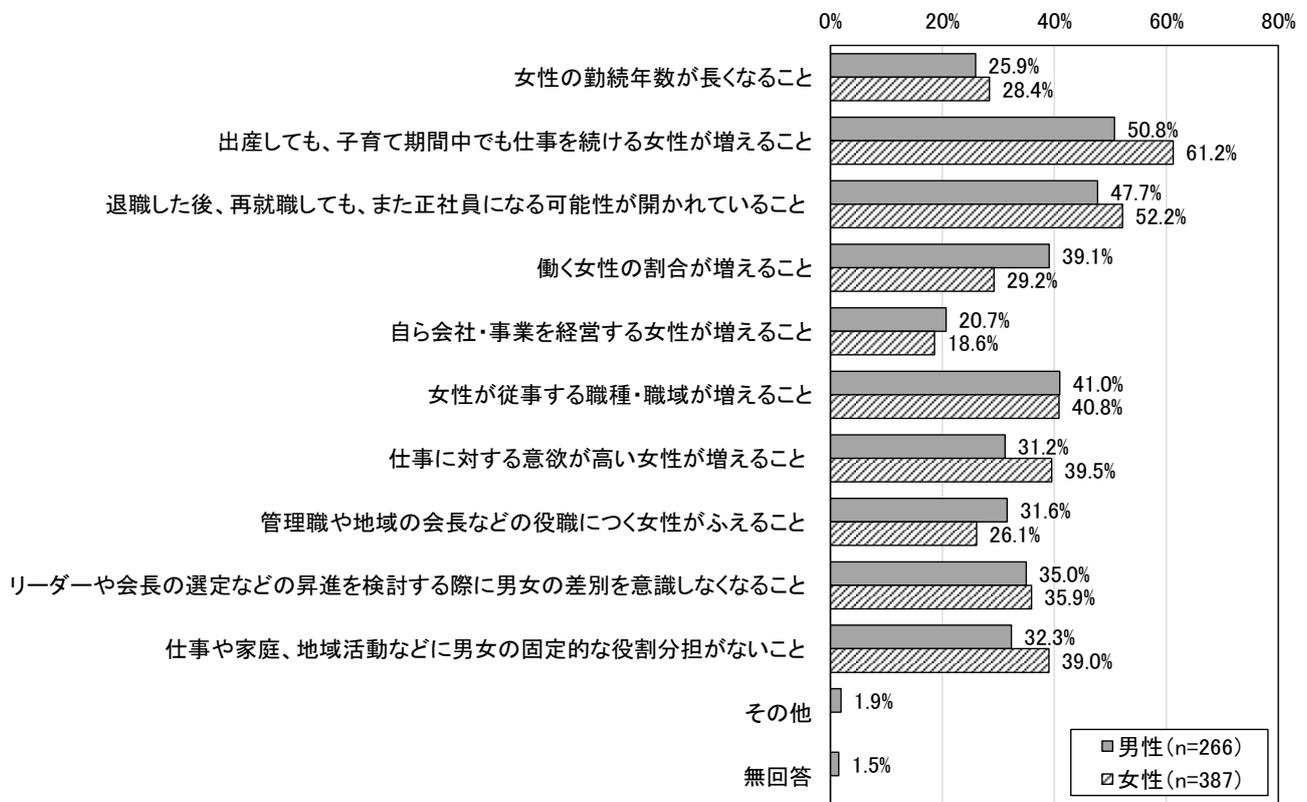
問 18 職業生活において女性が個性と能力を発揮できる社会を目指し、女性活躍推進法が施行されましたが、女性が輝き活躍しているとは、どのような状態になることだと思いますか。(〇はいくつでも)

女性が輝き活躍しているとは、どのような状態かでは、「出産しても、子育て期間中でも仕事を続ける女性が増えること」が 57.0%と最も多く、次いで「退職した後、再就職しても、また正社員になる可能性が開かれていること」が 50.2%、「女性が従事する職種・職域が増えること」が 40.7%となっています。



## 【性別】

性別で比較すると、「出産しても、子育て期間中でも仕事を続ける女性が増えること」では10.4ポイント、「仕事に対する意欲が高い女性が増えること」では8.3ポイント男性よりも女性が多く、「働く女性の割合が増えること」では、女性よりも男性が9.9ポイント多くなっています。

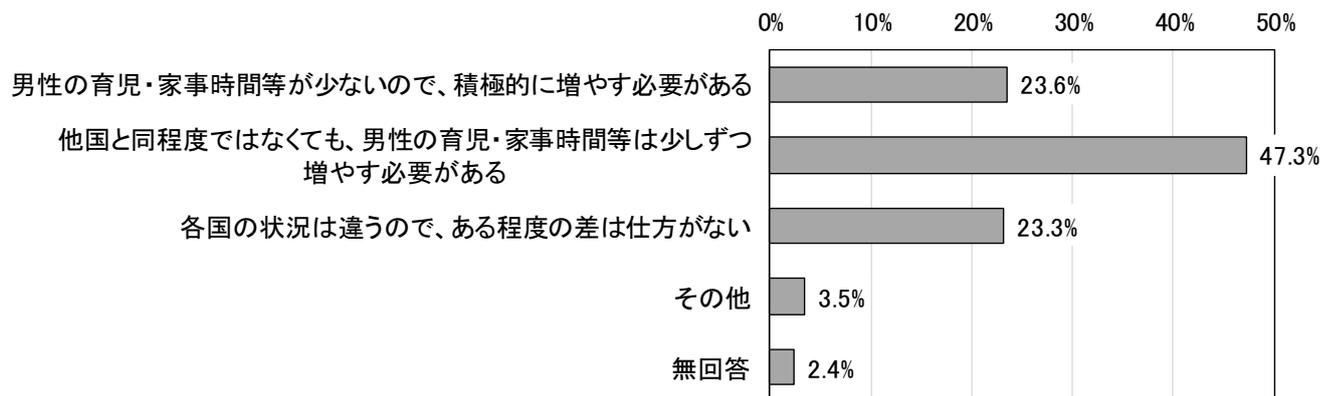


## その他の回答

- 女性が活躍しなきゃいけない社会になりそう。女性の能力を高める→教育→雇用したくなる女性
- 生活のために働くのであって何が輝きなのかわからない
- 女性が職に誇りを持ち自信を持って働き続ける事
- 1～10の設定の状態になっていない社会環境そのものを変える事
- 女性だけの会社を作る
- 女性の働きやすい環境の場所が増えること
- 「女性だから」という理由で制限されることなく、1人1人がやりたい事を出来る社会であること。働く、働かないは個人の自由だと思う。
- 自身の個性、良さを生かして社会で発揮していく状態である事
- いきいきと働いていること
- 結婚・出産の意識が変わる
- 女性の政治家が増えること

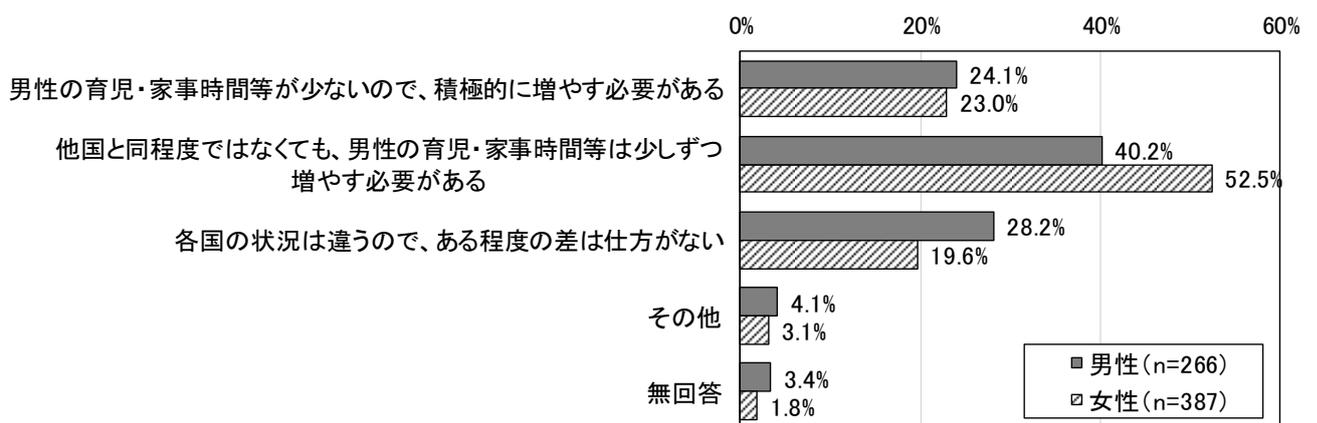
問 19 女性の活躍が求められる一方で、男性については、長時間労働や育休制度の利用が極端に少ない等の現状もあります。また、内閣府の「社会生活基本調査の国際比較」によると、日本は男性の育児・家事関連時間が、1日の内1時間23分なのに対し、イギリス、フランスは2時間30分以上、アメリカ、ドイツ、スウェーデン、ノルウェーは3時間以上となっています。このような日本の現状についてどのように思いますか。(1つだけに○)

日本の現状について思うことでは、「他国と同程度ではなくても、男性の育児・家事時間等は少しずつ増やす必要がある」が47.3%と最も多く、次いで「男性の育児・家事時間等が少ないので、積極的に増やす必要がある」が23.6%、「各国の状況は違うので、ある程度の差は仕方がない」が23.3%となっています。



### 【性別】

性別で比較すると、「他国と同程度ではなくても、男性の育児・家事時間等は少しずつ増やす必要がある」では、男性よりも女性が12.3ポイント多く、「各国の状況は違うので、ある程度の差は仕方がない」では、女性よりも男性が8.6ポイント多くなっています。



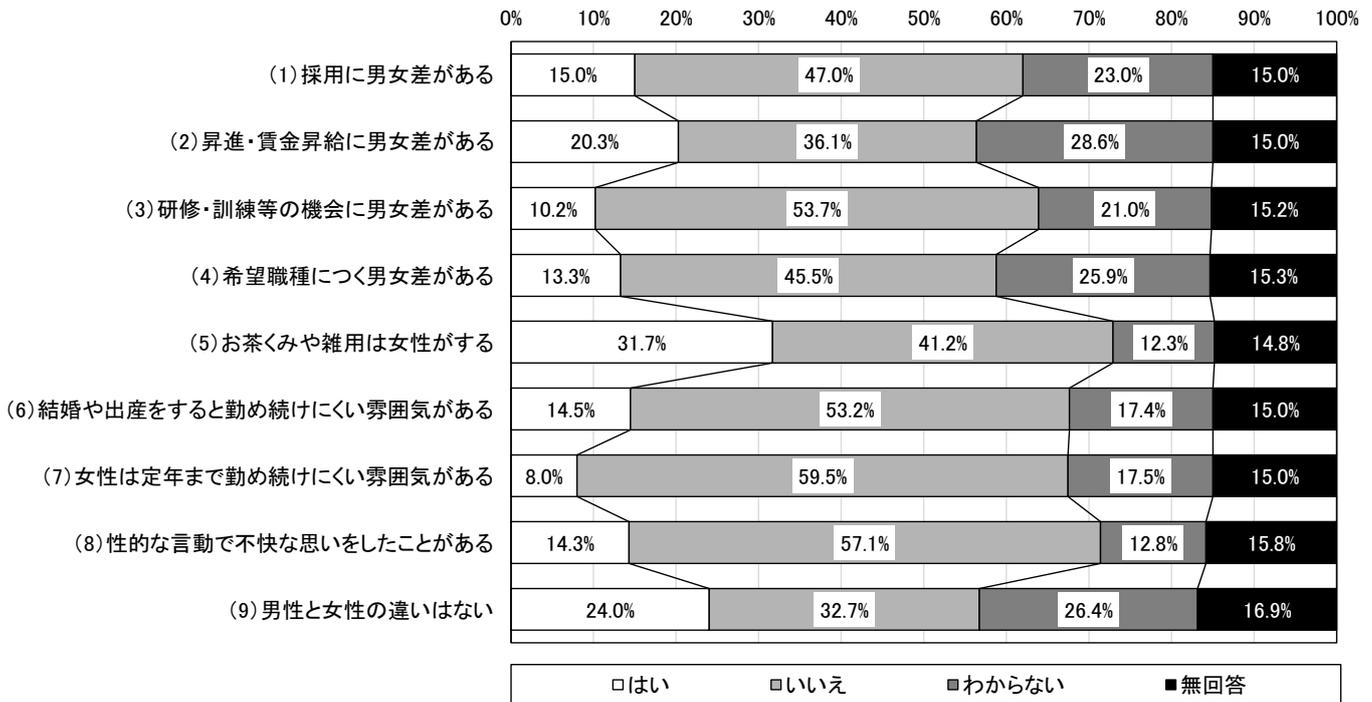
## その他の回答

- 男性の長時間労働や育休制度の利用を改善するには性別を意識せず平等に見なければ進歩しないと思う
- 日本の構造的問題、日本の労働者は長時間労働しか知らない
- 社会的にまだ浸透していない考えだから無理
- 育児についての関心を高めるのは必要ではあるが現在の働き方では時間がとれなくともやむを得ない。働き方から変えていくべきである。
- そもそも長時間の労働をしなければならない労働環境に問題がある
- あくまで夫婦で決めるべき
- 各家庭の女性の就労状況により異なると思う。短時間で勤務しているなら家庭内の事は女性が多くすべき。ただし子育ては、父も積極的に参加して楽しんでほしい。(ただ子供と遊ぶだけでも母はとても助かるのです。)
- 男性は家事と育児のやり方が分からないようなので研修が必要。
- 定時に帰社が当たり前になれば変わると思う
- 育児や家事に参加してもらうことが良いことではない。時間があるからゲームをしたりパチンコ行っていたら気に入らない。
- 個人の方ではどうにもならない、できない
- 代わりの人材がないから仕方ない
- 男性の労働時間を見直し（短く）家庭の仕事ができる時間を増やす
- ベースが男性中心なのでまず意識改革をしないと難しいと思う
- 最低クラス
- 日本は仕事に拘束される時間が長すぎて男性が育児に参加したくてもできないと思うので勤務時間を減らすとか労働日数を減らさないは無理
- 男性の意識改革が必要と思います
- 男性の会社等勤務先の拘束時間の長さが問題
- 人生を生きる事は収入を上げる事ではない。価値観を変える事も必要

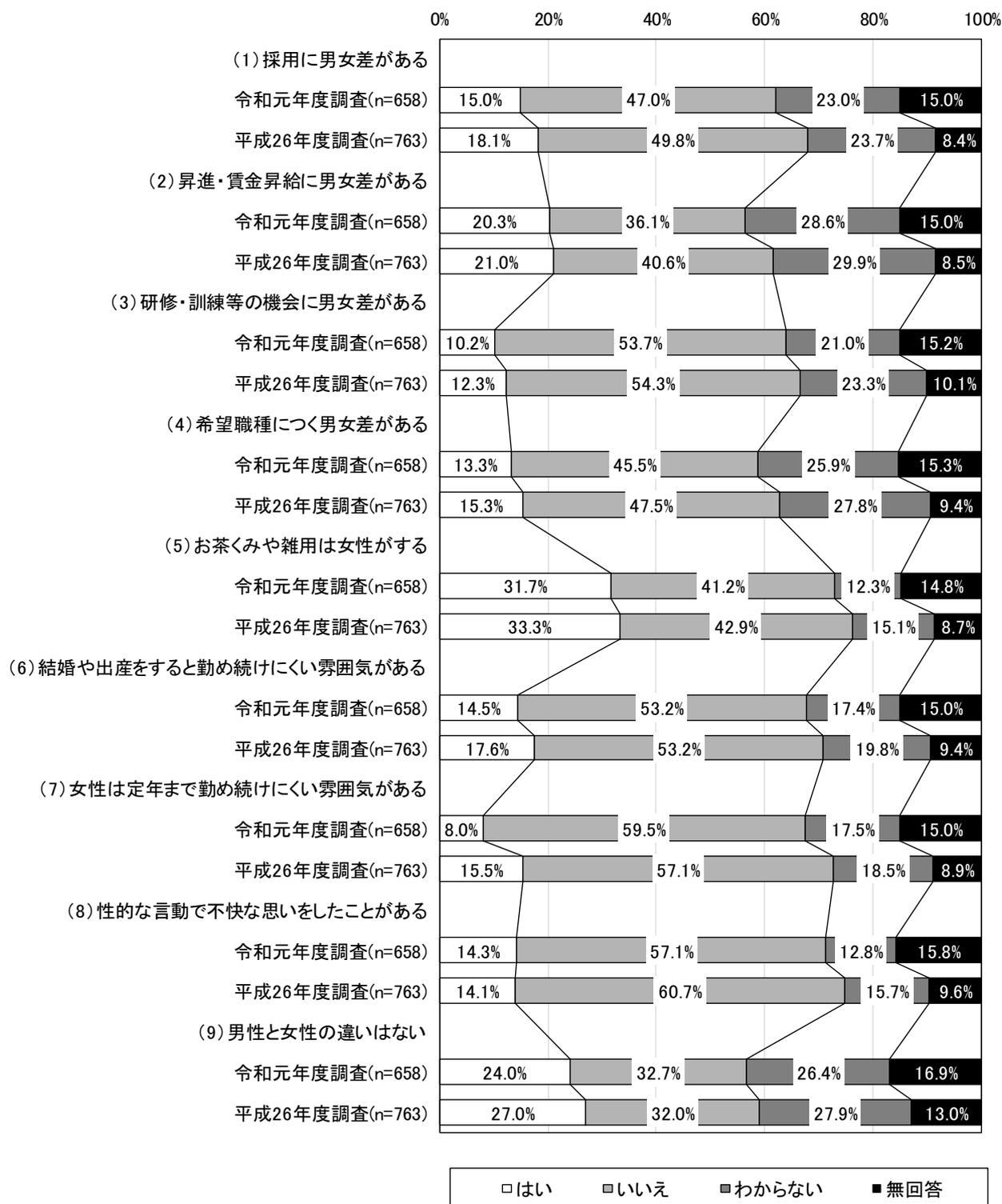
問 20 【現在、働いている方に伺います】

あなたの職場では、次のようなことがありますか。(それぞれ1つに○)

職場について「はい」の回答が多い項目では、「(5) お茶くみや雑用は女性がする」が3割を超えています。また、「いいえ」の回答が多い項目では、「(7) 女性は定年まで勤め続けにくい雰囲気がある」が最も多く、次いで「(8) 性的な言動で不快な思いをしたことがある」「(3) 研修・訓練等の機会に男女差がある」となっています。

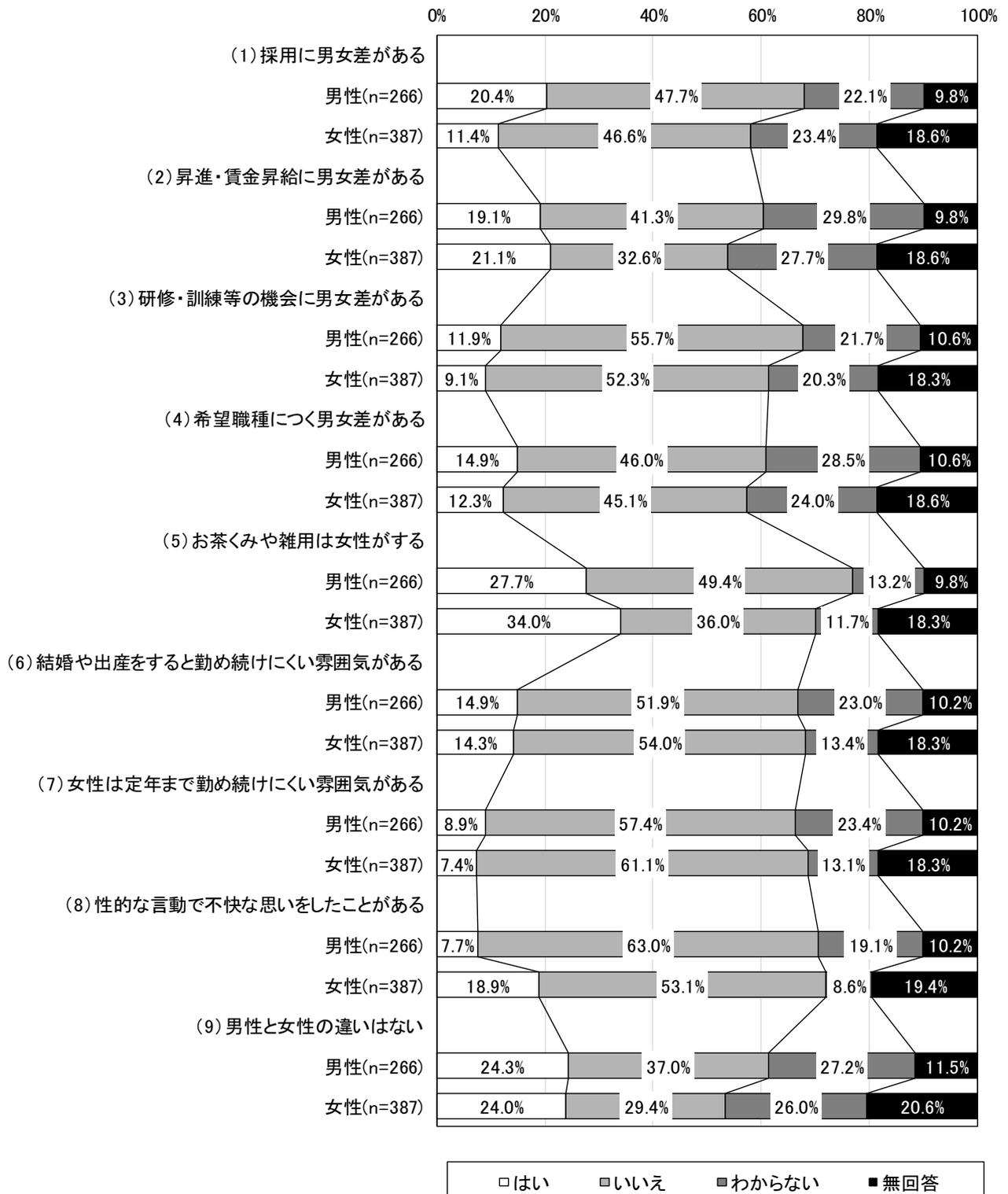


前回調査と比較すると、「(7) 女性は定年まで勤め続けにくい雰囲気がある」では「はい」が前回調査より少なくなっています。



## 【性別】

性別で比較すると、女性より男性の「はい」が多い項目は「(1) 採用に差がある」となっています。男性より女性の「はい」が多い項目は「(5) お茶くみや雑用は女性がする」「(8) 性的な言動で不快な思いをしたことがある」となっており、男女差のある回答となっています。



(10) その他の回答

- 役職への性別の「割合」により真に能力のある者がそのポストに就くと限らない
- 男性と女性で活躍できる場が違うため
- 男性にしかできない事、女性にしかできない事があると思う。平等というけれど能力の差を無視することが平等とは思わない
- 定年後のバイト生活
- 女性管理職の増加が望まれ試験に合格する女性が増えた（あまりできなくても）
- 制度に差はないが意識に差がある。
- 私の職場は、私1人である
- (9) いいえと答えたのは体力がいる仕事の為
- 高齢者の中には胸やお尻を触る人がいる。どこまで我慢するのでしょうか？
- 職人が働く会社なので女性が一人いるだけなので男女の格差が分かりづらい。
- 管理職の女性や先輩同僚に嫌がらせを受けている
- 自営業なので、どれにも当てはまらない
- ほとんどが女性なので何とも言えない
- どちらかと言えば女性優位の職場である
- 外仕事なので、女性に対してトイレ等に気を使わざるを得ない。
- 年配女性からのパワハラとも取れる言動
- 子どもの体調不良で早退しづらい欠勤
- 職場がこども園のため女性100%なので男女差はない
- 体力的な仕事（力仕事）は男が担っている
- 農業専従
- 女性社員がいないので明確ではない
- 力仕事ではどうしても女性が不利になるからそのことが差になることがどうにもならない。

問 21 生活の中で、「家庭生活」、「仕事」、「個人・地域活動（趣味・町内会の活動・ボランティア活動など）」の優先度について、あなたの現実と希望に最も近いものを選んでください。  
 （現実と希望の「「仕事」を優先」～「わからない」それぞれについて1つだけに○）

**現実**

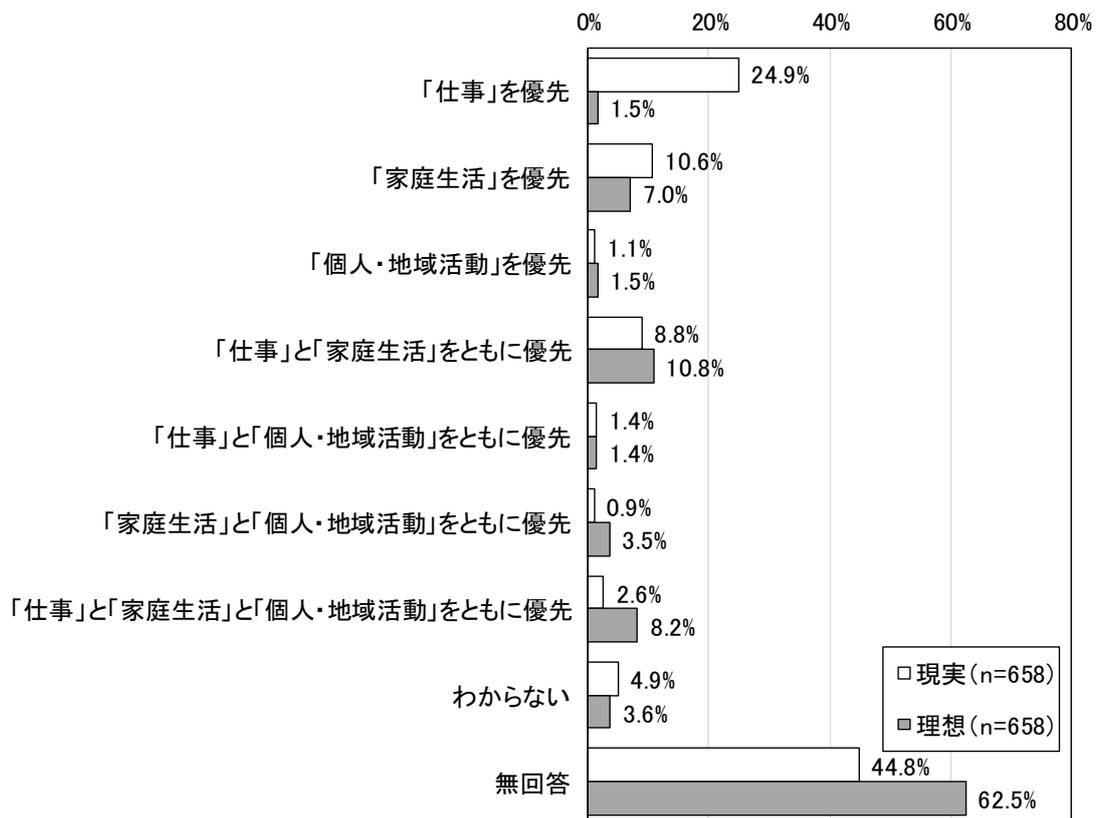
生活の中の優先度では、「「仕事」を優先」が24.9%と最も多く、次いで「「家庭生活」を優先」が10.6%、「「仕事」と「家庭生活」をともに優先」が8.8%となっています。

前回調査と比較すると、大きな差はありませんでした。

**理想**

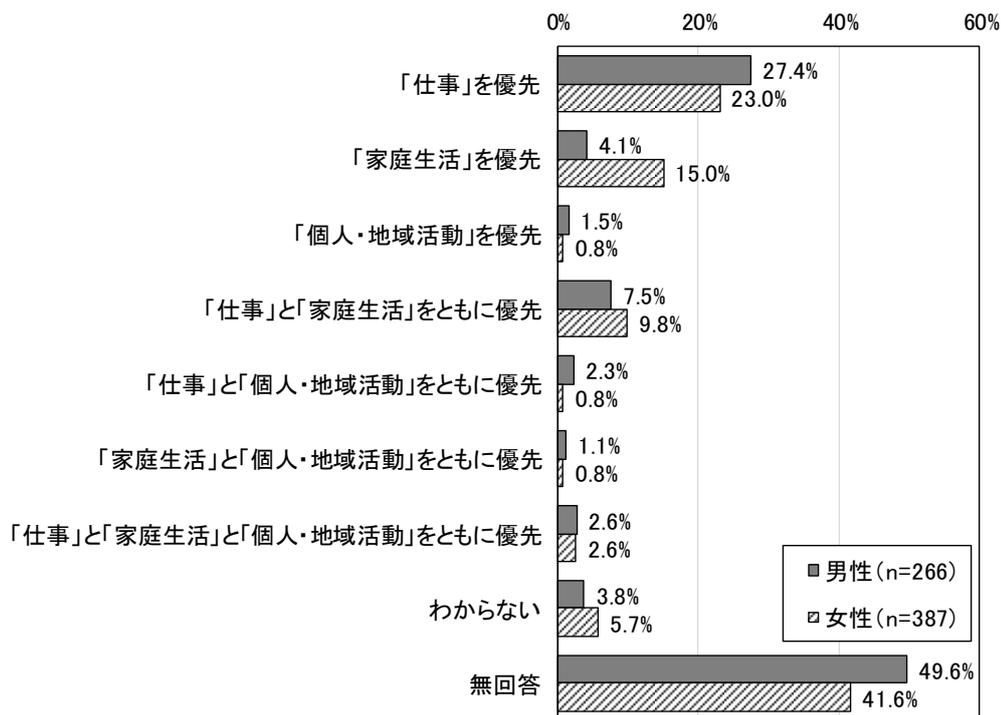
生活の中の優先度では、「「仕事」と「家庭生活」をともに優先」が10.8%と最も多く、「「仕事」と「家庭生活」と「個人・地域活動」をともに優先」が8.2%となっています。

現実と理想で比較すると、「「仕事」を優先」が理想より現実が23.4ポイント多くなっています。



## 現実【性別】

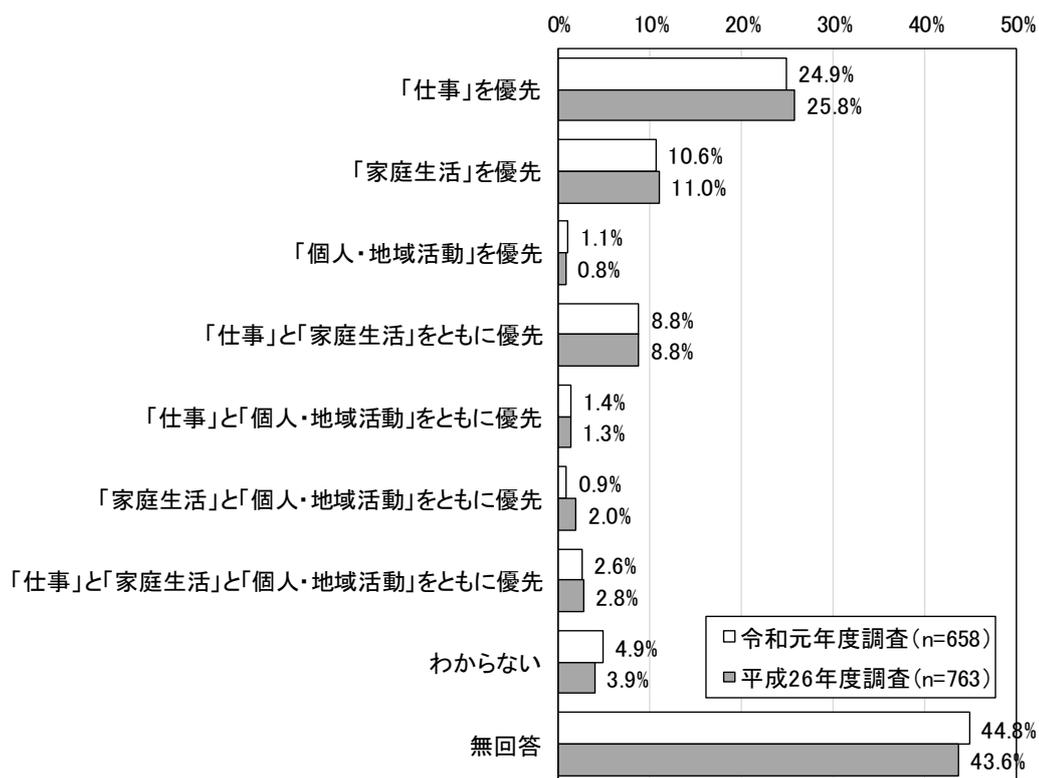
性別で比較すると、「家庭生活」を優先」では 10.9 ポイント男性より女性が多くなっています。



※複数回答が多いため無回答が多くなっています。

## 現実【前回比較】

前回調査で比較すると、あまり差はありませんでした。



※複数回答が多いため無回答が多くなっています。

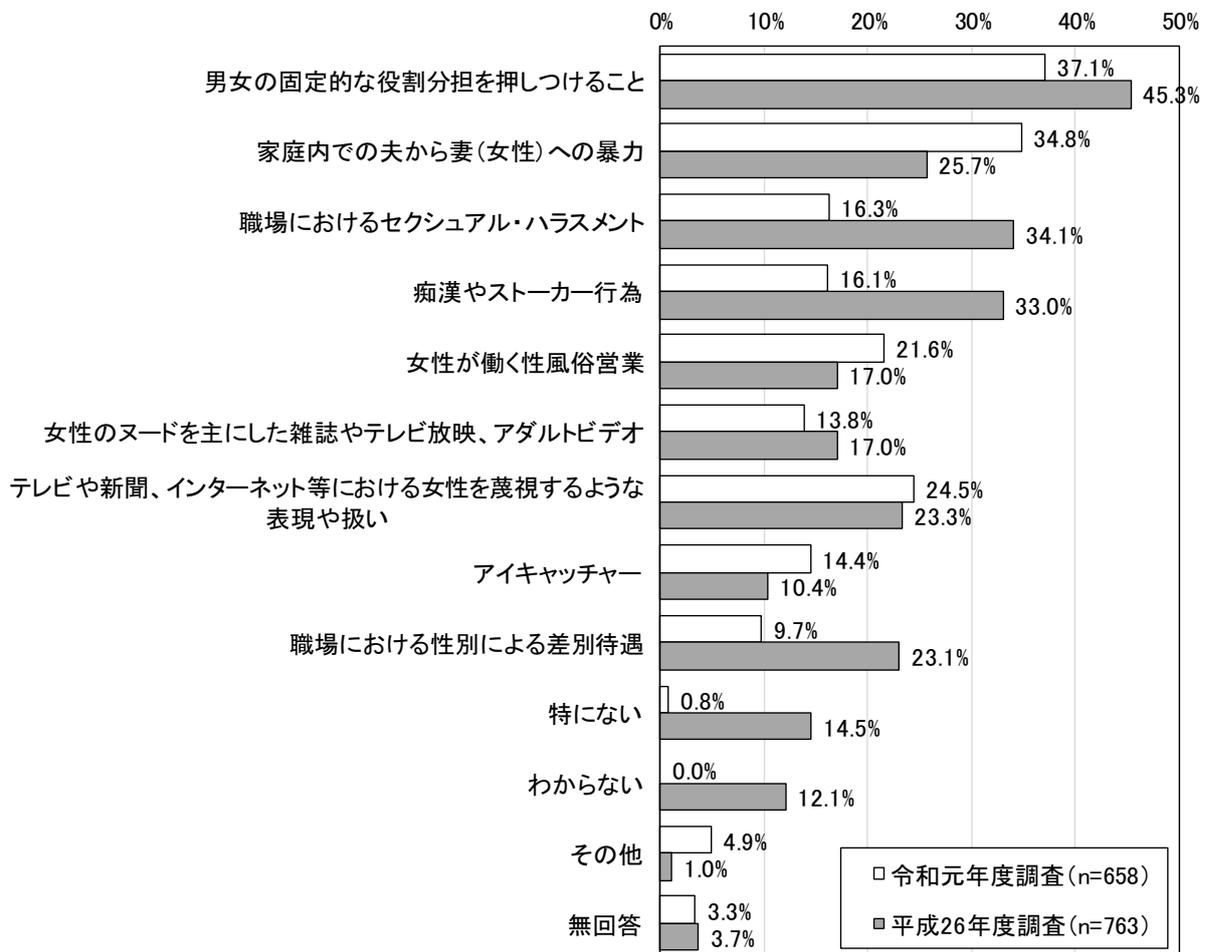
## 7. 人権について

問 22 あなたは、女性の人権が尊重されていないと感じるのは、どのようなことについてですか。(〇はいくつでも)

女性の人権が尊重されていないと感じることでは、「男女の固定的な役割分担を押しつけること（「男は仕事、女は家庭」など）」が 37.1%と最も多く、次いで「家庭内での夫（恋人など同居の男性を含む）から妻（女性）への暴力」が 34.8%となっています。

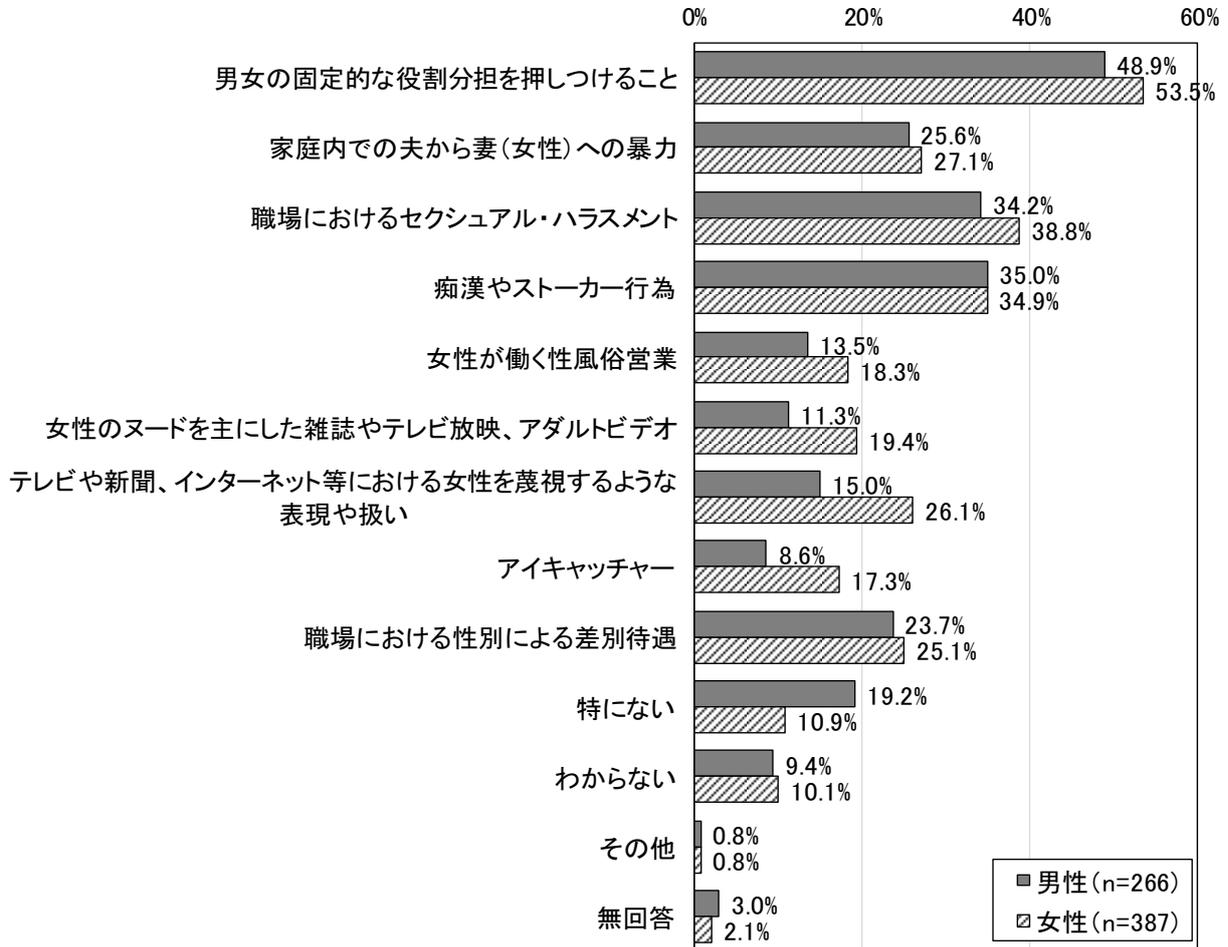
前回調査と比較すると、「家庭内での夫（恋人など同居の男性を含む）から妻（女性）への暴力」が 9.1 ポイント、「女性が働く性風俗営業」が 4.6 ポイント、「アイキャッチャー（人目をひくためのもの）として、女性の体やしぐさを使用」が 4.0 ポイント今回調査で多くなっています。

また、「職場におけるセクシュアル・ハラスメント（性的いやがらせ・おどし・いじめ）」では、17.8 ポイント、「痴漢やストーカー行為」では、16.9 ポイント、「職場における性別による差別待遇」では、13.4 ポイント今回調査で少なくなっています。



## 【性別】

性別で比較すると、「女性が働く性風俗営業」「女性のヌードを主にした雑誌やテレビ放映、アダルトビデオ」「テレビや新聞、インターネット等における女性を蔑視するような表現や扱い」「アイキャッチャー（人目をひくためのもの）として、女性の体やしぐさを使用」では、男性よりも女性が多くなっています。

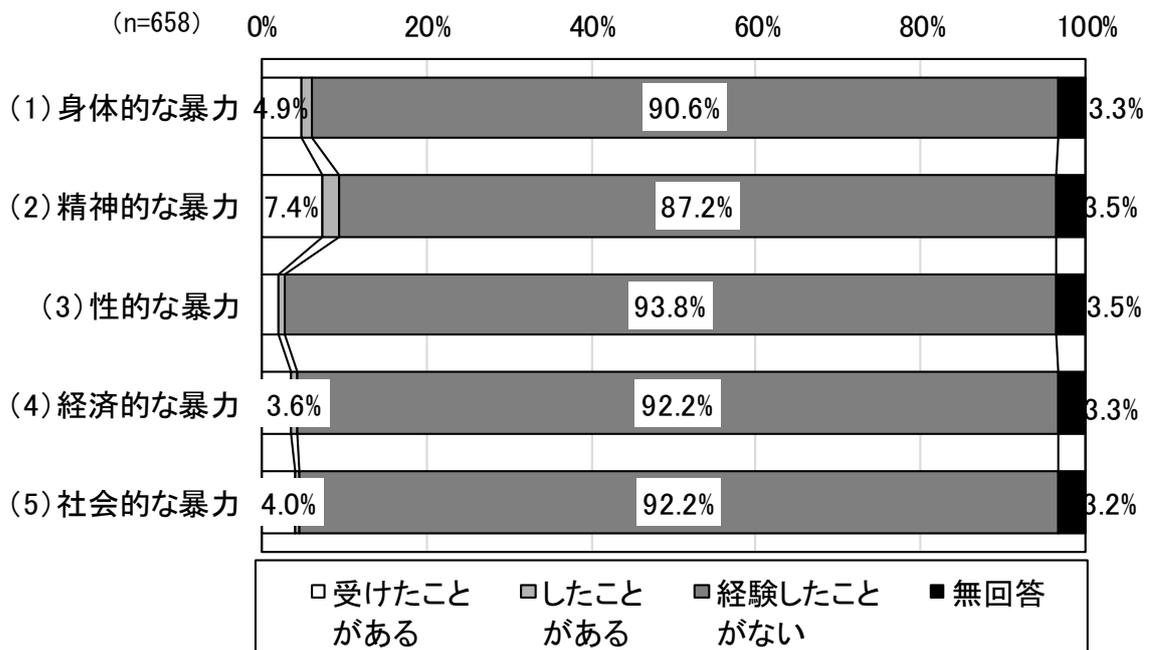


### その他の回答

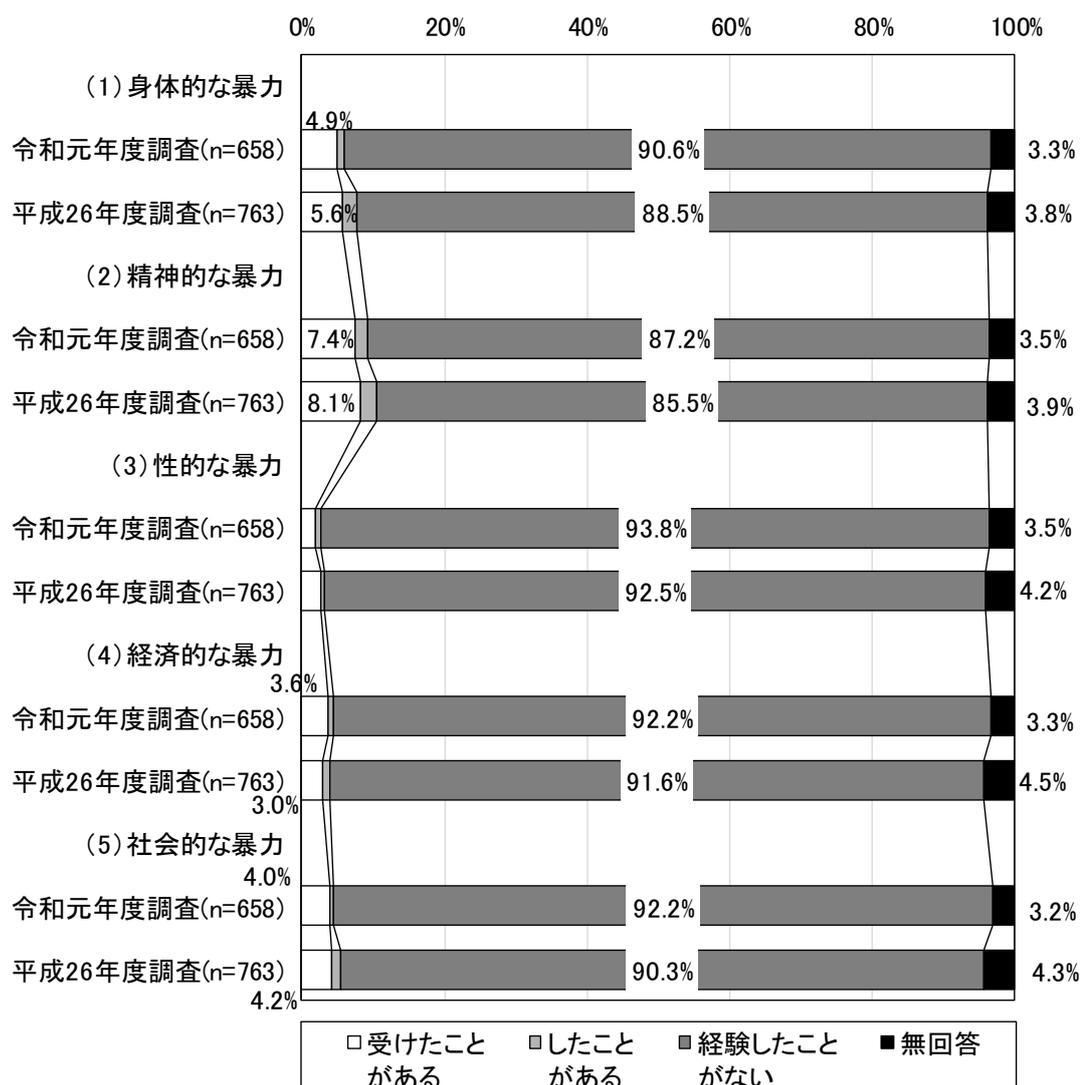
- 職場では男女とも差別なしの職場に
- 3 についてですが、男性が女性を見下すことは会社の中で日々行われおります。
- 妻も働いているのに夫は家庭内の事、育児をしない事。子供を産んだら女性だけがガマンしなければならない事。
- 育児しながら働いても、お休みじゃんと言われた時
- マタハラなど

問 23 あなたは、ここ数年の間に、配偶者や恋人からの暴力（DV…ドメスティック・バイオレンス）について、経験したことがありますか。（それぞれ1つに○）

ここ数年の間に、配偶者や恋人からの暴力について、経験したことがあるかでは、「受けたことがある」の回答が多い項目では、「(2) 精神的な暴力（なぐるふりをしておどす、刃物などを突きつけておどす、何を言っても無視する、人格を否定するような暴言をはくなど）」が多く、「したことがある」の回答が多い項目では、「(1) 身体的な暴力（平手で打つ、なぐる、足でける、物を投げつける、突き飛ばされるなど）」、「(2) 精神的な暴力（なぐるふりをしておどす、刃物などを突きつけておどす、何を言っても無視する、人格を否定するような暴言をはくなど）」が多くなっています。

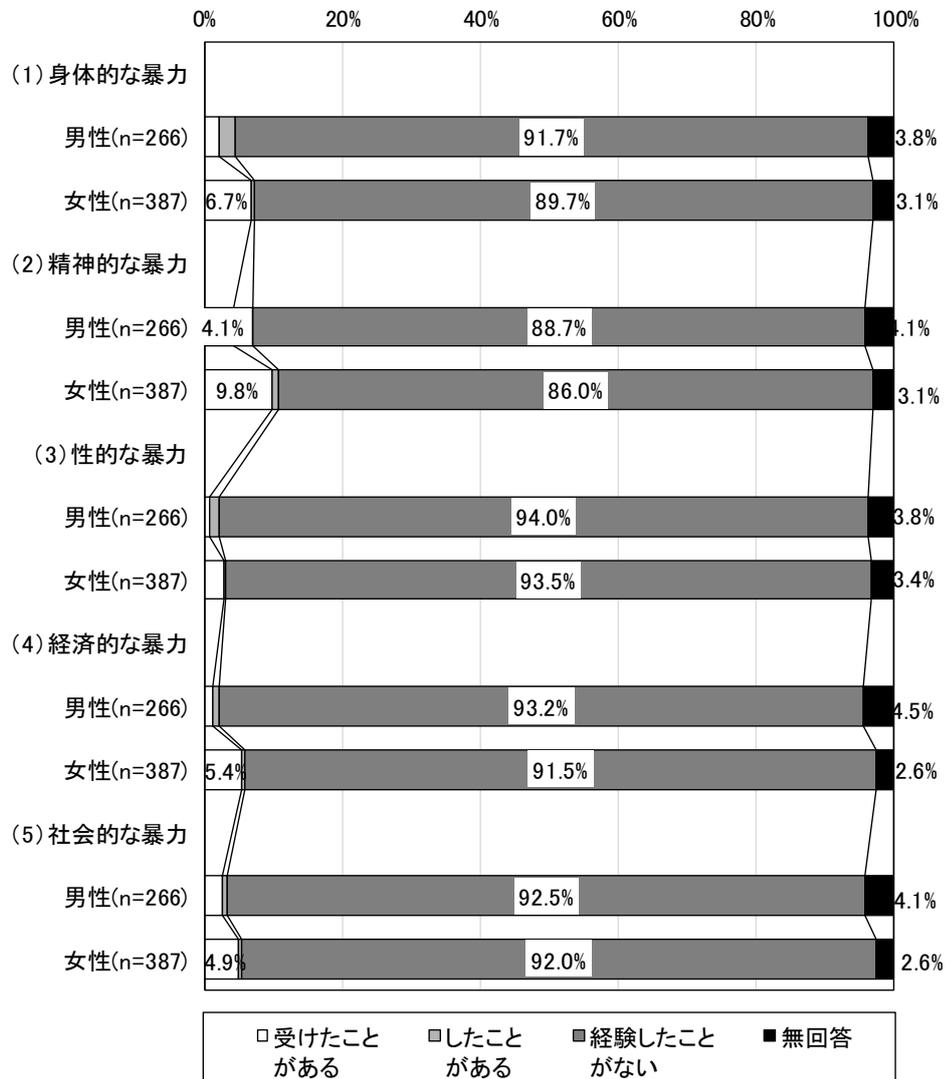


前回調査と比較すると、多くの項目でわずかですが「受けたことがある」が少なくなっています。また、「(4) 経済的な暴力」については、前回調査よりやや多くなっています。



## 【性別】

性別で比較すると、すべての項目で「受けたことがある」が、男性よりも女性が多くなっています。中でも「(2) 精神的な暴力」では5.7ポイント女性が多くなっています。

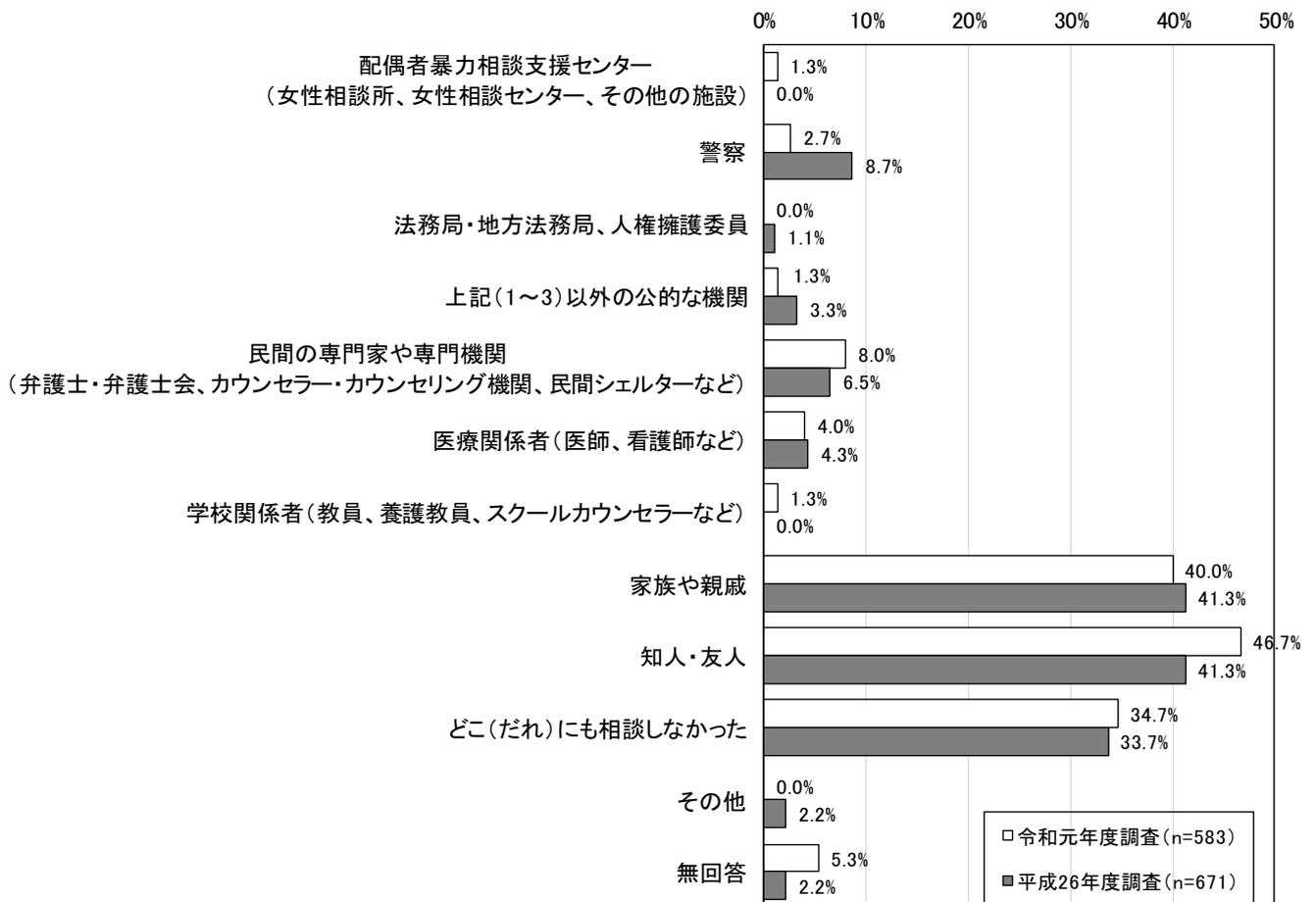


【問 23 で、「受けたことがある」と1つでも回答した方に伺います】

問 23-1 あなたは、あなたが受けたそのような行為について、誰かに打ち明けたり、どこかに相談しましたか。(〇はいくつでも)

暴力を受けた行為では、「知人・友人」が 46.7%と最も多く、次いで「家族や親戚」が 40.0%、「どこ(だれ)にも相談しなかった」が 34.7%となっています。

前回調査と比較すると、「配偶者暴力相談支援センター(女性相談所、女性相談センター、その他の施設)」「民間の専門家や専門機関(弁護士・弁護士会、カウンセラー・カウンセリング機関、民間シェルターなど)」「学校関係者(教員、養護教員、スクールカウンセラーなど)」「知人・友人」が今回調査で多くなっています。



【問 23-1 で、「どこ（だれ）にも相談しなかった」と回答した方に伺います】

問 23-2 あなたが、どこ（だれ）にも相談しなかった理由はなんですか。（〇はいくつでも）

どこ（だれ）にも相談しなかった理由では、「相談しても無駄だと思ったから」が 26 件中 15 件と最も多く、次いで「自分さえがまんすれば、なんとかこのままやっていけると思ったから」が 12 件、「恥ずかしくてだれにも言えなかったから」が 7 件となっています。

前回調査と比較すると、「恥ずかしくてだれにも言えなかったから」「相談しても無駄だと思ったから」「相談したことがわかると、仕返しを受けたり、もっとひどい暴力を受けると思ったから」「自分さえがまんすれば、なんとかこのままやっていけると思ったから」「世間体が悪いから」「相手の行為は愛情の表現だと思ったから」が今回調査で多くなっています。

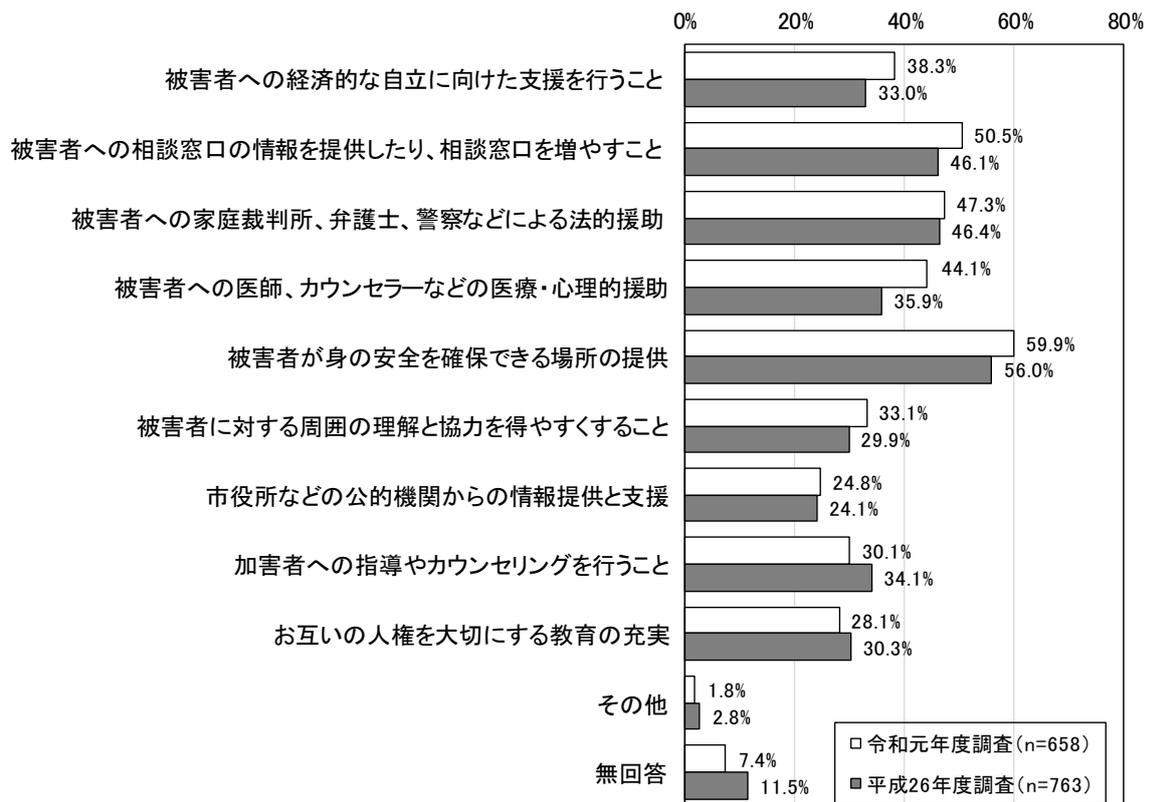
	令和元年度調査		平成26年度調査	
	度数	構成比	度数	構成比
どこ（だれ）に相談してよいのかわからなかったから	2	7.7%	4	12.9%
恥ずかしくてだれにも言えなかったから	7	26.9%	3	9.7%
相談しても無駄だと思ったから	15	57.7%	15	48.4%
相談したことがわかると、仕返しを受けたり、もっとひどい暴力を受けると思ったから	5	19.2%	2	6.5%
加害者に「誰にも言うな」とおどされたから	0	0.0%	0	0.0%
相談相手の言動によって不快な思いをさせられると思ったから	0	0.0%	1	3.2%
自分さえがまんすれば、なんとかこのままやっていけると思ったから	12	46.2%	8	25.8%
世間体が悪いから	5	19.2%	3	9.7%
他人を巻き込みたくなかったから	4	15.4%	5	16.1%
他人に知られると、これまで通りのつき合い（仕事や学校などの人間関係）ができなくなると思ったから	1	3.8%	4	12.9%
そのことについて思い出したくなかったから	2	7.7%	4	12.9%
自分にも悪いところがあると思ったから	6	23.1%	8	25.8%
相手の行為は愛情の表現だと思ったから	3	11.5%	0	0.0%
相談するほどのことではないと思ったから	5	19.2%	8	25.8%
その他	0	0.0%	5	16.1%
無回答	0	0.0%	0	0.0%
回答者数	26		31	
非該当	632		732	
合計	658		763	

※回答者数が少ない為、表のみ掲載

問 24 パートナー（配偶者や恋人など）からの暴力に対して、どのような援助が有効だと思いますか。（〇はいくつでも）

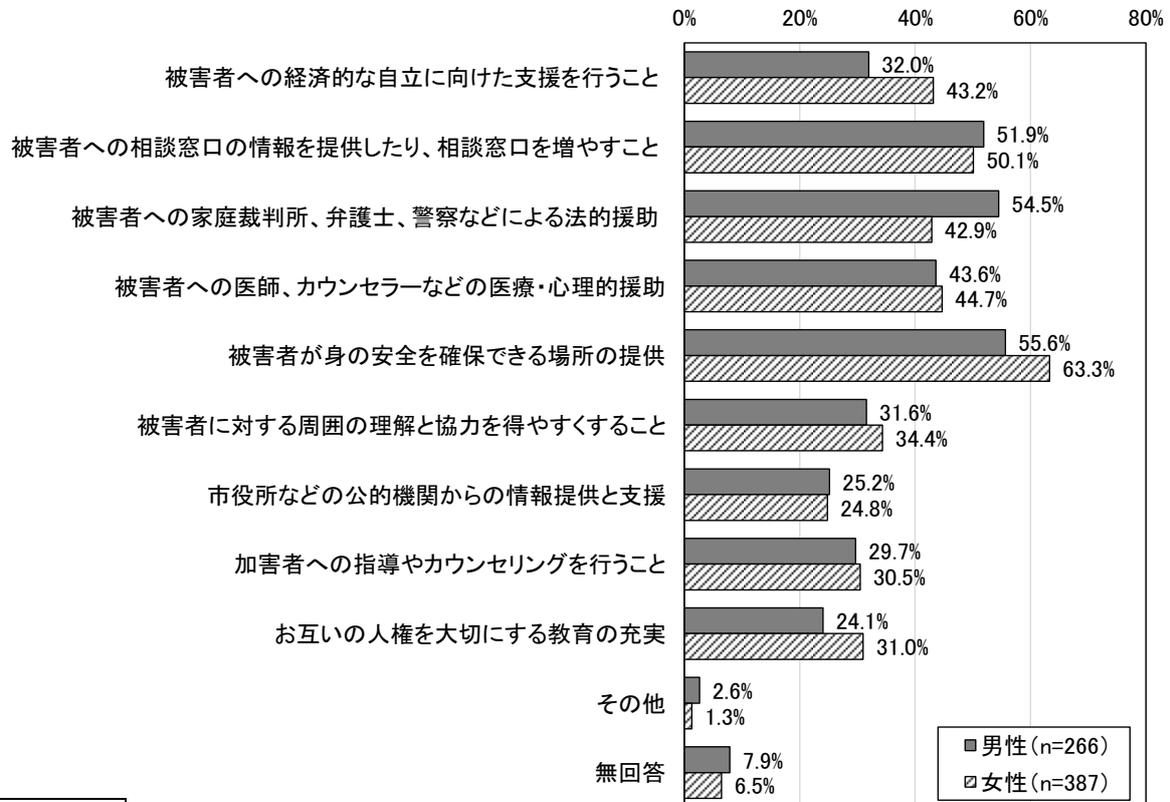
パートナー（配偶者や恋人など）からの暴力に対して、どのような援助が有効だと思うかでは、「被害者が身の安全を確保できる場所の提供」が 59.9%と最も多く、次いで「被害者への相談窓口の情報を提供したり、相談窓口を増やすこと」が 50.5%、「被害者への家庭裁判所、弁護士、警察などによる法的援助」が 47.3%となっています。

前回調査と比較すると、「被害者への医師、カウンセラーなどの医療・心理的援助」が 8.2 ポイント、「被害者への経済的な自立に向けた支援を行うこと」が 5.3 ポイント多くなっています。



## 【性別】

性別で比較すると「被害者への家庭裁判所、弁護士、警察などによる法的援助」が 11.6 ポイント女性より男性が多く、「被害者への経済的な自立に向けた支援を行うこと」が 11.2 ポイント男性より女性が多くなっています。



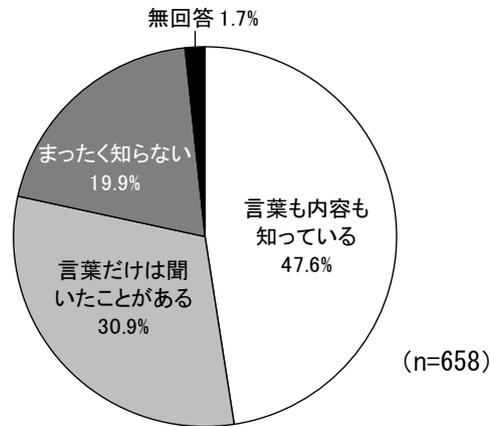
### その他の回答

- すべてがまん！
- DV加害者の厳罰化
- 経済的自立（仕事）と安全な場所があったとしても、育児（工作中）の必要があるから、その3点が必要であると思う。
- 加害者側への罰則強化
- 児童虐待等、それ以前の虐待の防止
- 1～9が真に個々の（人権）意識として定着できる、学校～社会～職場教育の充実、生涯教育として必要と思います。
- パートナーの逆上を避けるため慎重に支援を行う
- 罰則の強化と被害者に対する早期対応
- 暴力をふるう人は最低、そんな人とは居ない方がよい
- ・被害を受けている人は自分が被害者である。相手はおかしい。と気づけるようになってほしい。・まず気軽に逃げ込める場所の情報を提供
- 被害者への相談しやすい環境を作る
- 無理

問 25 あなたは、セクシュアルマイノリティという言葉を知っていますか。(1つだけに○)

※セクシュアルマイノリティ(性的少数者):いわゆるLGBT(レズビアン、ゲイ、バイセクシュアル(両性愛)、トランスジェンダー(体と心の性が一致しない、違和感がある))等の、性のあり方が少数派の人々を広く表す総称。

セクシュアルマイノリティという言葉を知っているかでは、「言葉も内容も知っている」が47.6%、「言葉だけは聞いたことがある」が30.9%、「まったく知らない」が19.9%となっています。

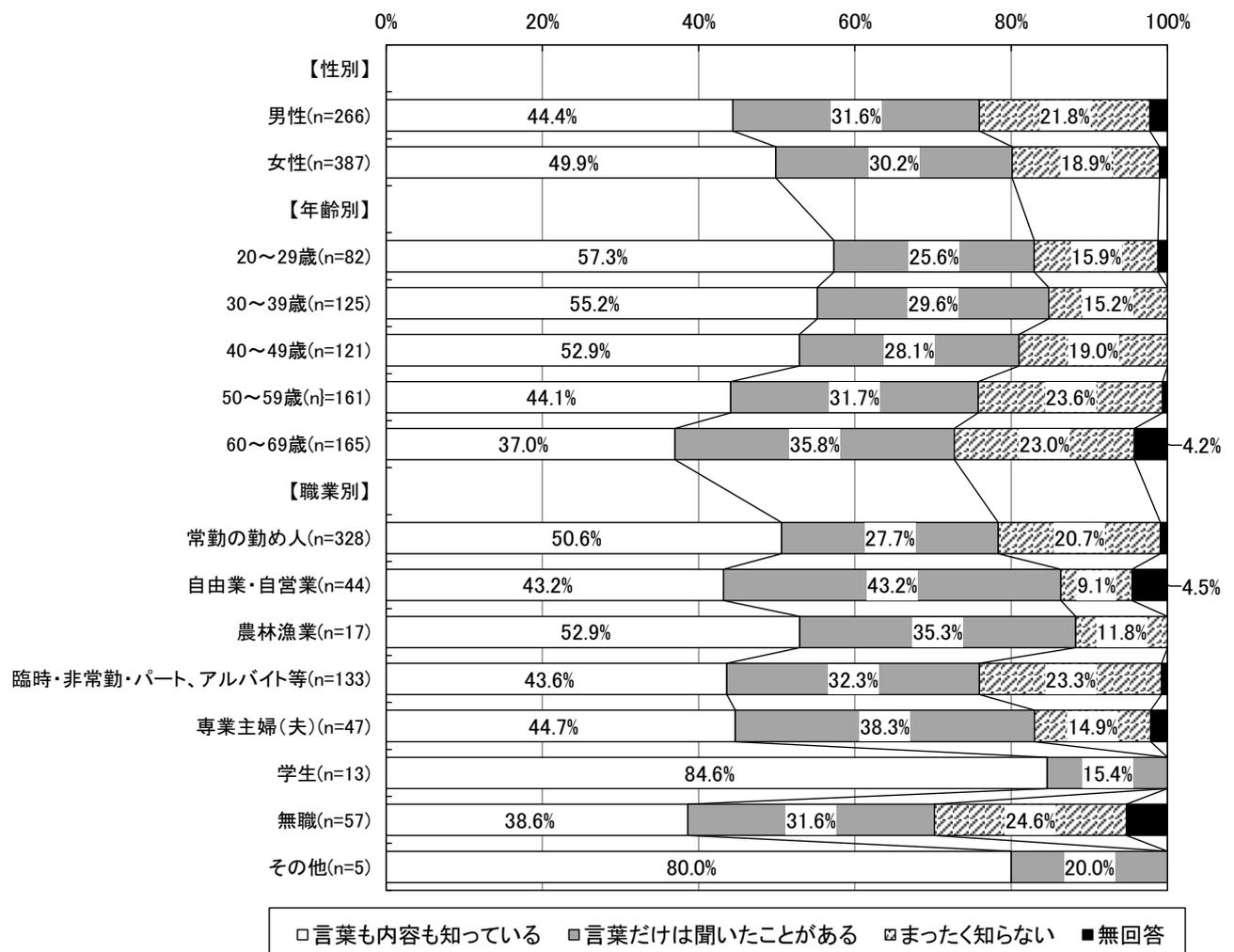


【属性別】

性別で比較すると、「言葉も内容も知っている」では、男性よりも女性が5.5ポイント多くなっています。

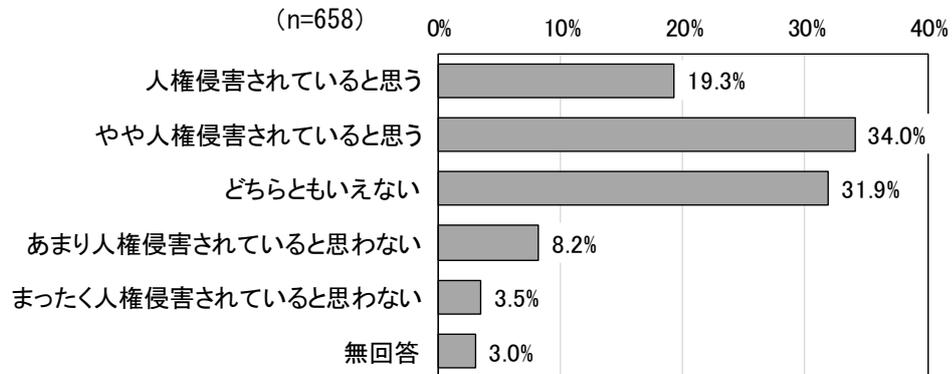
年齢別で比較すると、「言葉も内容も知っている」では、『20～49歳』が5割を超えています。

職業別で比較すると、「言葉も内容も知っている」では、「学生」が8割を超えています。



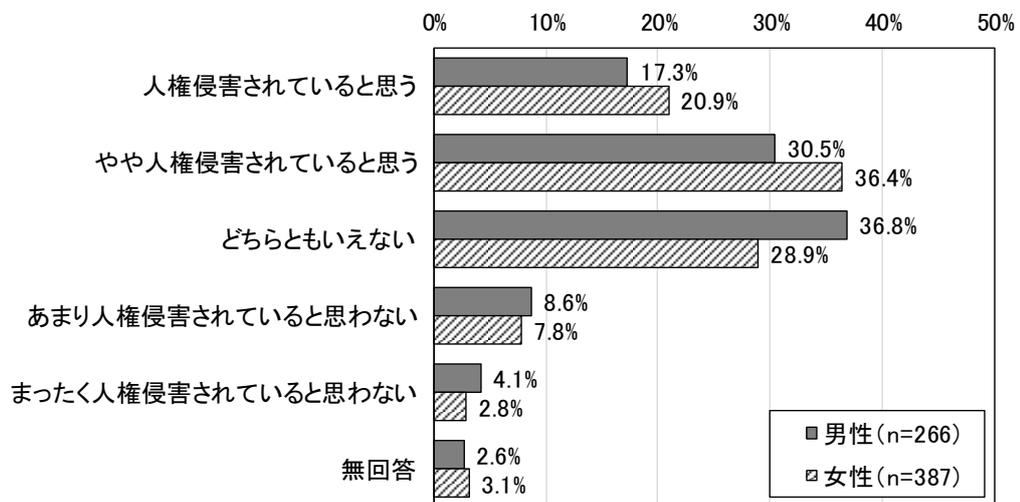
問 26 あなたは、セクシュアルマイノリティの方の人権は侵害されていると思いますか。(1つだけに○)

セクシュアルマイノリティの方の人権は侵害されていると思うかでは、「やや人権侵害されていると思う」が34.0%と最も多く、次いで「どちらともいえない」が31.9%、「人権侵害されていると思う」が19.3%となっています。



### 【性別】

性別で比較すると、「人権侵害されていると思う」「やや人権侵害されていると思う」を合わせた回答では、男性よりも女性が9.5ポイント多くなっています。

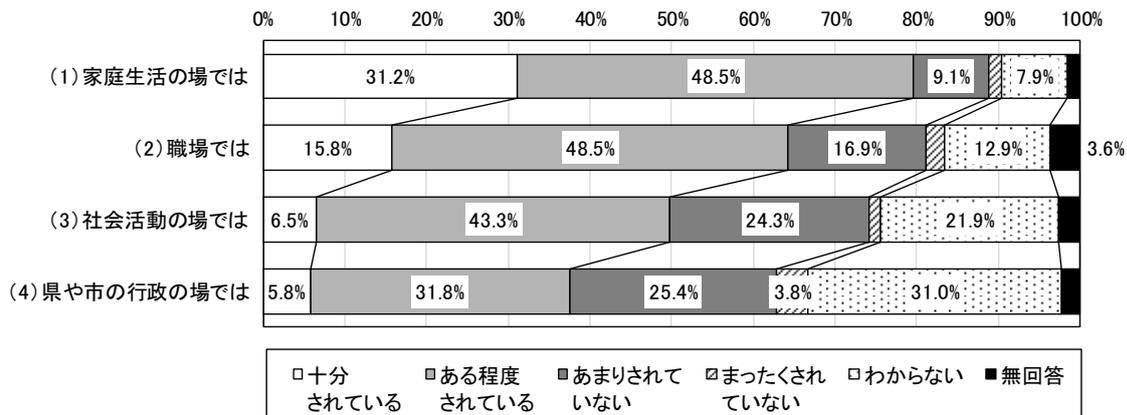


## 8. 男女共同参画社会について

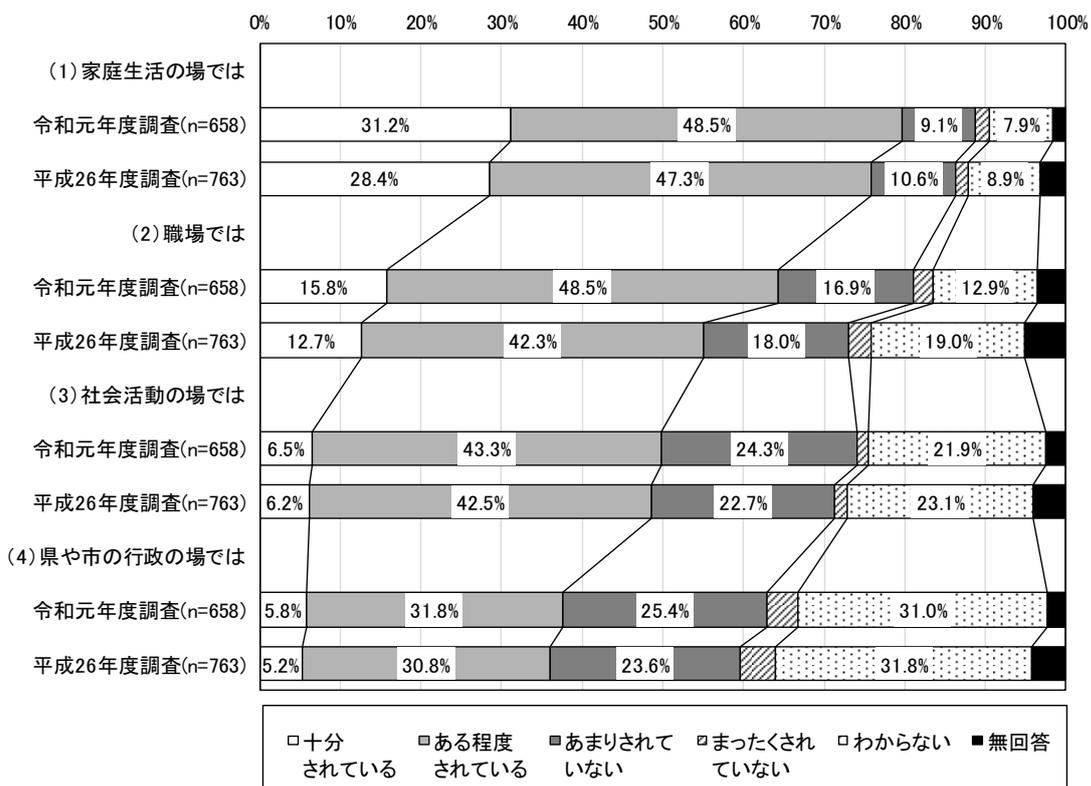
問 27 あなたは、生活における各種の場で、その方針や政策が決められるときに、女性の意見がどの程度反映されていると思いますか。(それぞれ1つに○)

女性の意見がどの程度反映されていると思うかでは、「十分されている」「ある程度されている」を合わせた『されている』の回答が多い項目では、「(1) 家庭生活の場では」が最も多く、次いで「(2) 職場では」、「(3) 社会活動の場では」となっています。

また、「あまりされていない」「まったくされていない」を合わせた『されていない』の回答が多い項目では、「(4) 県や市の行政の場では」が最も多く、次いで「(3) 社会活動の場では」となっています。

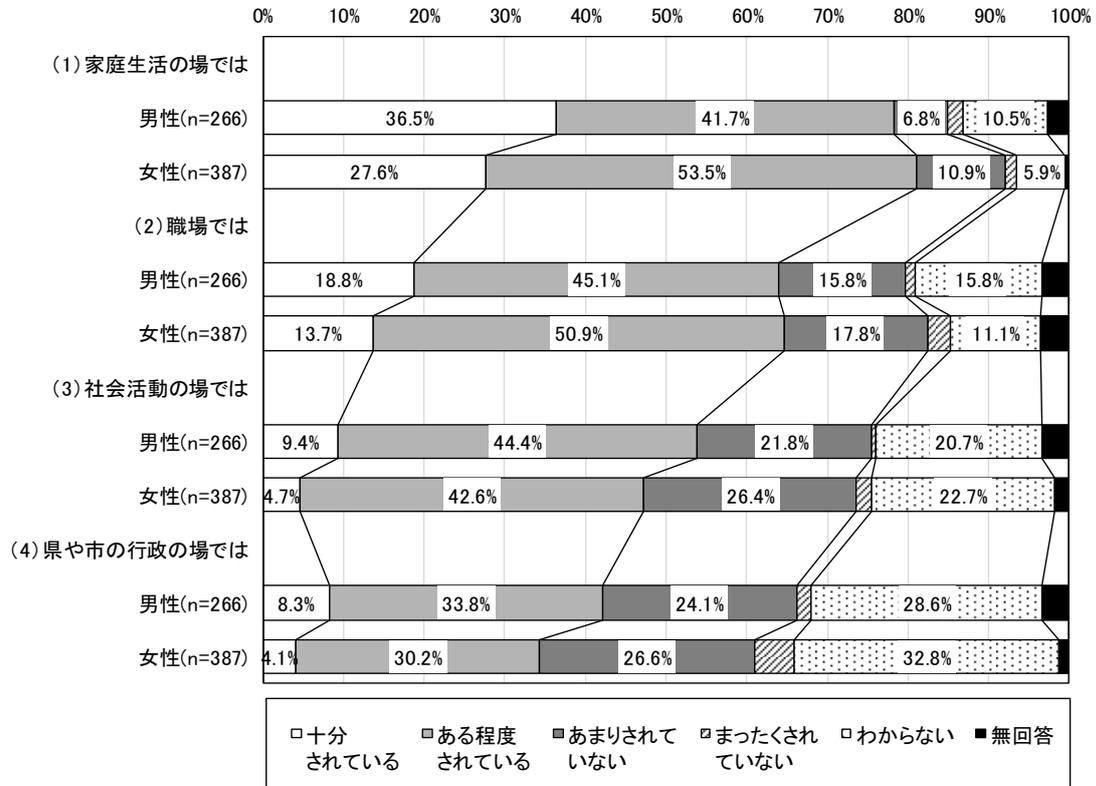


前回調査と比較すると、「(2) 職場では」で『十分(ある程度)されている』で9.3ポイント今回調査が多くなっています。



## 【性別】

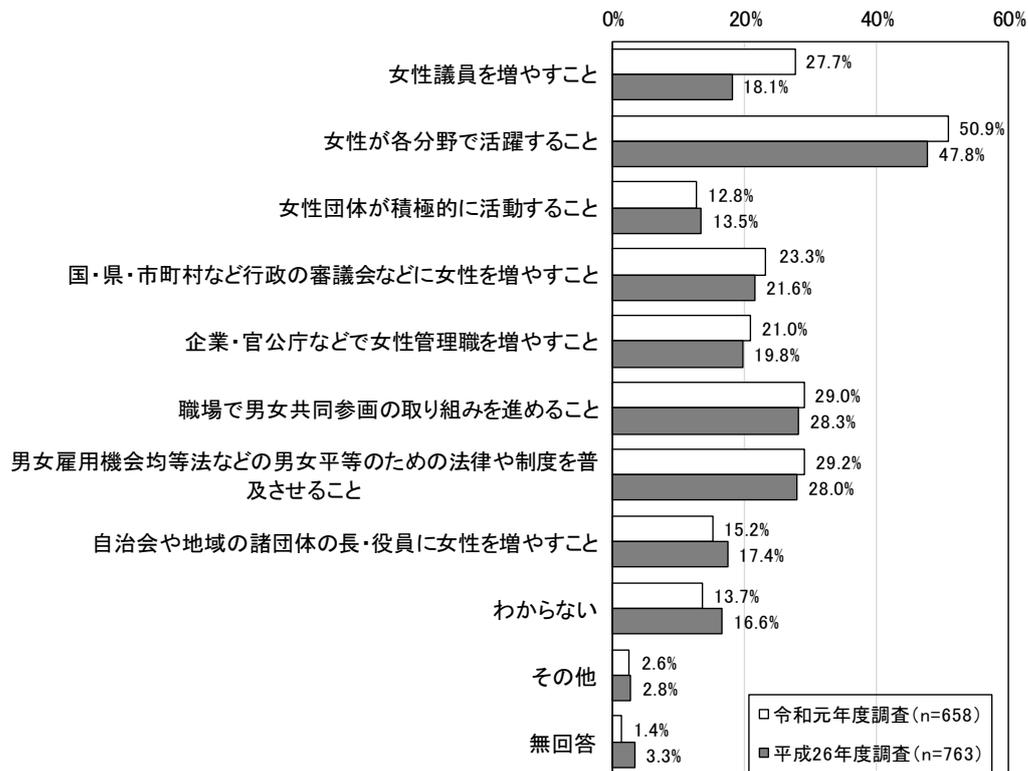
性別で比較すると、「(3)社会活動の場では」「(4) 県や市の行政の場では」で『十分(ある程度)されている』で、女性より男性が多くなっています。



問 28 行政や企業、社会的活動などの方針決定への女性の参画を図るうえで、どのようなことが大切だと思いますか。(3つまで○)

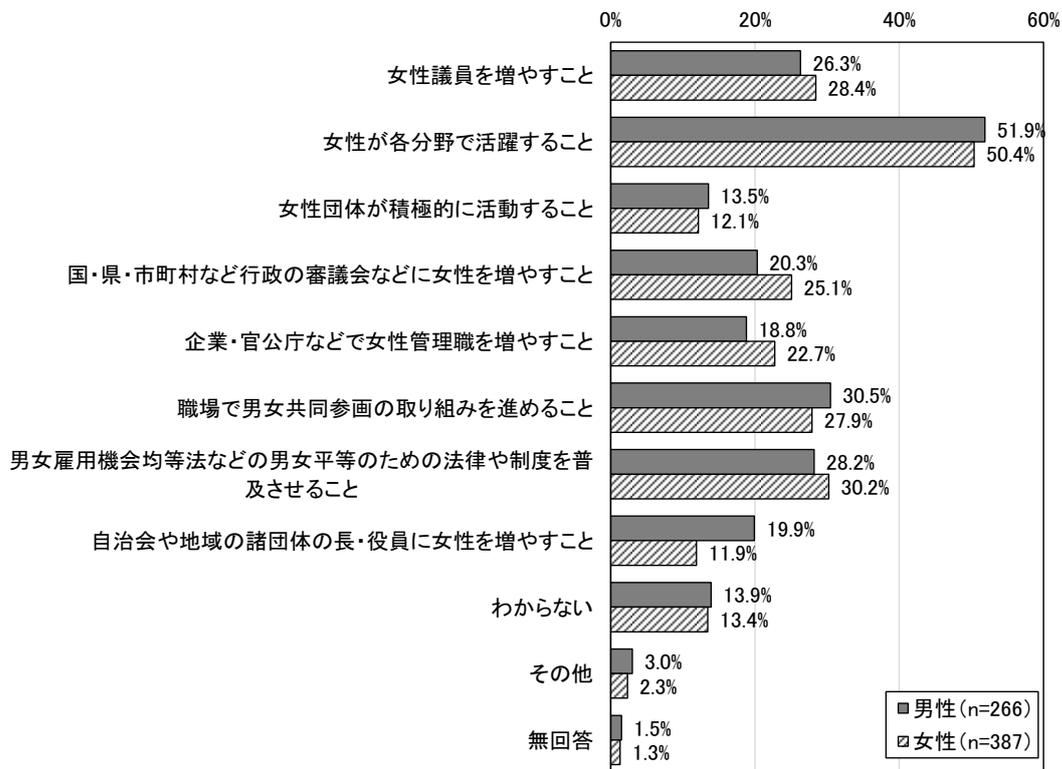
女性の参画を図るうえで大切だと思われることでは、「女性が各分野で活躍すること」が50.9%と最も多く、次いで「男女雇用機会均等法などの男女平等のための法律や制度を普及させること」が29.2%、「職場で男女共同参画の取り組みを進めること」が29.0%となっています。

前回調査と比較すると、「女性議員を増やすこと」が9.6ポイント、「女性が各分野で活躍すること」が3.1ポイント多くなっています。



## 【性別】

性別で比較すると、「自治会や地域の諸団体の長・役員に女性を増やすこと」が女性よりも男性が8.0ポイント多くなっています。



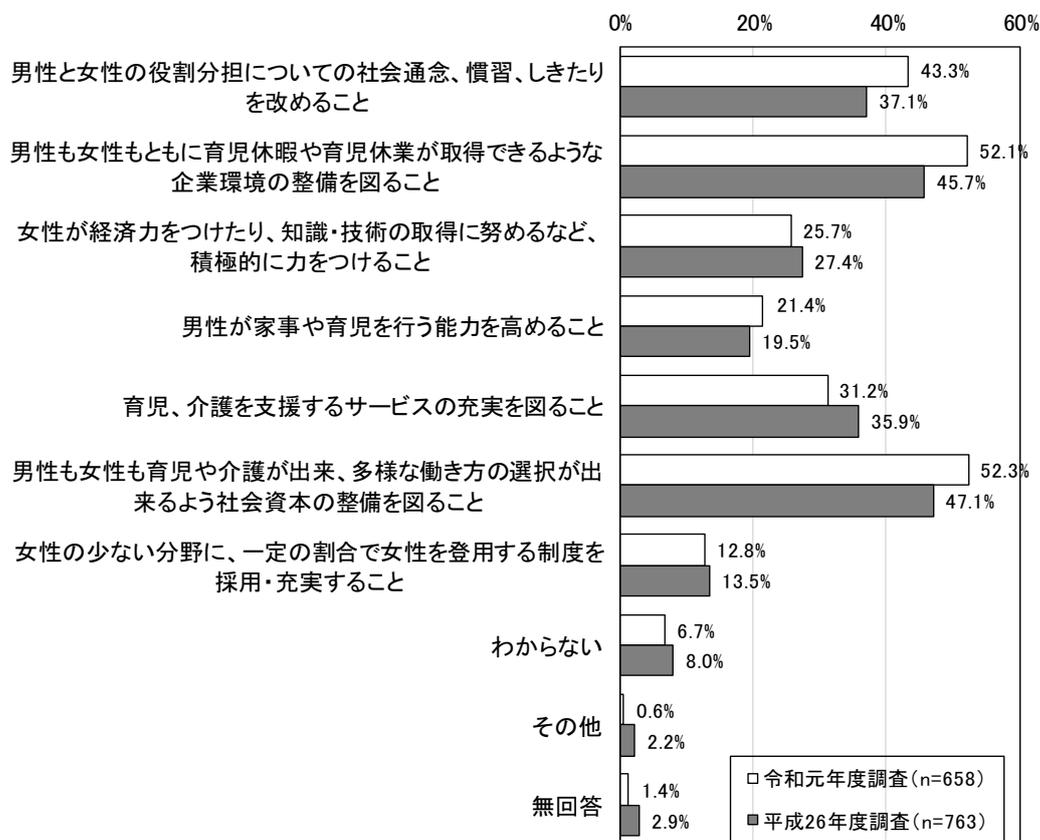
## その他の回答

- 1番は意識の問題。海外のようにはない。形だけ（ポストを増やす）やろうが男女問わず能力のある者が議員、管理職となるべき。
- 女性への教育
- 女性の意見を聞き入れる姿勢、特に年配男性
- ひとりひとりの意識の問題である
- 1～8全てが大切ではないでしょうか
- 男性が女性に対する意識を変えて尊うようにしないと何も変わらない
- 増やせば良いわけでもない。意識の問題もある。
- 男性と同じように、女性にも欲のある人がいる。できれば人を思いやれる人を増やしてもらいたい。
- 男性が家事をすること
- 増やすことを目的にするのではなく、平等な目を見た結果、女性の良さ、男性の良さ、それぞれ取り入れて行ければいいと思う。
- 能力があれば男女関係なくどんどんやれば良い
- 性別に頼らない、甘えない、個の人間、社会人として責任感を持つ事が大切。
- 強制力を持った法律で、管理職割合を男女半々にする
- 活躍している女性をよりクローズアップする世の女性があこがれるように。
- 不満のある人ではなく、積極的（前向き）な女性を④
- 男女ともに給与がアップし、休みたい時に休めたりする働き方
- 男性が女性視点に立つ事

問 29 あなたは、今後、男性も女性もともに社会のあらゆる分野に積極的に参画していくためには、特にどのようなことが必要だと思いますか。(3つまで○)

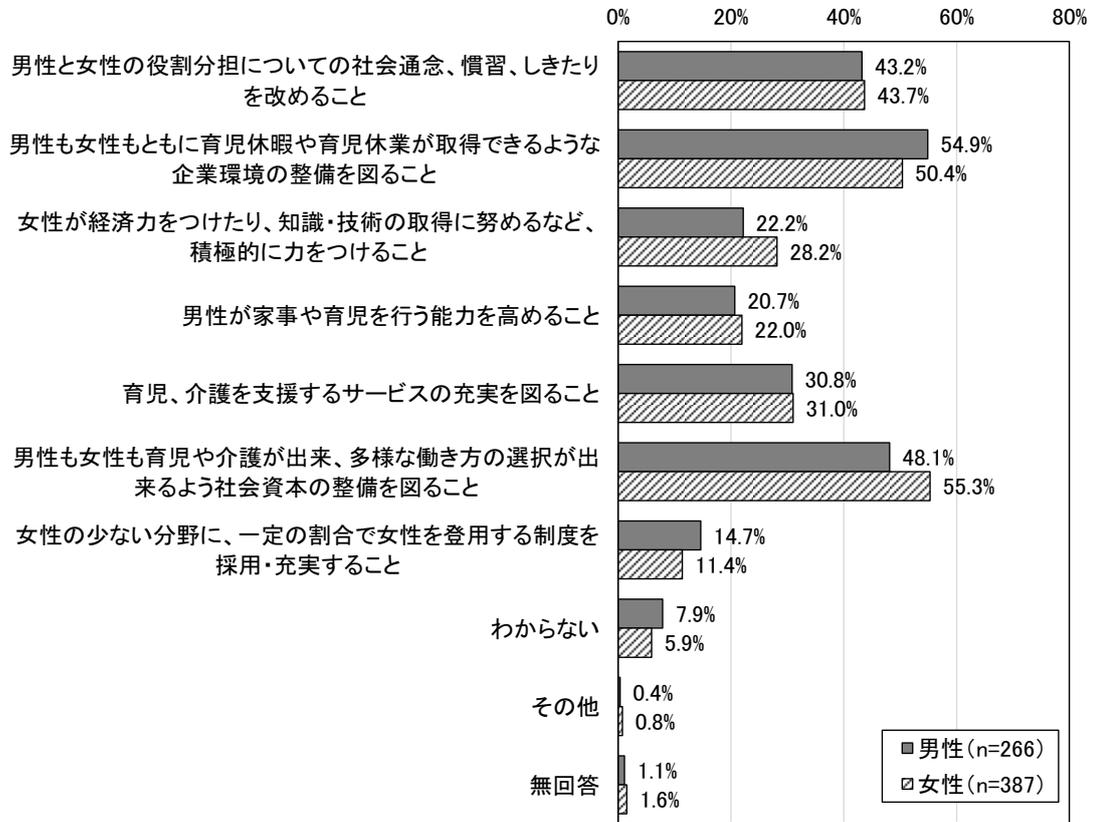
今後、男性も女性もともに社会のあらゆる分野に積極的に参画していくために必要なことでは、「男性も女性も育児や介護が出来、多様な働き方の選択が出来るよう社会資本の整備を図ること」が52.3%と最も多く、次いで「男性も女性もともに育児休暇や育児休業が取得できるような企業環境の整備を図ること」が52.1%、「男性と女性の役割分担についての社会通念、慣習、しきたりを改めること」が43.3%となっています。

前回調査と比較すると、「男性と女性の役割分担についての社会通念、慣習、しきたりを改めること」、「男性も女性もともに育児休暇や育児休業が取得できるような企業環境の整備を図ること」、「男性が家事や育児を行う能力を高めること」、「男性も女性も育児や介護が出来、多様な働き方の選択が出来るよう社会資本の整備を図ること」が今回調査で多くなっています。



## 【性別】

性別で比較すると、「男性も女性もともに育児休暇や育児休業が取得できるような企業環境の整備を図ること」、「女性の少ない分野に、一定の割合で女性を登用する制度を採用・充実すること」では、女性より男性が多く、「男性も女性も育児や介護が出来、多様な働き方の選択が出来るよう社会資本の整備を図ること」では、男性よりも女性が7.2ポイント多くなっています。



## その他の回答

- 男性脳、女性脳があり、その資質を認め合う事が必要。
- 母性を求めない、人間の本能を捨てる幼児教育の推進。子供らしさに乏しい無感情な人間の生成。
- 男性の家庭に入ることの偏見の改善
- 社会のあらゆる分野であなたの力が必要です。とうったえる。

問 30 あなたが日頃家庭や職場などにおいて、男女平等や男女共同参画について感じるがありましたら、お聞かせください。

記述 98 件を以下の分類にカテゴリー分けをすると、「③女性の社会進出や仕事に関すること」が 36 件と多くなっています。

カテゴリー	件数
①男女共同参画に関すること	11
②男女共同参画に関する市政について	7
③女性の社会進出や仕事に関すること	36
④家事や家庭に関すること	8
⑤子育てや子どもに関すること	5
⑥男女の役割や性差に関すること	10
⑦その他	21
計	98

①男女共同参画に関すること	性別	年代
■女性自身が積極的参加するよう努められたい。	男性	60歳代
■だいぶ男女平等が進んできている。	男性	60歳代
■男性、女性と性別ではなく能力優先の社会になれば良いと思う。	男性	50歳代
■男女共同参画の意味が分からない人が多い。	女性	40歳代
■「女性〇〇」と言う様な表現が嫌いです。男性にはつかないのになぜ？女性ランナー、女性議員、女性アナウンサー…この表現がいつかなくなれば良いと思う。それか、男性ランナー、男性議員、男性アナウンサー…同じように使って欲しい。	女性	50歳代
■男女平等、男女共同参画をプロパガンダのように変に道具にはいけないと思う。やるべきことを着実に進めていくことが重要だと思う。	男性	30歳代
■男女共同参画について、女性は今のままでは育児、親の介護、家事、そして仕事、どれだけ女性の負担が増えるのか?!と思う。	女性	50歳代
■社会全体として「男女共同参画」の意識が高まってきていること、良いと思います。後は実行をしていくことが大切であると感じます。	女性	20歳代
■男女平等、男女共同参画について、日頃考える事がありません。	男性	50歳代
■「男女平等」「男女共同参画」といわれつつも、社会や家庭内では実現する事が難しい現状であると思う。そのためにも様々なサービスや体制、一人ひとりの理解協力が必要なのだと思う。性別に関わらず、得意不得意など適材適所のようなその人が自分を活かせる活動ができれば良いと思う。	女性	30歳代
■男性女性それぞれの違いはあるが人間としてそれなりに共同参画できたら良いと思います。	女性	60歳代

②男女共同参画に関する市政について	性別	年代
■私の環境は充分男女平等です。家庭でも職場でも差別されているとは感じていません。しかし、社会全体で見ると、まだまだ課題があります。まずは制度をしっかり整え、周知し、十年、二十年先に結果がでるように意識を変えていくことが大切だと感じています。	女性	40歳代
■女性の意見をたくさん聞いてください。その情報を公開して下さい。問題を共有する事は大切です。	男性	30歳代
■男女平等になったら「結婚」する必要がなくなっていくと思う。行政が人の恋慕まで面倒をみなくてはならない現状についてとても悲しい。	男性	30歳代
■私たちより上の年代は「男は仕事」「女は家庭」という意識が根強いのではないかと感じます。社会の意識を変えていくためには(トップダウン的な)職場の環境改善と子供への教育の充実が求められるのではないのでしょうか。男女や老若の隔てなく互いを思いやる気持ちが尊重されるような社会となるように一人ひとりが考え行動していくことができるように自分もなりたいと思いますし行政の実行をお願いいたします。	男性	50歳代
■「扶養控除の範囲内」という条件が足かせになっている人がたくさんいます。制度の見直しを。	男性	30歳代
■通念を打破する為には社会基盤の拡充が必要と思う。	男性	20歳代
■女性の市議が少ないので多くしていただきたい。市民がわかるような団体をつくるべき！	女性	60歳代

③女性の社会進出や仕事に関すること	性別	年代
■私の職場男女とも仲良く働きます。男女共仲良く働くことが一番いいです。	男性	50歳代
■給与の差(年収の差がある)大企業は女性(一般職)の2～3倍以上男性の方の年収が高い。	女性	40歳代
■同じ仕事内容でも賃金が男性の方が高い。管理職には男性はなれるが女性はなれない。	女性	60歳代
■公務員という仕事柄比較的男女平等な職業だと感じてますが、それでも慣習等で差があることもあります。町の集まりではなおのことです。	女性	50歳代
■職場の役職は全て男性が就いているので、やはり男性が優遇されていると感じる。	女性	30歳代
■もっと楽しい職場でありたい。	女性	60歳代
■男、女に関わらず働ける能力や環境作り、教育が大切なのかなと思っています。	男性	30歳代
■同程度の仕事をしているのに男女で給与の差があるのはおかしい。	女性	40歳代
■仕事をしていないからわからない。	男性	60歳代
■女性が自立し、社会進出が進めば進むほど出生率が下がるのは当然、男女差をあらゆる分野でなくすという考えよりも各分野で男女関係なく適性のある人間が務めれば良い。	男性	40歳代
■若い人たちの方が男女平等の意識が強く、〇〇と家庭との両立をはかろうとしている(男女共)、年齢が上の人の方の頭がかたく考え方が古い。職場の上司は年齢層が上なので改善ははかれない場合が多いのでは・・・	女性	50歳代
■女性の管理職の数字をあげるために行う場合、昇進試験を受けるよう声をかける女性は独身であったり相方が別の職種であることが多いように感じる。なぜかバランスに欠けた方が管理職試験を受け合格し、力のある女性はなかなか管理職試験を受けたがらない傾向にあるように思う。	男性	50歳代
■まだまだ女性の社会進出は少ないと感じます。つながりを一層深め、より良い社会を築いていきたいものです。	女性	60歳代
■家庭、職場どちらも女性が発言しにくい環境にある。	女性	40歳代
■職場においても、この様な事は話にも出てきません。	女性	60歳代

③女性の社会進出や仕事に関すること	性別	年代
■どんどん女性が前へ出てくれるよう願う。	男性	60歳代
■仕事を辞めたカミさんの話をずーっと聞いてあげたり、支援（仕事や楽しみ事等）してくれる窓口をもっと作って下さい。	男性	50歳代
■男性と女性では力の差もあり、全て同じように平等にという事は無理なので、できる限り協力しあい、お互いに認め合えることのできる社会になるといいと思います。男女お互いに収入を得る事ができないと、女性は立場が弱いと感じてしまいます。…と思います。	女性	50歳代
■男の人の方が同じ仕事していても多いのがちょっと違うと思います。同じでいいと思います。そこが平等でないです。	女性	60歳代
■くるみんマークを取得している企業であっても、子育て中の女性は昇進の機会が乏しく、賞与などの人事考課でも評価が低くなりがちです。北欧や欧米などのように国全体で取り組む必要があると思います。現状では、男女共同参画はあまり進んでいないと感じています。	女性	40歳代
■職場で同じ仕事をしているが非常勤な為最低賃金でなかなか上がらない。	女性	50歳代
■男女平等より職場のいじめに対し生活があるので辞める事もできず、これが現状です。	不明	40歳代
■市役所だけが立派な街でいいのでしょうか?!沼田で働きたくなるような環境作りをしてほしい。若い男女が働き、また楽しめる町にして下さい。	男性	60歳代
■今は少しずつ上司に意見が言えるようになってきた。後、何年働けるか?	女性	60歳代
■女性がつける職業が少なく賃金も低いので男女の役割ができてしまっている。	男性	60歳代
■職場には女性の主任・管理職がおらず、男性がほとんど市議会議員においても女性が少ない。	女性	20歳代
■私の知っております会社では、能力の無い女性が役職になっており、若い女性やや男性がとても働きづらい環境になっている。	女性	50歳代
■建設、建築現場への女性進出は無理が多いので全ての仕事で均等になるのは不可能だと思う。	男性	50歳代
■女性がつける職業が少なく賃金も低いので男女の役割ができてしまっている。活躍する機会を増やすべき。女性自身も「女性だから…」という固定概念を持つてはいけないと感じる。	男性	20歳代
■少子高齢化が進む中、今少しずつ女性の社会進出が進んでいます。100年後には日本の人口も5000万人となり国も破綻しそうです。もっと子どもを育てる環境を改善するの必要を感じます。教育費の無償化はもとより女性を応援しないと。	男性	60歳代
■男性、女性の従来の枠を超え、この仕事は女性の仕事、この仕事は男性というふうにとらわれず協力してやっていけたら良いと思います。	男性	50歳代
■仕事の面や社会活動などでも男性は能力があり知識もあると考える人がまだ多い世の中です。慣習しきたり、考え方を改めていかなくては変わりません。	男性	50歳代
■日本は本当に男性中心の社会であって、女性が社会的に活動すると負担や無理ばかりになって心打たれることが多いです。女性がものすごく頑張らないと得られない平等なんて本当の平等じゃない・・・根本を変えないと。	女性	50歳代
■男性が高い地位に就くほど女性が家にいないと家庭がまわらなくなり、仕事も制御しないとイケなくなり、私は今やりたいことができない状況です。家庭の問題でもありますが、、、まだまだ(仕事)「男性が稼いで女性が家庭を守る」という方向になってしまいがちなのかなとひしひしと感じます。	女性	30歳代
■自分は恵まれた環境にいる方だと思うが、子どもにとって母親は絶対的存在。子育て世代の女性の社会進出については難しいところがあると思う。本人のパワーがなくてはできない。	女性	30歳代
■男性だから・・・女性だから・・・という考え方は性別が違うので仕方ない部分もあると思う。働く女性が増えている中でお互いに協力し合う事で女性が仕事を続けられるようになると思うので、社会での理解が得られるような取り組みがされれば良いと思う。	女性	30歳代

④家事や家庭に関すること	性別	年代
■自分の時代は結婚したら家事、育児は女性の仕事だと思い、共働きしながら大変な思いをしてきました。しかしながら息子は結婚して家事、育児を積極的にあたりまえのようにやっています。若い人は言われなくてもやっています。できないのはやはり50代からです。	女性	50歳代
■男女が平等になるために、女性の経済的な自立と男性の家事、育児への積極的な参加が大切だと感じています。難しい事もありますが、少しずつ改善や努力することで良くなるのではないかと思います。	女性	30歳代
■私の親世代から上になると女性が家のことをやるものといった古い考えが強いと感じる。世代での意識の差は非常に大きい。若い人の意見も取り入れて欲しい。	女性	30歳代
■家庭においては妻の意見に従って(なるべく)良い意見を聞くようにし優先する事にしているので問題は発生していない。	男性	50歳代
■我が家では、夫がだいが家事を分担してくれるようになったが、やはり仕事が優先である。自分は終わらなくても時間で仕方なく帰宅して夕食の用意。若い人を見ているとけっこう男性が家事に積極的な家庭も多いように思うので時代とか教育とかにより改善されてきているように思う。が、やはり何十年も連れ添った間柄や世代によってはなかなか夫婦の関係性って変わらない気がします。	女性	50歳代
■結局家事は女性ばかりがする慣習が強いと思う。仕事をしていても、帰宅後家では女は動いて男は何もせずテレビを見ている。	女性	20歳代
■家庭生活において男性、女性それぞれの考え方がるため男性が育児や家事に参加することは個人の意識が重要になると思います。	女性	30歳代
■お父さんお母さんの役割みたいな昔のイメージは残しつつお互いを大切に、思いやりのある背景があれば、どちらがやらなきゃということはなく、同じくらいではどうしても無理が出てしまう。	女性	50歳代

⑤子育てや子どもに関すること	性別	年代
■共働きでも、母親の方が子育てで教育に関して苦勞をするのは当然だという考えが残っている。	女性	30歳代
■本能的に育児ができる女性と男性が平等に育児をするのは難しいけど育児はできるはず!女性が仕事+育児+家事なのに対し男性は仕事+育児ちょっとなのは女性がただ大変になっただけで、男が外で仕事、女性は家だった時の方が良かったのでは?と思う。	女性	30歳代
■子供が体調をくずした時は母親が仕事を休んで看病する…というのがほぼあたり前になっているように感じます。男性も育児に協力的になれる様にと感じます。男性も育児に協力的になれる様な社会的しくみがより充実したら良いと感じます。	女性	40歳代
■子供が病気の際は母親が休み面倒をみる事になる、一日で治ることもなく、何日か仕事を休む事になり、職場に行けば謝罪まわりと精神的に辛い。働くことで活躍というよりも周りに迷惑ばかりかけている気持ちになってしまう。	女性	30歳代
■若い女性(若いお嫁さん)が暮らしやすい地域になると出生率も増加するのではないかと考えています。	女性	50歳代

⑥男女の役割や性差に関すること	性別	年代
■男女の会話が少ないのでお互いの意思疎通ができていない。	男性	20歳代
■男女同権ではあるが同種ではない。このことを十分に考慮した施策を検討して欲しい。以上	男性	40歳代
■我が家は妻と協力し、今まで穏やかに過ごしてこれたがよく聞く話は嫌な話が多い。特に男性の私の強さが支障となっているケースがほとんど。教育の段階から平等を。そして愛を。	男性	40歳代
■女性、男性でいうよりも性別の差をつけない方が良いのでは。	男性	50歳代
■男女平等と言っても、体形的に男性にまさるのは難しいと思いますし、女性だからしなくて良い事もあるので、私自身そこまで男女平等にこだわっていません。女性に生まれて良かったと思う事の方が多いです。	女性	30歳代
■男女平等と言うけれど、男性と女性では体のつくりも違うし、考え方も違う。お互い違うことを認めて、それぞれの良さをお互いに尊敬していれば問題ないと思う。それぞれに（男女関係なく）得意な事、良い所を伸ばしていけばいいと思う。	女性	20歳代
■女性であれ男性であれ、その人の持つ能力に対して、お給料が発生しています。LGBTの様に、性は多様化の時代ですが、女性である事で「損をしている」と訴える人が多数居る事を残念に思う毎日です。	女性	40歳代
■男女平等と言いきりすぎなのでは？違う生き物なので役割分担が必要だと思う。「女は」とか「男だから」と口にする人がいなくなれば良いと思います。	女性	40歳代
■若い人の意識はだいぶ変わっていると思うが、やはり男性特有の傲慢な意識、性格が変わらないと家族ではなかなか難しいと思う。	女性	50歳代
■男女の適切な役割分担と互いに相手を尊重することではないでしょうか。私も沼田市の取り組み、一緒に考えていきたいと感じます。	男性	30歳代

⑦その他	性別	年代
■男女のそれぞれの特性をいかしお互いに補い合い認め合うというスタンスが大切かと思えます。	女性	60歳代
■皆さまの答えを必ず役に立たせて下さい。アンケートで終わりにしないでください。	女性	50歳代
■この調査は男性メインで作成されているのでしょうか？セクシュアルマイノリティの人々など性別関係なく作成しているのでしょうか？	女性	20歳代
■男女ともにお互いが思いやる心があれば平等に近づく事は可能かもしれない。	女性	50歳代
■設問のいくつかは平等や共同を前提として否定していると感じ、設問項目が不愉快に感じました。	男性	50歳代
■何事も一方的ではなく話し合う事が大事だと思います。	男性	60歳代
■年令の高い人は頭がかたいと思います。時が解決するような気がします。	男性	40歳代
■私たち夫婦は高齢なため、出来るだけ子ども達に迷惑をかけずに少ない年金で余生過ごす事のみですが、まわりを見ると感じるのは、今の男性は夢がなく、只々一日を過ごしているように見えて残念。	女性	60歳代
■男女の前に人間としての問題が大切だと思う。人間関係の難しさに悩む者より。	女性	60歳代
■この様なアンケートを実施するが成果がない。税金のムダ使い。	男性	50歳代
■会社で役員や偉い立場な男性が多いのは理解できますが、偉いからといって女性の発している言葉や行動を頭から否定したり、自分の機嫌が悪いと、女性にあからさまに圧をかけて精神的不安にさせるような言葉は使ってほしくないです。	女性	30歳代
■年金生活者には、あまり関係ない調査ではないでしょうか。	女性	60歳代
■接客業ですが、お客様から男女平等で危ぶまれるような発言もされることもあり、年代も上の方が多く、高齢化社会ではより根本的に男尊女卑が根付いてると思う。そうそう解決できるものではない気がするし、すごく生きづらいなと思います。	女性	20歳代
■それぞれに人権を侵害する事なく人生を送られたらいいと思います。	女性	60歳代

⑦その他	性別	年代
■このアンケートについて、全体的にあいまいに感じた。質問をもっと分かり易く、具体的にすべきだった方が良かった。結局市民の何が一番聞きたかったのか？	男性	40歳代
■お茶は女性が入れた方がうまい！！男女の平等を誤解しないでほしい。その場そのときどきで判断すべし。給料は女性の方が安いのはなぜ？パワハラ、セクハラは互いの信頼があれば大丈夫である。沼田は100年、おくられていると思う！！	女性	50歳代
■女性のみの閉鎖的な環境もかなり悪循環。	女性	50歳代
■この様なアンケートがあること自体、男女平等がなくならないと思います。男も女も同じ人間なので平等は当たり前の中にならなければいけないと思う。	女性	40歳代
■若い時の夫婦と60歳の定年を迎えての夫婦はまったく違います。一日、一日を大切に生きて行く事を望んでいます。夫婦⇔人との関係だと思います。男、女も平等です。	男性	60歳代
■私は現在58歳で子育ても家事もそれなりに頑張って来て社会的にもいろんな経験を積んできましたが、働きたいのに雇用少なく苦しい生活をしています。もっと高齢の雇用を増やして下さい。	女性	50歳代
■私はセクシャルマイノリティ(バイセクシャル)です。以前、女性とお付き合いしていましたが、今の世の中では幸せになれないと思い諦めました。たぶん、もう男性しか付き合いません。もっとLGBTに理解のある世の中になってほしいです。	女性	20歳代